

わが国唯一の
空飛ぶ円盤専門誌

UFOと宇宙 第17号 昭和51年4月1日発行(年6回刊) 第3巻第17号 昭和50年2月28日国鉄首都特別扱承認雑誌第21

UFOと宇宙

UFOs & SPACE
隔月刊・1976・4月号

UFOと宇宙科学
★★★★★★★★★★

本誌特別取材 巨大円盤横須賀に出現! 円盤の窓に動く人影がー
奇蹟を起こす方法 ●宇宙人とコンタクトするには●
UFOは地球救済に来るのかUFO平和部隊パトロール中 オットー・ワインダー
ーオランダの大超能力者ー
ピーター・フルコスの驚異的大発見! B・スレート

No.17



アポロ飛行士の頭上にUFO!

宇宙飛行士は月面で円盤基地を撮影していた? (詳細口絵)

近日発売
UFO写真300とその解説!

世紀の謎をとらえる!

世界のUFO 写真集

高梨純一
編著

B6・美麗カバー付308頁 ￥1500

世界各国で撮られた驚異のUFO写真を
広く収録・網羅し、体系的に構成・収録
すると共に、その1枚1枚に精細・正確
な解説とデータを付した、まさしくUFO
写真集の総まとめ的決定版。円盤ファ
ン、専門研究家にとってはまさしく貴重
な写真資料集として必備の書といえる。

写真／一二〇頁 極上ア
ト紙使用 収録写真三〇〇
枚(カラー六枚)
解説／8P2段組一八〇頁

●空飛ぶ円盤シリーズ●

空飛ぶ円盤実見記

G・アダムスキ・D・レスリー 980円

空飛ぶ円盤同乗記

G・アダムスキ・久保田八郎 980円

空飛ぶ円盤の真相

G・アダムスキ・久保田八郎 900円

空飛ぶ円盤の秘密

T・ベラサム・久保田八郎 850円

空飛ぶ円盤とアダムスキ

久保田八郎編 980円

空飛ぶ円盤は実在する

A・ミッシェル・田辺貞之助訳 900円

●東京都文京区本郷5-30 振東6-141750●

高文社

●京都市左京区百万遍 振京23523●

全国書店で絶賛発売中!! ★ ★ ★ 《ユニバースUFOシリーズ》第1弾!

海外の著名なUFO関係図書をUFO問題に精通した名訳者の集団による流麗な日本語版として全国UFOファンに贈る《ユニバースUFOシリーズ》。以後続々刊行の予定。

私は円盤に乗った!

驚異のホワイトサンズ事件 ￥750
¥160

ダニエル・フライ / 久保田八郎訳

(付録)宇宙人アランのメッセージ/進歩の曲がり道/原子・銀河系・理解

ダニエル・フライ / 藤間弘道訳

1950年7月4日夜、米ニューメキシコ州ホワイトサンズのロケット実験場に突如一機の円盤が着陸し、内部から響く不思議な声に誘われて乗り込んだ科学者フライは、ニューヨーク上空までを30分間で往復する! その間、円盤の推進法や宇宙人の故郷と超絶した科学、哀れな地球の現状等を知らされるというこの驚異的事実物語は、本誌第2号に掲載されて当時の読者を熱狂せしめたが、いま新装なった単行本として同著者によるすばらしい関連記事3篇をあわせ収録し、あらためて読者に贈る! UFO研究者必読の書。

パプア島の円盤騒動

宇宙人の劇的出現事件 ￥750
¥160

ノーマン・クラットウェル神父 / 増野一郎訳

F・ラガルト / 久保田八郎訳

ゴードン・クレイトン

(付録)フランスの怪奇・火の玉UFO事件 / 多条光線を放つ円盤

ニューギニア島パプアで1959年に一大UFO出現ブームが発生した。島内の各所に円盤が低空で降下し、堂々と姿を現したが、特にボイアナイにおける出現は劇的であった。地上数十メートルの位置に停止した円盤の上部から数名の“人間”が、歓声をあげて手を振る島民たちに手を振ってこたえる。この驚異的事実を現地在住のクラットウェル神父が徹底的に調査報告し、大事件の全貌を克明に伝えたすばらしいドキュメント! 更にフランスで発生した世にも不思議な「火の玉UFO事件」と「多条光線を放つ円盤」の他4篇を掲載してUFO研究家必備の資料とした!

書店で入手できない場合は、直接当社へ現金書留か振替でご注文下さい。
〒110 東京都台東区秋葉原3-3 アキバビル 振替東京1-119478 ☎(255)8784(代表)

ユニバース出版社



□絵 月面の謎 アポロ飛行士が撮ったUFO写真初公開!

巨大円盤 基地の町横須賀に突如現れた大UFO!
燦然と輝く物体の内部に人影……? 8
本誌特別取材 **横須賀に出現!**

□ジャーズ声明の真相 異常な売名屋による大失敗! 19

UFOは地球の救済に来るのか 20
恐るべき大変動に直面しようとする地球
を“UFO 平和部隊”が目下パトロール? オットー・B・ワインダー

アポロの飛行士は月で地球外文明を見た? 26
中津要二

近世日本文学の巨匠西鶴が描く“飛乗物”とは?
井原西鶴の作品に現れるUFO 篠田弘史 30

中国上空のアダムスキー型円盤 田島 敏 34

三朝町のUFO出現騒ぎ 梶川 満 38
ダイヤのブローチ状に輝く謎の光体!

S-I(宇宙人)とコンタクトするにはどうしたらよいか!
奇蹟を起こす方法 44
テッド・オーウェン

■新しい物理学の夜明けを考える
超光速粒子タキオンは存在するか 狩野幽邃 52
〈写真〉奈良県金剛山に現れるUFO 57

UFO目撃レポート 58 / **UFO情報** 66 / **科学ニュース** 72

=円盤工学= 負エネルギー操作 島中 宏 79

人体極性と重力場エンジン 唐沢宏之 80

ピーター・フルコスの驚異的大発見! 81
B・アン・スレート
オランダの生んだ世紀の大超能力者が各種UFO事件を100%透視した実話

〈写真〉小学生がUFOキャッチ 91

声—OPINIONS 92 〈表紙写真説明〉
アポロ飛行士の頭上にUFO! 96

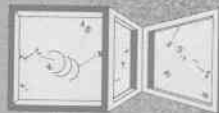
本誌既刊号掲載記事目次一覧 100



「小学生がUFOキャッチ(P91)」より



目次イラスト 松岡吉樹
本文イラスト 池田雅行



月面の謎

アポロ計画！それはまさに人類の最大の冒険であった。千古の謎を秘めて宇宙空間に輝く月世界へ人間を到達させたこの壮大な実験により二十世紀の科学は高らかに凱歌を奏し、神秘のベールは外されて処女の素肌が展開した。

しかし、ミステリーは残った。宇宙飛行士たちは月面上空のUFOを撮影していたのである！彼らはなぜこの事実を秘したのか？UFO基地とおぼしき建造物、月をとりまく大気、その他不思議な現象を示す多数の写真をなぜ当局は眠らせたのか？

この驚異的な一連の写真は本誌が特殊なルートを通じて入手した本邦初公開の貴重な記録である。

写真中央左に巨大な構造物が写り、その構造物を中心に放射状および環状に道路が走っている。自然現象によって月面にこのような景観が生じるとは考え難い。アポロの飛行士はUFO基地を撮影していた！





上の写真は表紙写真とほとんど同じ時刻に同じ位置から撮影されたものだが、上の写真では手前の月表面が明るい光に照らし出されている。これは表紙写真で飛行士の頭上にあったUFOが手前に移動し地表に光を投げかけているのではなかろうか。

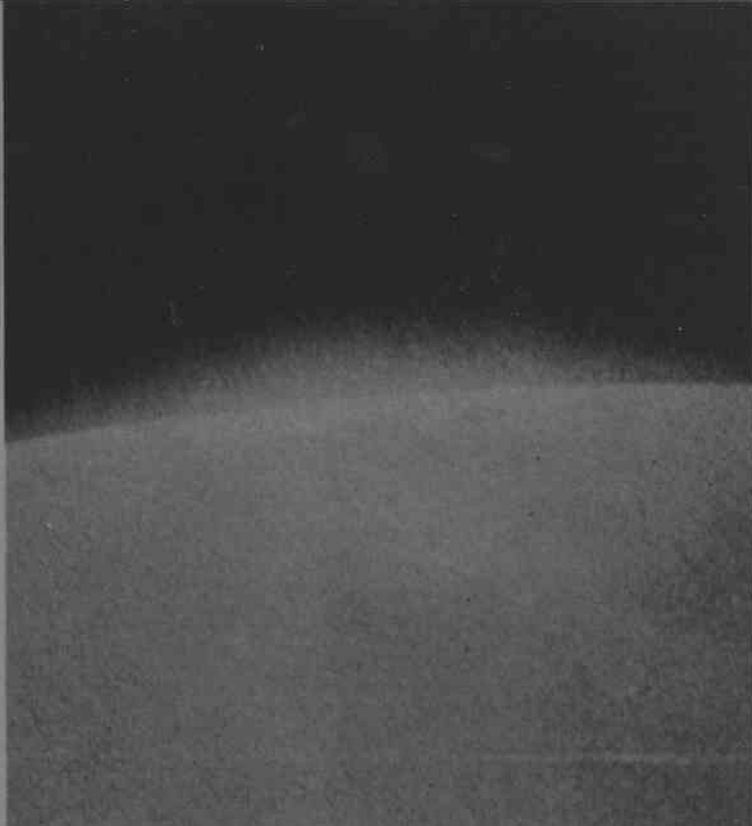
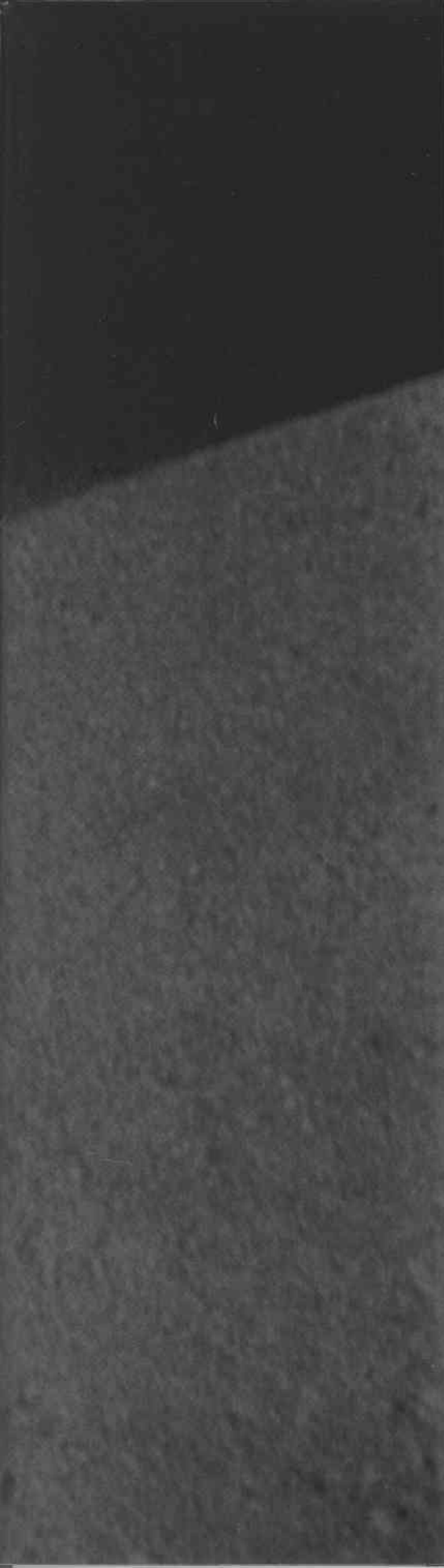
**アポロの飛行士たちは
UFOを撮影していた!**

**月 面
の 謎**



月面上空を飛行中のアポロ宇宙船から撮影した
これらの写真にはUFOらしき光体が写っている。
いずれもNASAの公表写真には含まれていない。





上と左の2枚の写真は月の周回軌道を回るアポロ機械船から撮影したもの。月の地平線上に乱反射が起きている。下のクレーターの写真にも乱反射による特有の現象が生じている。



月面に大気が—

月 面 の 謎

我々の知識の範囲内では月の引力は地球の6分の1。したがって大気が生じたとしても宇宙空間に逃げてしまい月表面に大気はほとんど存在しないはずである。しかしこの写真には大気存在を思わせる光の乱反射がとらえられている。アポロ以後も我々は真実を知らされていないのであろうか。

巨大円盤

本誌特別取材

横須賀に出現！

横浜商工

基地の町横須賀に突如現れた大UFO！
燦然と輝く物体の内部に人影……………？



●最初の目撃者、鈴木真智子さん

「最初、なんか夢みたいな感じだったの。アレーッと思って何だろう、もしかしたら円盤じゃないかなと思った」。鈴木真智子さん（二十三歳）は発見したときの感想をこう語った。正月の夜空に浮かぶ巨大な円盤は想像を絶する美しさだったという――

この事件は今年（一九七六年）一月七日午後九時七分前、横須賀市追浜町にあるレストラン「かおり（鈴木実さん経営）」の上空で発生した。

いつもと同じようにレストランの仕事をしていた責任者の鈴木真智子さんは、突然キューンという鋭い金属音を聞いた。すぐ近く、しかも店の真上らしい。驚いた鈴木さんが外へ飛び出してみると、東南の上空に赤い小さな光が不思議な運動をしながら飛んでいるのが見えた。

「まったく止まらないのね。急に止まったり下がったり上がったり、また少し行ったら止まったり下がったり上がったりして……そんなに速いスピードでは

ない。星かな？」と思ったけれど星じゃないみたい。

なんだろう。あれの音が聞こえたのかなと思いつながら赤い光を目で追ってゆくと、その横にすごく大きな物体が空中に浮かんできた。

突然の事に夢ではないかと思った鈴木さんは「一人で見るよりも、みんなの目の方が確かだから」と思い、「みんな来て、来て、来て」と叫びながら店の中へ駆け込んだ。

そのとき店の中にいたのは従業員の大原孝之さん（三十二歳）と及川浩美さん（十八歳）、それにお客の前田さんとヤギヌマさんの計四名。「ソレっ」とばかりに全員で外へ飛び出したら、店のすぐ横にある天神橋へと駆けつけた。

鈴木さんの指し示す北西の方向を見上げると、よく晴れた夜空にくっきりと浮かぶ金色の巨大な円盤が一機、高い金属音をたててゆっくりと上下に波打ちながら北西の方へ移動している。店を長くあけてはいけなさと考えて

すぐにもどった鈴木さんを除く四人は円盤が店の裏（北西）にある和田山を越えて消えるまでの約二分間、興奮気味にそのすばらしい光景をながめていた。

た。近くに海軍基地や民間の大工場を控えるここ追浜は意外と小さく、人通りの少ない静かな町である。

以上が目撃者の話による事件の概要である。

インタビューは目撃者の鈴木真智子さん、大原孝之さん、及川浩美さんの三名に真智子さんの父親でレストランの経営者でもある鈴木実さん（五十四歳）と妻の多寿子さん（四十八歳）を交えて鈴木さんの自宅で行われた。特に目撃者の三名に関しては各自で絵を描いてもらい、それに対する質問をするなど徹底的なインタビューを試みた。

飛行機のコースではない

私たちが通された部屋の机の上には鈴木実さんがみんなの証言をもとにして描いたという一枚の絵（図1）が置かれてあった。色エンピツで丁寧に描かれたその絵を囲むようにして座り、一同（都合により及川さんは遅れて到着する）は話を始めた。

からこれを見ていたの、ズーッと」

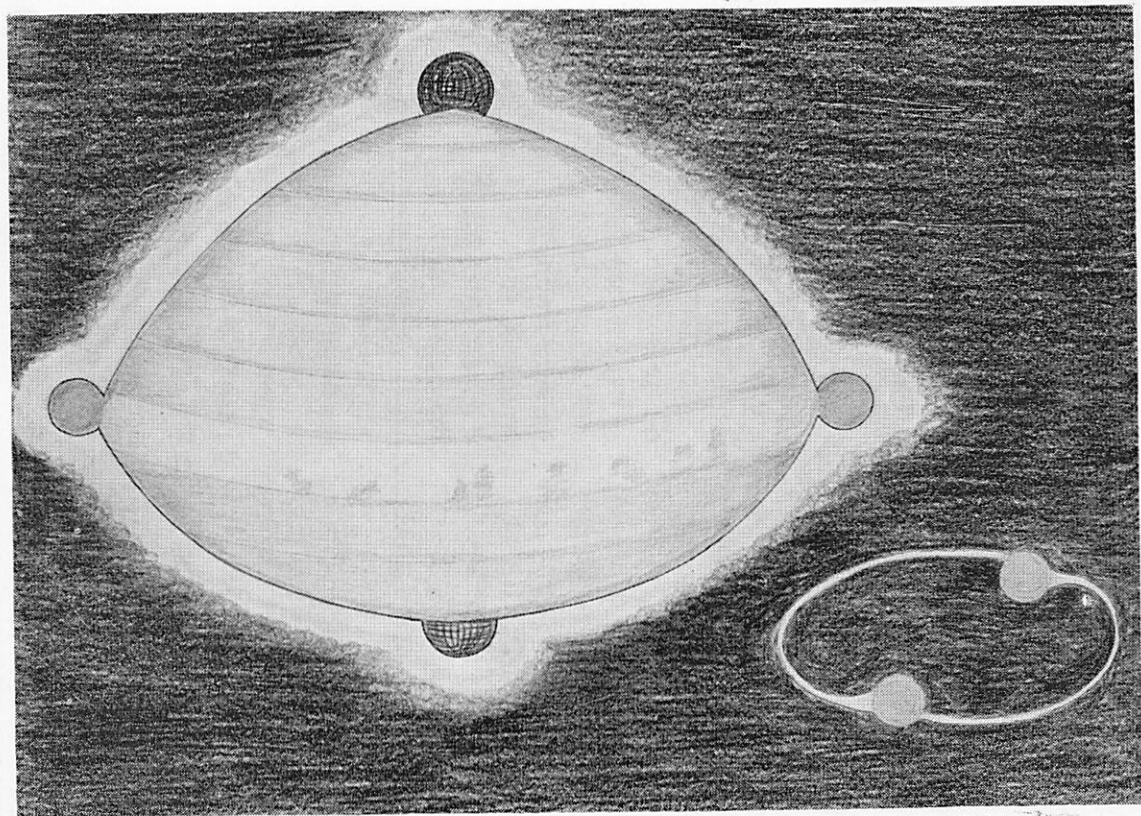
横からというと方角は？

真「日産の方（東南）から飛んで来た……赤い光はね。赤といっても、ちょっと紅色がかっているの。パトカーの屋根で赤いのがグルグル回っているでしょう。あんな色」

大原（図1の大きい物体を見ながら）「明かったです。確かに。電気が四つあるでしょう。この明かりで輪郭がきれいに見えたんです。すよ私らでも。それで信じざるをえなかったわけです。それにうちの店の前は今まで全くそ

（なお、鈴木さんが三人もいるために以下、鈴木真智子さんを「真」、鈴木実さんを「実」、鈴木多寿子さんを「多」と表記する）

真「最初にね。こういうの（図1の小さい物体）が横から飛んで来てた。だ



●図1 目撃者三人の証言をもとにして鈴木実さんが描いた円盤

んな物が飛んだことがないんです——飛行機とかヘリコプターとか。

大体それらが飛ぶコースはきまっているじゃないですか。店の前に自衛隊のヘリコプターのが一本あるんですがそれは全然コースが違うんですね。だから、おかしいなと思ったんです」

真「あれが家だったらカメラで写真を撮っちゃうんだけど」

大原「そう。カメラでもあればね——」

多「でも、普通のカメラじゃ写らないでしょう？ 写る？ やっぱり」

実「カメラじゃ大写りだよ」

真「だってさ。こんなに大きいだよ」と両手を広げる。

——人間の頭の倍ぐらいですか？

真「もっと大きい」

実「とにかく、そういう距離でこう見えたということは、かなりデカイものだよ」

大原「大きかったですよ。私も本当に

円盤は金透明

まず鈴木真智子さんから。(図2参照)

真「ここに木があって、その横に円盤があったの。これだけは絶対忘れられない。上と下に赤い光があって、上のは横にグルグル回ってついたり消えた

●大原孝之さん



こんな大きいとは思わなかったです。はっきり言って。こんなに大きくなかったら信じなかったでしょうね」

真「大原さん、前は信じなかったものね。『そんなのあるか』といってニヤニヤ笑ったりして」

大原「写真なんかはよく見て、あるとは思っていたんだけど」

社長の鈴木さんが本をいくら並べて見せても「こんなバカなこと」と言っ

て信じようとはしなかったという。ここで目撃者自身に、説明をしな

りする……横は黄色い色なのね」

実「それで小さい円盤は？」

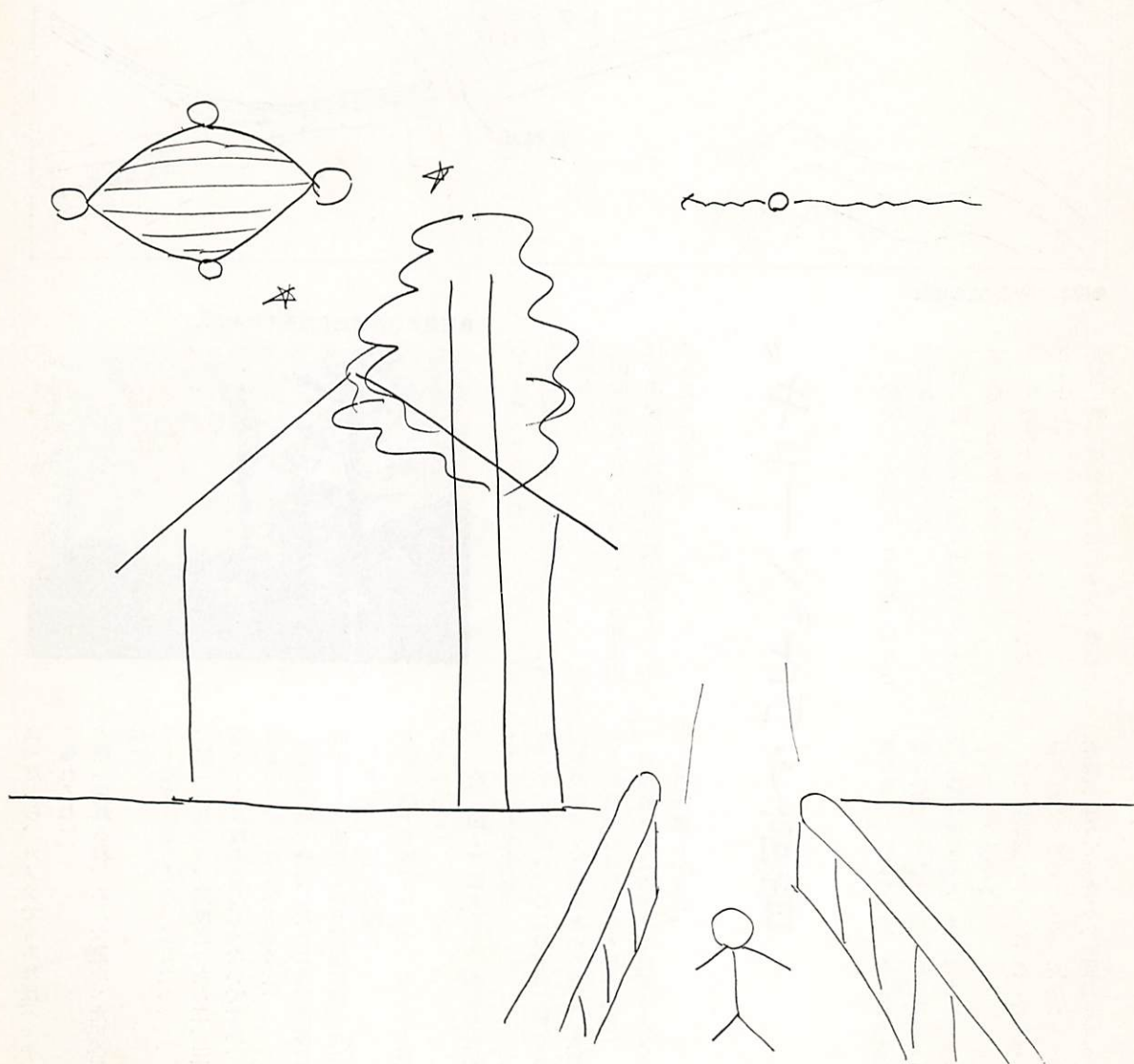
真「最初は上と同じ赤い光が横から飛んで来たわけ。私が見たのは二つじゃなくて一つ。なんだだろうと思って目で追ってゆくと円盤がいた。

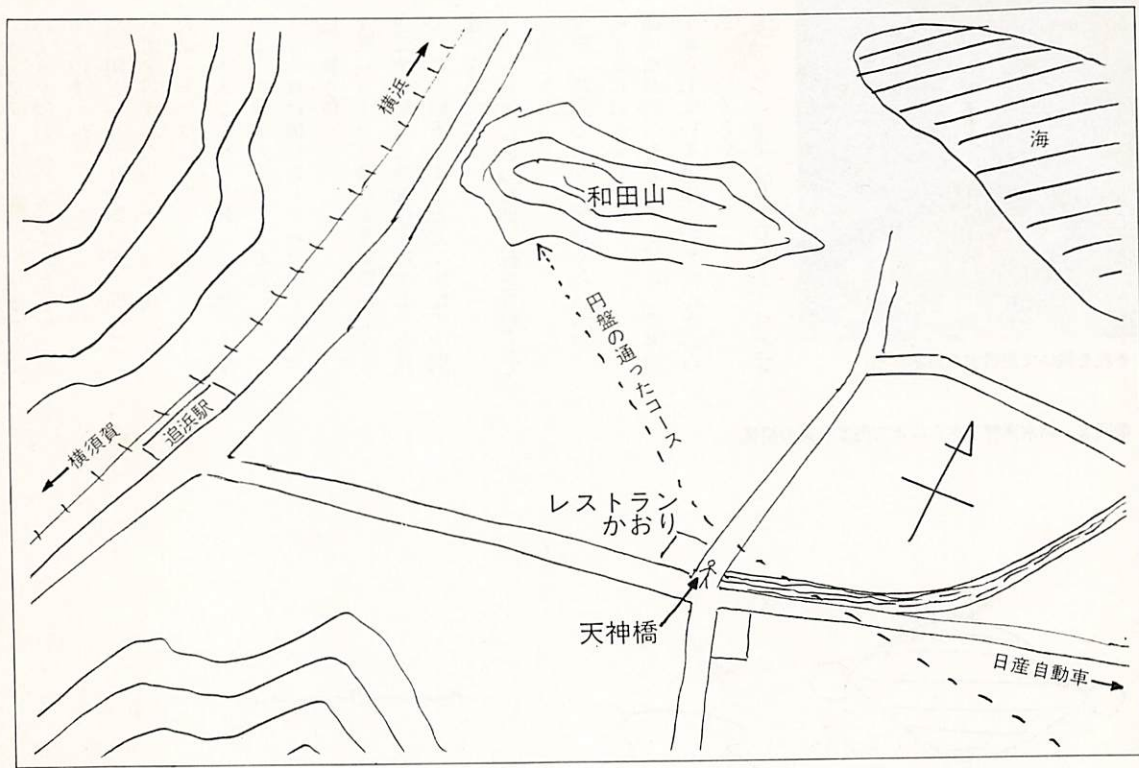


●絵を描いて説明する鈴木さん

金・透・明・み・たい・な・色——。それで、この
ような線が入っているみたい」
——線ですか。
真「線というよりも影。影が横にはい
って、薄ぼんやりとサーッと見える」
大原「それは私も見ています」
実「本人たちは、それが『木星』の縞
のように見えたと言ったね」
——それは何色をしていたのですか。
真「曇り色」
大原「ちょっと暗いような黒いような
色です。私はこの物体だけをじっと見
て、この線もじっと見ていたので間
違いはないですよ」
——どれくらいの時間それを目撃して
いましたか。
大原「時間というとは分くらいかな。
そんなにはないね」
真「私が店へもどってお父さんに電話
で報告している最中に消えたんだから
二〜三分くらい」
実「だから速度はUFOにしてはめず

●図2 鈴木真智子さんによる円盤発見の模様





●図3 現場付近の地図

●円盤のいた付近を指差す鈴木さん



らしくゆっくりだね」
大原「遅いよね。あの距離で二ノ三分だから」
円盤が見えなくなったという和田山は、現場の天神橋から約五百メートルのところにある。

「キューン」という高音

——移動した方向は、この絵でいうとどちらになりますか。
大原「山（北西）の方向だから、まっすぐ奥の方に行ったわけです」
円盤の大きさはどのくらいかわかりますか。
大原「飛行機があるでしょう。普通の

真「だから、カメラでもあればバッチリ撮れるね」
大原「撮れるね。あんな遅かった場合は」

——高度はどのくらいでしたか。

大原「あれでも、高度だったら二、三百メートルはあるんじゃないですか。百ということはないと思うよ」

（後に現場で検討したところ、高度は百メートル前後という結論に達した）

——すると、見た角度は……

大原「四十五度ぐらいで、ちょうど見上げた感じ」

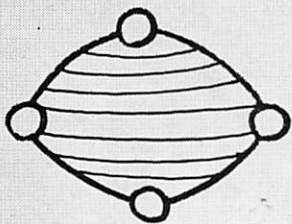
——絵（図2）によると、かなり近いように見えますが。

真「すごく近い。この家の三軒ぐらい先のちょうど真上という感じ。大原さんが見たのは私よりも後だから」

天神橋からこの家までは五ノ六メートルの距離しかない。

旅客機みたいなやつが。あまり大きいから最初はそれかと思ったんですよ」
真「旅客機なんて……そんなもんじゃない。もっと大きい。」

ただ旅客機というのはこんな下まで降りてこないでしょう。だからもし旅客機が降りて来たらいい勝負をするか



●天神橋から和田山を望む

もしれない」

——目撃されたとき、どのように考えましたか。

大原「うーん。私は円盤を見たのかな——と最初は全然信じられなかったですね」

真「でも『もしかしたら円盤じゃないかな』と思ったのは、丸い形をしていたでしょう。こんな形の飛行機とかアドバルーンはないから……地球上には」

——音は聞こえましたか。

真「キューンという高い音。大原さんは聞こえた？」

大原「マッちゃん(真智子さん)が店の中で耳を澄ましていたでしょう。私もキューンというような音が聞こえたような気がしたけれど、マッちゃんが先に飛び出したので店がからになるといけないと思って出て行かなかったんです。なんて言うか、ジェット機の排気音があるでしょう。あれより一オクターブ高いような感じ」

真「大原さんは耳が遠いのよね」
大原「すごく遠いんですよ。遠いの聞こえた」

真「とにかく、お店の中はジュークボックスがかかっているし、私なんかも騒いでいるし、お客さんもしゃべっているのに、それでも聞こえたから、ものすごい音」

——音がしたのは最初のところだけですか。

大原「出たときに音はしたけれど、遠ざかるにつれて自然に消えていった感じ」

真「出た瞬間は中にいたときよりもはつきり聞こえた。ただ、中にいたときのようにものすごくは感じなかった。」

UFOは最初どこから飛んで来たという感じかなあ……。そうではなくて、急に音がした感じ。

焼芋屋さんの音があるでしょう。あれのもっと高い音……焼芋屋さんの音は一定の『キューン』というやつでしょう？ あれよりかもっと高い『キューン』という感じ」

●レストラン「かおり」と天神橋



証言

ここで及川さんが登場する。

及川さんは(図1の)絵を見るなり「マスター(実さん)これ反対だよ。上下が黄色で左右が赤」と言う。それに對して他の二人は絶対に上下が赤で左右が黄色だと断言するのだが――。

及川さんは「これが本当なの」と言いながら絵を描き始めた。(図4)

及川「とにかくすごかったものね。私が見た感じでは、このくらいに見えたの」とみんながしたのと同じように両手を広げる。

及川「上下の長さより左右の方が大きかったのは確か。」

周りの線は、金と銀を合わせたような、少し金に近い色の小さいつぶがボツボツボツとまばいたっている。

とにかく、あまり長い時間見ていない人なら線がまっすぐに見えたかもし

れないけれども私の場合はずーっと見ていたから。

真ん中の横の帯は透明で何かがこの中にいるみたい。何者か知らないけれど動いていた」

――どのように動いていたのですか？

及川「たとえば、水を入れたコップの中に絵の具をたらすとサッと広がるでしょう。その広がった状態でゆらゆら動いていた」

――影のような感じですか。

及川「影ではない。何か流動しているというような――」

――真ん中でない部分は。

及川「スカイブルーよ。空の色」

――空といっても時間によって変化しますが。

及川「夜空の色。中に手を入れると抜けそうな――つまり、透明で何の物体もないという感じ。」

この真ん中のやつが周りの線とかランプを支えながら動いていたみたい――みなさんも同じように見えましたか。

真「そんなふうには見えなかったね」大原「私もそういうふうには見えなかった。筋が横にはいつているように見

えた」

及川「違うよ。違うよ。絶体に違う。

私は次の日に描いたんだから(図4参照)」

――この(図1の)二つの小さい物体も及川さんだけが目撃されたということですが。

及川「そう。あなた(真智子さん)は一つ見ているのよね」

真「私は赤いのを一つだけ」

及川「黄色、黄色。絶対に黄色」

真「下の方で二つがクルクル回っているのはわからない。」

だから、もしかしたら別のやつかもしれない」

少し興奮気味の二人を鈴木実さんはなだめるが、私たちも詳細は後で聞くことにして現場の天神橋へ行くことを提案した。

現場でのインタビュー

天神橋で当時の様子などを詳しく聞いている最中、私たちの頭上二、三百メートルのところを音をたてながらゆっくり飛んでいる一機の小型飛行機がいた。

――(飛行機を指差しながら)あれと比べてどうですか。

及川「あんなもんじゃない、もっと大

●写真④ 電話ボックス(人物のうしろ)



きい」

――距離は？

真「あんなに高くない。もっと低い。あの山ぐらいい」と和田山(海拔四十八メートル)を指差す。

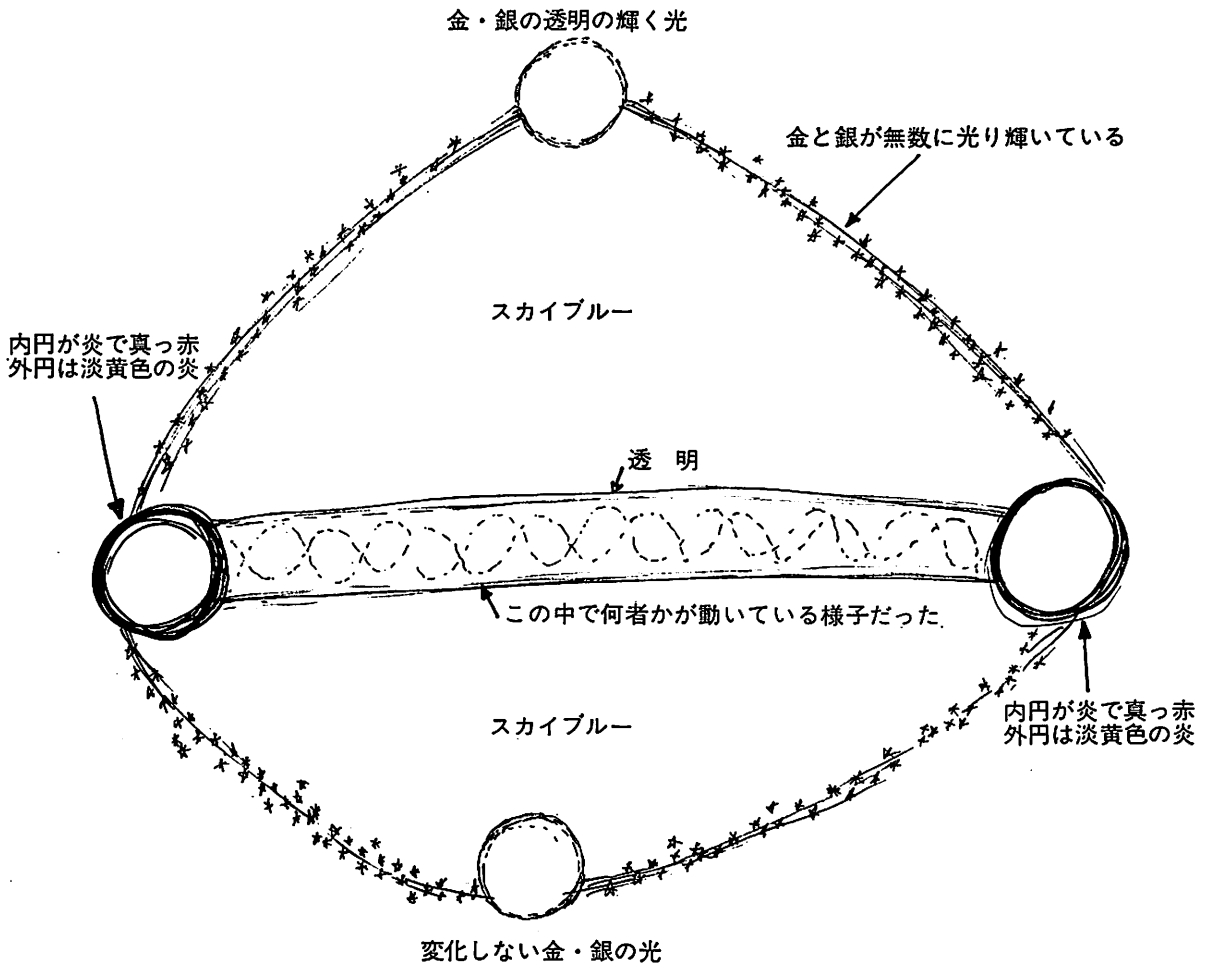
真「ビルの上ぐらいの高さ」

――当時の天候は？

真「すごく良い天気」

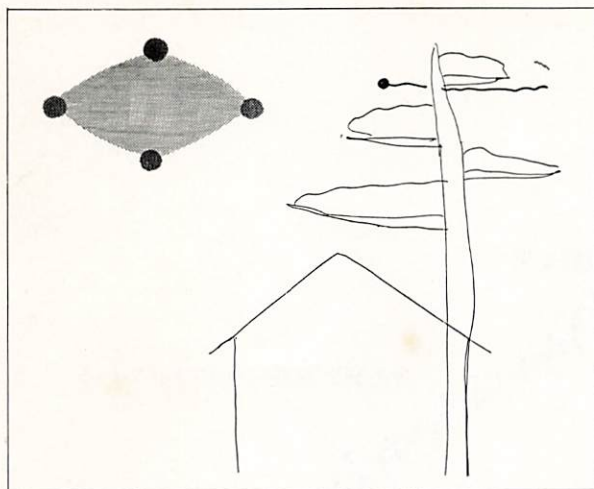


●及川浩美さん

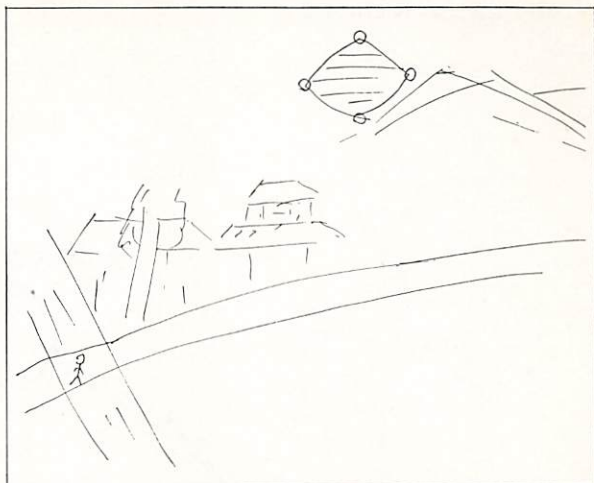


●図4 事件の2日後に描いた絵の再現図 (及川)

——星は見えましたか。
真「星は沢山見えた」
——及川さん。音は聞こえましたか。
及川「キューンと、すごい音がしたのね」
真「あそこに信号の赤いランプがついているでしょう。上についていたのはあの色」
——みなさんもそう思いますか。
及川「確かにあの色だよ。しかし、あんなにくすんでいない。もっとパーッと透き通っている」
——当時の人通りは。
及川「ここはだれもいなかった。周りの店は八時で閉めてしまおう」
真「私が見つけたときは、その電話ボックス(写真④参照)に車を止めて人が電話をかけるところだったのを覚えてる」
——その人は物体に気がついていたら様子でしたか。
及川「気がついたらすぐに飛んで来るんじゃない」
真「わからなかったみたい。その場所が駐車禁止だから、あせってかいていたみたい」
——あとはだれも。
及川「いな」
大原「このへんは夜になるとピタッと人通りがなくなるんですよ」
現場ではこのほかにも沢山の質問をしたが重複するので省くことにする。



●図5 鈴木さんの二枚目の絵



●図6 大原さんによる目撃の模様

“ゴールド・光り輝く・ サンシャイン”

再び家にもどった私たちはさきほどの続きも含めて質問を始めた。

そのときに何か異常はなかったですか。

大原「特別ななかったですよ」

——この二つの小さいのは何をしていたのでしょうか。

大原「航空母艦を駆逐艦が護衛している感じではないですか」

——これは回っていたのですか。

大原「回っていたかどうかはわからない。私はこの大きいのみを見ていなかったから」

真「でも、これは本では見たことのない形だね。本を一生懸命探したけれど全然ない。本に出ているのは四つもランプがついていないでしょう」

大原「おそらく地球上じゃなくて、どこからか持って来たものではないかと思うんだけど」

——何者かが操縦しているのではないですか。

大原「それは感じました。無線でなく何かが操縦しているのだと」

見たときに恐ろしいというような感情はありませんでしたか。

真「全然わかなかった」

及川「すばらしい。ヤッタというような感じ。これは私の年だって……このごろよいことばかりで本当に良い物を見たと思っている」

——ほかに？

真「ものすごい迫力」

及川「ゴールドフィンガーではないけれど『ゴールド・光り輝く・サンシャイン』。言葉じゃ言いあらわせない」

ここで鈴木真智子さんが二枚目の絵を色をつけたが描き始める(図5)

真「夜だから、あたりは真っ暗で木のシルエットだけが影絵のようにはっきりと見える」

及川「電気を消して真っ暗にしておいてからローソクをつけると一番目立つでしょう。そんな感じ」

——かなり輝いたのですか。

真「暗やみの中に蛍光灯がポツンと浮かんでいる感じ」

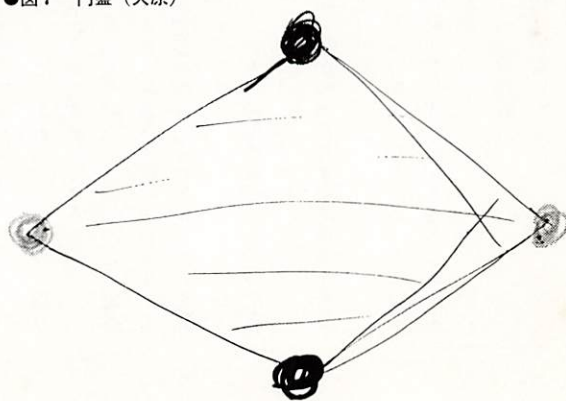
——まぶしいですか。

真「全然まぶしいという感覚はない。蛍光灯の光は反射するけれど、それは反射しないでそれだけの光」

——これが飛んでいるために、下が明るくなったということは？

及川「そんなことは絶対ない。その

●図7 円盤(大原)



内側だけ」

真「だから、物体から光を発しているというよりも周りの四つのランプで全体がはつきり見えている感じ。船体はスカイブルーと金透明を合わせた本当に手を出すと抜けるような色」

——ガラスのような？

真「そんな感じではない。黄色い星を沢山集めて光らせた色。それでいて周囲は明るくならない」

大原「太陽や月だったら周りが明るくなるけれども、そんな感じではない」

証言は各人各様



●絵を描きながら説明をする及川さん



●上 鈴木実さん（左）と真智子さん ●下 大原さん



——及川さんの意見によると、その船体は抜けていて何もないということですが。

及川「そう。周りは輪のようになってる」

真「おかしいな。確かに何か物があった」

及川「夜空の黒さと船体の色は少し違

うけれど、私の考えでは四つのランプの影響で色が変わって見えたのではないかと思う。つまりそれは錯覚で、本当は手を通せば抜けてしまう」

——すると、この物体を別の角度から見ると……。

及川「平べったく見える。だから立体的ではないのよね」

——周りの線にある光のつぶについて詳しく聞きたいのですが、それは電球のようなものですか。

及川「電球ではないの。星のように小さなつぶが沢山並んでいた」

——直線上に？

及川「ちよつと見ると一直線だけれどよく見るとバラバラ」

大原「私が見たのは円盤の形をしていたけれどね。ヒロちゃんが『光った』というのはランプのせいであらう見えたのじゃないかな。それは目の良い人と悪い人では違うかもしれないが（及川

さんの視力は二・〇である）」

真「でも、私は一・五あるから普通だと思うんだ」

大原「私も一・〇はあると思う」

——及川さんの絵（図4）によりまして、上のランプは『金・銀の透明の輝く光』とありますが。

大原「これは赤だよ。絶対赤だよ。これがクルクル消えたりついたりしているのをじっと見ていたんだから」

及川「私は次の次の日書いたのだから間違いない。二人とは違うけれど、私はこれ」

このようにお互い譲らぬまま論争は続くのだが、私たちもあえて結論を出

造船所を調査に来た？

——この事件の後、空を注意して見るようになりましたか。

大原「そう。外へ出たときに何気なくフツと見上げるようになった」

——また見れるというような感じはないですか。

大原「見たいとは思わけれど」

——これを見た後のUFOに対する関心は？

大原「本を読むとか、そういうようなことはないけれど」

真「そんなことバカげていると言う人よりは関心がある」

——UFOについて研究しようとか。

大原「そこまではね」

——他の方にも話されましたか。

大原「お客さんに話しました」

——私も見たと言う人は出て来ませんか。

大原「こんな形のは聞きませぬね。円盤を見たと言う人はいるけれど」

真「こんなにはっきりした形を見た人はいない——ただ、小さいやつとか光を見たとか葉巻形を見たとか言う人はいるけれど」

すことは控えて他の質問に移ることにした。

——お客さんの反応などは。

真「他のお店でこの話を『バカにされたよ』と言う人もいるし、『そんなのめずらしくない。オレなんか五回も見た』なんて言う人もいる」

——全体的に見て信じる人と信じない人ではどちらが多いですか。

真「そんなのめずらしくないと言う人が最近急に多くなったみたい」

大原「追浜ではみんなよく見ているんじゃないですか」

真「ここは非常に多いところですよ。最近ここに住友重工というマンモスタンカーを作る造船所が出来たでしょ

う。それに日産の自動車製造工場もあるし。そういうものが出来てから特に激しいようですね」

及川「造船所を調べに来るんじゃないのかな」

多「お客さんでもけっこう見た人は多いし、自衛隊のお客さんなんか多いですよ——見かけた人は」

——どこの自衛隊ですか。

多「近くの田浦というところ」

——目撃者のみなさんは今までにUFOを見たことがありますか。

及川「私はない」

大原「以前、社長と車に乗っているときに赤いランプがジグザグに飛んでいるのを見たけれど、今度のようにはっきりしたやつではないから」

真「一つだけ絶対だというのはね。去年の十二月初め、夜の七時頃二階のトイレに入っていて何気なく空を見ると山(西)の方に星みたいのがあるの。曇っているのに明るい星があるからおかしななと思って見ていると、それがスーッと近づいて来たわけ。『あッ、いやだ』と思ったら急に光が二つに分かれてバーッと大きくなった」

——どのくらいの大ききですか。

真「車のライトあるでしょう。あれを急に光らせたような感じで目が痛かった。けれどすぐに光が弱くなって一つが消えた後、残りの一つも右(北)の方に行ってしまった。あのときもキューンというような高い金風音がしたけれど今度のよりは低い」

このほか鈴木実さんや奥さんの多寿子さんも数度UFOらしいものを目撃している。

——この辺でこれほどよく目撃されているというところは新聞などにも載ると思うのですが。

真「この辺は旅の人が多から新聞社に報告するような人も少ないのではないかな」

真「それに円盤だなんて言って騒いでいるとバカにされたでしょう。昔は。今でもバカにされる傾向が少しあるけれど」

及川「夢でも見てるんじゃないか。オマエ大丈夫か?」なんて」

真「それよりか、よくあれだけ下に降りて来てくれたね」

大原「うん。これから一生見れるかどうかかわからないけれど、今度はどういう人が乗っているか見たいです」

——そうすると、人が乗っていると考えているのですか。

大原「人でなくても、どういふものでも乗っていたら見たい。それと着陸しているところも見たいですね」

目撃者の三人および鈴木さん夫妻は特別変わったところもない真面目な人たちで、取材に行った私たちを丁寧に迎えてくれた。物体の写真がなかったために証言によって事件の信憑性を確かめようとする私たちは、目撃者の一人一人に何度も同じ質問を繰り返したが、彼らはそれらのすべてに丁寧な回答をしてくれた。

途中で三人の証言に食い違いが見られたが、彼らのほかにその物体を見たものはいない以上、だれの意見が正しいかは知る由もない。別に意見を合わせる様子もない彼らの態度はかえって好感がもてたのだが——。

想定すると放射線のとび交う高エネルギー下で極めて長い期間作動しつづけることはありえない。

仮りに地球外文明によって作られた装置が何百年、あるいは何千年も作動しつづけているとすると、破壊的な力をもつ放射線に対する防御方法を備えていなくてはならない。

この場合考えうるのは、観測装置を地下五十～百メートルに埋めることである。こうすれば、月面の土ぼこり、岩石、土壌が強力な放射線を防いでくれるが、同時に通信電波をもストップさせてしまう。そこで設計者がその観測装置から電波を受信しようとしたら、あるいは月面に下り立った地球人をキヤッチしようとするときは、その都度装置を地上に出さなくてはならない。

この装置で地球の科学の進歩度合を知るだけなら百年に一回位の観測で十分だろう。地表ではまた太陽エネルギーの吸収も行うに違いない。

ロボット装置が月面に現れたとき、偶然にも月探検中の人間に出合えばその存在を知られることになる。そして人間に何らかの方法で信号を送ってくるかも知れない。点滅光とか電波通信とか、あるいはもっと風変わりな方法で――。

このような想定をしたときに、アポロの通信記録の不明な部分、あるいは一九二〇年代からキヤッチされている

月周辺からの電波の正体に我々は一步近づけるかもしれない。

アポロ計画はなぜ中止されたのか

アポロ計画は当初二十号まで予定されていた。ところが実際には一九七二年十二月のアポロ十七号を最後に打ち切られた。なぜ途中で計画が中断されたのであろうか。

その理由として一般に考えられているのは、一つは経済的理由、もう一つは当初予定した情報・資料収集の終了である。

しかし、少なくとも後者についてはNASAが入手した情報・資料の分析結果をまだ公開していないので真相は不明である。

そこで一般的に信じられている経済的理由であるが、それはおおむねこんな内容だ。宇宙開発には巨額の財源を必要とする。米議会は宇宙探査予算を削減し、NASAのもっている科学技術をもっと地上の生活と密着した方向に向けたのである。……

たしかに納得のいく理由である。いかに世界最大の富める国アメリカといえども地上では不況、失業、犯罪、ありとあらゆる深刻な問題を抱えている。国民生活に直接プラスとはならない月旅行などより国内問題に税金をつかえという批判は当初からあった。

しかし、その後のNASAの動きをみていると、どうも通常の科学技術研究よりも大きな事業が進められているようなふしがなくもない。

すでにアポロを過去に押しやってしまった大半の米国民はダイヤより石コロにはるかに大きな予算がつかわれていてもほとんど気にとめていないが、この事業は国民の興奮をかきたてる月探検より最終的に大きな財源を必要とし、国庫の財布のひもをゆるませるものになるかもしれないのである。

現在NASAが重点的に開発にとり組んでいるのはレーザー、赤外線探知機、レーザービームなど高度に進んだ観測機器とその使用方法である。

この中には、米国のスパイ衛星の技術を応用した全地球規模の気象観測、魚群調査、鉱物資源調査、工場排出物の河川流入調査などが含まれている。ところが、これらの技術は月面周辺における地球外生物の活動調査にも非常に好都合なのである。

つまり、NASAはアポロ計画の途中で何らかの地球外生物の存在を確認し、その調査をほかの名目のもとで継続しているのではないかと考えた方がわかりやすい。なぜこのような推測ができるのかというと、それはアポロの通信記録があまりに不可解な部分を含んでいるからである。

一般には知られていない、つまり「

Vやラジオの中継には登場しなかった地上と宇宙飛行士たちとの通信内容についてNASAはほとんど何も説明していない。我々がアポロの関係者ほど月に関して知識をもっていないことを考慮に入れても、通信記録には不可解な、そしてNASAが何の補足説明もしてくれない部分があまりに多い。

たとえば、一九七二年四月に打ち上げられたアポロ十六号の記録には次のような部分がある。

デューク「この測定機は信じられない。私は指針を当てにしないよ」

ヤング「OK。しかし、これから急な橋を登らなくちゃならない」

デューク「おい、ジョン。ここにも素晴らしい景色があるよ。こちら側は幅五メートル位石コロでおおわれている、それがほとんど北東から南西へ向いて並んでいるように見える。反対側は五％位しか露出していない。底部の九十％は五十センチかそれより大きい石でおおわれている」

ヒューストン「いい見ものだ」

デューク「着陸船の窓から見たとき青く見えたのは表面がガラスでおおわれていたためだ。しかしガラスの下は結晶で、ジェネシスロックと同じように見える」

ヒューストン「すぐに二回目の船外活動を始める」

デューク「もう一度ここに二人ばかり送って寄こした方がいいよ、ぜひ。このEMUやPLSSはまったくすごい」

原文は飛行士たちがかなり興奮した状態で喋っていることを示しているがこれは測定機器に対する彼らの反応なのか、あるいは彼らが何か重大な発見——自然によらない構造物とか——をしたためのものか。

次も十六号の記録である。
デューク「トニー、もう一つのビー

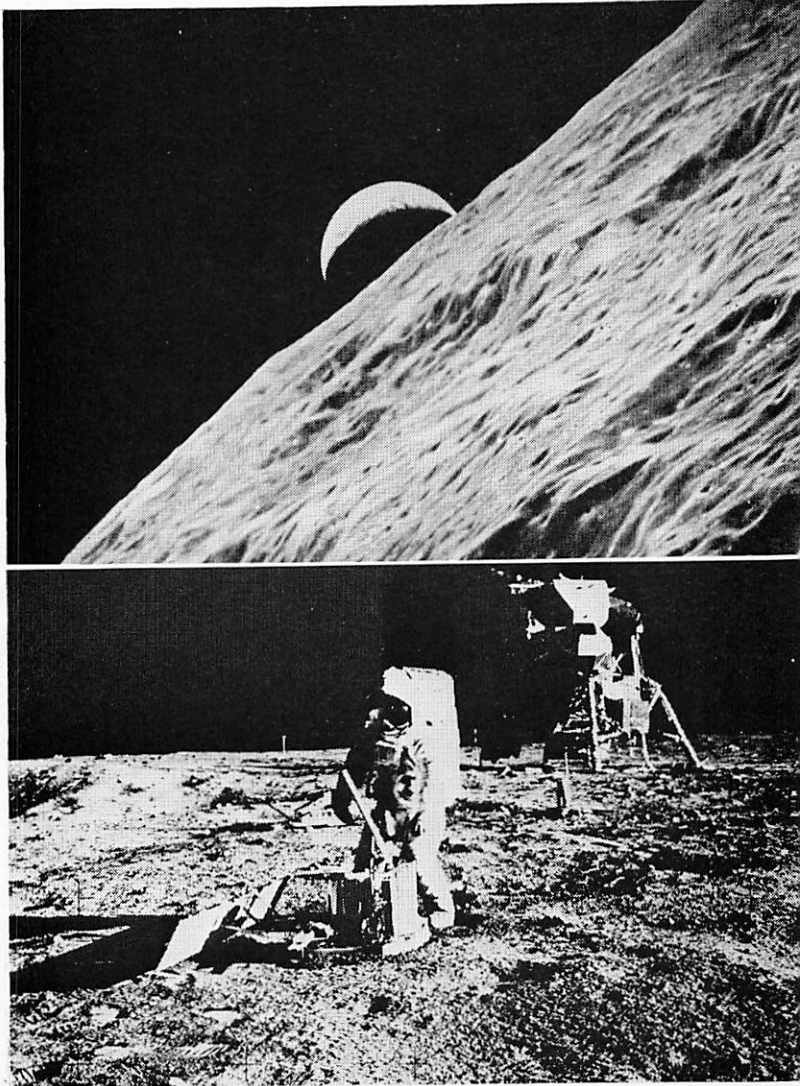
クは？」

ヒューストン「宇宙線測定器の右だ。」

デューク「わかった。15でF11を渡るよ」

ヤング「OK、ヒューストン。今この白い石を拾った。裏側に黒いガラス状の部分がある」

ヒューストン「スクランブル。飛行中のケンが今デカルト・クレーターのそばで光を見た。君たちが何か反射させたのか」



●上・NASAが公開した月の裏側の写真。月の周囲軌道を飛行するアポロ機械船から撮影したもの。高度が高いため月表面の詳細な状態はわからない。下は月面に観測機械を設置するアポロの宇宙飛行士。

デューク「そうだよ、我々だ。奇跡の男たちだ。我々はほこりまみれだ」

奇妙なことに、ガラス状の物質を飛行士が拾ったりさえぎったりするたびに光やUFOが目撃されているのである。どんな感知器が使われているのかわからないが、飛行士の見つけたガラス状の物質と発光体との間には何らかの関連があるとも考えられる。

もう一カ所、十六号の交信記録から抜粋してみよう。

オリオン（月着陸船）「……ひとつ

いえるのは、ここに空気があったらきれいに違いないよ。空気があってもなくてもきれいだ。ストーンマウンテンの上の景色を見せたいよ。これらのドームは信じがたいほどだ」

ヒューストン「OK、そのあたりを見て表面にあるものを確認できるか」

デューク「ドームの背後の地形は峡谷につながってゆき、一部分は頂上の方につながっている。谷の北壁には輪郭がない。北西にはトンネルがいくつもあって、北側ではそれが三十度位下がっている」

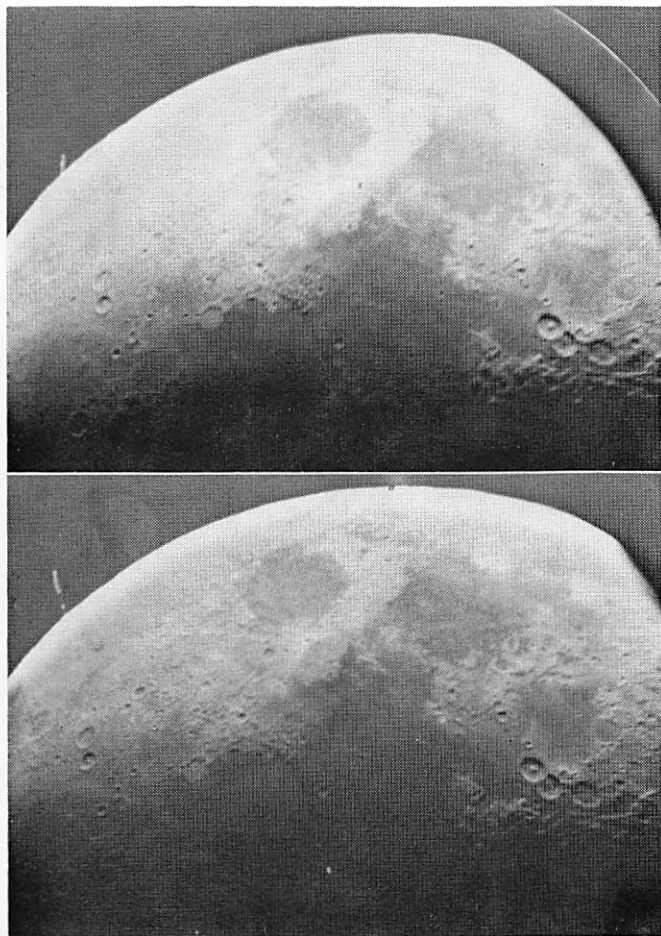
ヒューストン「おい、磁力計の針が急に三三三ガンマ下がった。月面でこんなに強いところは初めてだ」

ヤング「あの大構造でそのあたりの磁場が変わったんだろう」

地上と飛行士とのこれらのやりとりは、殺風景な月面というこれまでの情報からはかなりかけ離れた光景を想像させる。

アポロ十五号は初めて月面車を使って広範囲の調査を行ったが、このとき月の周囲軌道を飛行する司令船に残って月面観測をやっていたのはアルフレッド・ウォーデンである。彼はオリエンテール・クレーターの東端に点滅する物体を発見して報告した。

これに対して地上（ヒューストン）は「ボストークと思うか」と聞き返しウォーデンは「とんでもない。地図の



この2枚の写真は岡山県倉敷市の水島高校天文部が撮影した月面である。左上の月の地平線から煙のようなものが立ち昇っている。上の写真で現れ、約10秒後の下の写真ではかなりの高度まで上昇している。噴煙とすれば月に火山活動があることになる。あるいはまったく別の現象かもしれない。中央上部の黒い円型は危険の海、その右は豊かな海、下の黒い広がりには静かの海である。方向は上が東。(データ：1974年5月27日午後9時34分 アサヒペンタックスSL+OR 9mm+f1000mm トライ X 1/2〜1/4秒 バンドール20°C15分)

上に印をつけておかなくては」と答えている。ヒューストンは気温の報告でも受けたかのように気に振舞っているが、いったいだれが使い古しの、それも月に到達したはずのないソ連の宇宙船が月面で光を発しているなどと思うだろうか。

しかし、これは彼らが冗談をとばしていたわけではもちろんない。ウォーデンはまじめにそれを受けとったし、月の軌道をもう一周したあとでも同じものが再度現れているのだ。

ソ連が打ち上げたポストークが飛ん

だのは六〇年代の初めで、それも地球軌道を回ったのだ。月へなど行きはしなかった。たしかに当時のソ連のロケット技術は米国よりもはるかに進んでいたが、とはいえとても月面に着陸できるところまではいっていなかった。

にもかかわらず、なぜヒューストンの地上管制センターはアル・ウォーデンに「ポストークを見たか」などと聞いたのか。それが何かの暗号であったとしたら実際にウォーデン飛行士が見たのは何だったのか。

ここで抜粋したのは不可解な交信記

録のほんの一部分にすぎない。しかし、巨額の国費を投入した月面探索からNASAが持ち帰った情報について米国民が何も知らされていないということとアポロ計画の中継とが無関係ではないと考える有力な根拠になるのではなかろうか。

ここにもう一つの興味深い事実がある。米国の月探査関係予算の大幅削減が打ち出されたのは一九七一年だが、これとほぼ時を同じくしてある国際会議が米国のミューカン宇宙物理学研究所で開かれた。これは米ソの科学界が

共同主催したもので、テーマは地球外文明とのコンタクト問題であった。会議には生物学、化学、電算科学、物理学、人類学、天文学、音声学の専門家が集まり地球外生物に関する討論を行った。

とくに議論の集中したのは地球上の生物の起源、銀河系における生命供給惑星系存在の可能性、知性の源泉、宇宙の知的生命からの信号キャッチ、地球外生命との接触方法などであった。

月探査予算の削減決定と時を同じくして開かれたということ、宇宙開発分野で圧倒的に他の国々をひき離している米ソ両大国の科学界が主催したと、会議のテーマが地球外生命の存在に焦点を当てていることなど、明瞭な相互関連性をうかがうことができる。

NASAは現在、アポロ計画に次ぐ大事業としてスペースシャトル計画を進めている。この計画は宇宙開発技術に応用した地球上の交通計画である。

しかし宇宙の謎解明のための技術的努力はアポロ計画の中止によって終わったのではなく、まさに端緒にすぎない。昨秋ソ連の探査機金星に軟着陸しているし、今年には米国の探査機が火星に到達する予定になっている。

これらの情報が今後総合され、そこに不可解なアナがぼっかりあいたとき、その穴を埋めるのはアポロの交信記録の不可解な部分かもしれない。

井原西鶴の作品

篠田弘史

西鶴諸国咄

に現れるUFO

近世日本文学の巨匠西鶴が描く「飛乗物」とは？

●はじめに

「UFOと宇宙」第四号（当時は「コズモ」）から第六号まで連載された斎藤守弘氏の「日本古来の天空人出現説考」は、国内の貴重な資料を駆使して

何百年も昔から日本にUFOが飛来していたという事実を立証しようとした非常に充実した内容のものであるが、私は、ここに記載されておらず、おそらく国内のUFO研究者にも全く知られていないと思われる重要な新資料を発見した。

それはなんと、「好色二代男」「好色一代女」などの浮世草子で知られる江戸時代の作家、井原西鶴（一六四二～一六九三年）の筆による「西鶴諸国咄——姿の飛乗物」（貞享二年、一六八五年刊）である。

これはもちろん「好色——」のようなフィクションではなく、物語の構成上やむをえない潤色はされているにせよ、すべての話（二巻七話×五巻三十五話）が諸国の奇談・怪談の伝聞を取材したノンフィクションである。

姿の飛のり物

寛永貳年、冬のはじめに、津の国池田の里の東、呉服の宮山、きぬ掛松の下に、新しい女乗物、誰かは捨置ける。柴刈童子の見つけて、町の人に語れば、大勢集りて、戸さしを明て見るに、都めきたる女良の、廿二三なるが、美人といふは是なるべし。黒髪をみだして、すゑを金の、

ひらもと結をかけ、肌着はしろく、菊栴の地無の小袖をかさね、帯は小鶴の唐織に、練の薄物を被き、前に時代時絵の、硯箱の蓋に、秋の野をうつけしが、此中に御所落雁、煎梗さまの菓子つみて、剃刀かたし見へける。御かたは何国、いかなる事にて、かくお独はましますぞ。子細を御物語あるべし。古里へおくり帰して、参らすべしと、いろ／＼尋ねけれども、言葉の返しもなし。只さしうつむきて、まします。目つきもおそろしくて、我先にと家にかへりぬ。今宵そのまゝ置なば、狼が浮目を見すべし。里におろして、一夜は番をして、朝は御代官へ、御断りを申べきと、また山にのぼれば、彼乗物は、一里南の、瀬川といふ宿の砂浜に行ぬ。既に日も暮て、松の風すさまじく、往来の人も絶て、所の

馬かた四五人、此女良をしのび行てうき世の事どもを語りつくして、情といへど、取あへずましますば、荒男の無理に、手をさしてなやめる時左右へ蛇のかしらを出し、男どもに喰付て、身をいためる事、大かたならず。何れも眼くらみ、気をうしなひ、命を不思議にのがれ、其年中は難病にあへり。其後はのり物、芥川にありともいへり。または松の尾の神前にも見へ、つぎの日は、丹波の山ちかく行、片時も定めがたし。後にはうつくしき亮に替り、または八十余歳の翁となり、或は白ふたつになし、目鼻のない姥とも成、見る人毎に、同じ形にはあらず。是に恐れて、夜に人里の通ひもなく、世のさまたげとなりぬ。此事しらぬ旅人、夜道を行に、おもひよらぬ、乗物の棒、肩をはなれず、奇異の思ひをなしける。されどもすこしも、重からずして、老町斗もすぐると、俄に草臥出て、たやすく足も立ず、難義にあへる、陸繩手の、飛乗物と申伝へしは、是なり。慶安年中迄は、ありしが、いつとなく絶て、橋本狐川のわたりに、見なれぬ玉火の出しと、里人の語りし。

以上が原文であるが、この西鶴独特の文体は今の人のとって読みにくく、意味不明の部分も多いので、次に訳文



を載せる。

美人の乗った飛行物体

寛永二年（一六二五年）の冬の初め現在の大阪府池田市、呉服神社の宮山にある絹かけ松の下に真新しい、女の乗った乗物が出現した。柴を刈る童子が見つけて町の人に話したので大勢の人が集まって扉を開けてみると、あか抜けした二十二、三歳の美人としか言

いようのない女が乗っていた。女は乱れた髪の端を金色の紙で縛り、白い肌着の上に菊栴（ぎくせん）の無地の小袖を重ねて着て唐草模様の金襴（きんらん）の帯を締め、頭に絹のベールをかぶっていた。目の前には蓋に秋の野の絵を描いた時代蒔絵の硯箱（えんばこ）が置いてあり、中に御所落雁、煎櫃（せんぶ）などいろいろな菓子が詰めてあったが、そのほか剃刀も一丁見えた。

「あなたはどこの人ですか？ どうしてこのように一人でいるのですか？ 事情を話して下さい。故郷へ送り返してさし上げましょう」などといういろいろ尋ねたけれども何の返事もない。ただうつむいているだけだ。その女の目つきも恐ろしいので野次馬は我先にと家に帰ってしまった。今晩あのままにしておくと狼が害を与えるから里におろして翌朝代官に報告しようと、ある男がまた山に登ってみるとその乗物は四キロメートル南の瀬川という宿場の砂浜

へ移動していた。

すでに日も暮れて風がものすごく、人通りも絶えた頃にこの宿場の馬子が四、五人、この女のところへ忍んで行った。色話をし尽くして「いいじゃネエか」などと言っても知らん顔をしているので、怒った荒くれ男が襲いかかると女は左右に蛇の頭を出して食いつき、男たちをひどい目にあわせた。彼らは皆眼がくらみ失神したが、不思議に命だけは助かった。しかしその年中は難病に悩まされた。

その後、この乗物は芥川（大阪府高槻市）にあったとも言われた。また、松尾神社（京都市右京区）にも姿を現し、次の日は丹波の山の付近に行くなど片時も同じ場所にはいない。

また、その女はのちに美しい幼女や八十歳の老人に変わり、あるいは顔が二つであったり目鼻のない姥となるなど現れるごとに違っていた。これを恐れて夜になると人通りがなくなり、世の中の妨げとなった。

このことを知らない旅人が夜道を行くと、知らないうちに乗物から出た棒が肩について離れなくて驚く。しかし少しも重くないのでそのまま百メートルも歩くのに疲れが出て立つこともできなくなる。

「ひどい目にあう陸細手（京都府山崎から久我に至る街道）の飛乗物」と伝わっているのはこのことである。

この乗物、慶安年中（一六五七年）まではあちこちに出没したが、いつの間にか現れなくなり、橋本狐川（京都府）のあたりに見られない火の玉が出たという話を里人がしていた。

どうであろう——これではUFOの飛来記としか考えようがないのではないだろうか？

特に興味をひくのは前記した「——天空人出現説考」のうち第二回（本誌五号）に記載されている常陸国原舎浜の「異船」UFOの描写と非常に類似点が多いことである。常陸国の方はこの飛乗物の記述より約二百年も後のことであるから偶然の一致とは考えがたいし、西鶴がこの話を全部デッチあげたなどということは考えられない。

まず、常陸国の記録の方を参考にしながら（本誌五号7p～9p参照）、内容をじっくりと探してみたい。

UFO（飛乗物）の形状が描かれていないのは残念である。西鶴が意図的に省いたものだろうか——。もし常陸国の異船のように「釜状」とでも書いてあれば決定的なのだが仕方ない。

飛乗物に乗っていたのは美女が一人——これは常陸国の記録と全く同じであるが物語をおもしろくするために男より女にしたのかも知れない。

しかし第一に決定的な、これをUFOとする根拠は——『黒髪をみだして

すゑを金のひらもと結をかけ』という部分だ。要するに金色のベールで髪をしばっていたということだ。これを本誌五号に載っている有名なアダムスキ一の宇宙人会見観察報告記の一部分と比べてみよう。「——腰の辺りはインチ位の幅のバンドでしめられ、そのバンドの上辺と下辺だけが全体の服装の色と違って明るい金褐色であった」これが偶然といえるだろうか。

また、衣服の描写も本誌五号のさし絵で見える限り、特に模様が似ている。

美女の持っていた硯箱はカメラ？

次に決定的なのは、この美女が持っていたという硯箱である。これは常陸国の方の美女も同じく持っていた。詳しく解釈すると、『秋の野をうつした』という描写であるが、秋の野といえは満月とススキ原である。つまり、直線と丸からなる宇宙文字を「秋の野の絵」と思ったのではないだろうか。

そして、落雁や煎櫃など沢山の菓子が入っていたという描写（常陸国の方も箱に菓子が入っていたという）であるが、落雁は麦の粉を丸や四角の形に固めたもので煎櫃の方は詳しくわからないが、とにかく細長い形のものらしい。つまりこの硯箱というのは斎藤氏の言うようにカメラか一種の送信機で

落雁や煎樞はその機械の部品（たとえばトランジスタやICなど端子をとれば落雁にそっくりではないか？ また煎樞というのはコード）であろう。ついでに剃刀というのはレバーかアンテナかもしれない。

失神したあと、生命は助かるが病気になるという荒くれ男の症状もよく聞く。『蛇のかしらを出し』というのは電流ないし毒液を出すコードのことであらう。

各地に現れた飛乗物の乗員がそのたびに違っているというのも近くに母船がいて、これは偵察用の小型UFOであると解釈できるし、目鼻のないという表現も宇宙服を着ていたと考えれば

解決する。大体UFOの乗員がいつも同じ人で同じ格好をしているはずもない。旅人がひどい目にあうところもこれまでのコンタクトケースに見受けられるし、UFOに情報を吸収された後疲れる（たしかに死なない——従来のパターンならば旅人はたたりか何かで死んでしまうのだが）というのでもよく聞く。

最後に、UFOが現れなくなった後見慣れぬ玉火が出たというところであるが、これはすべての資料収集活動を終えた母船が偵察用のUFOを収納して飛び去ったときの光景ではないだろう。

④ 残物とて金船
仙人

⑤ 長波乃風車
隠里

⑥ 桑の田力地蔵
現地

⑦ 神心病中
歎心

●「西鶴諸国咄」原本の目次（笠間書院「校註・西鶴諸国咄」より）

● おわりに
考えてみれば、近世以前のUFOらしきものの見聞記には信頼のおけるものが多くない。そこで、井原西鶴のような近世

日本文学の代表者が書き残したこの話を発見できたことは非常に有意義であると思う。それにこの話は当時ではええ瓦版——今でいえば国内トビックス的な趣をもつ本の一部であるから、西鶴の作り話という可能性も少ない。

しかし、西鶴の数ある作品群の中でもかなり有名な方であるこの「西鶴諸国咄」に、このような明らかにUFO記録と思われるものがあることを、なぜ今までだれも気づかなかったのであらう。なにしろ、本書の三十五話には高校用の教科書に使われている『大晦日はあはれ算用』も載っているほどである。西鶴全集が長い間復刊されていなかった（昨年完本が出た）せいもあるだろうが、一番の原因は国文学研究家のUFOに対する知識の欠如とイマジネーションの不足だと思う。

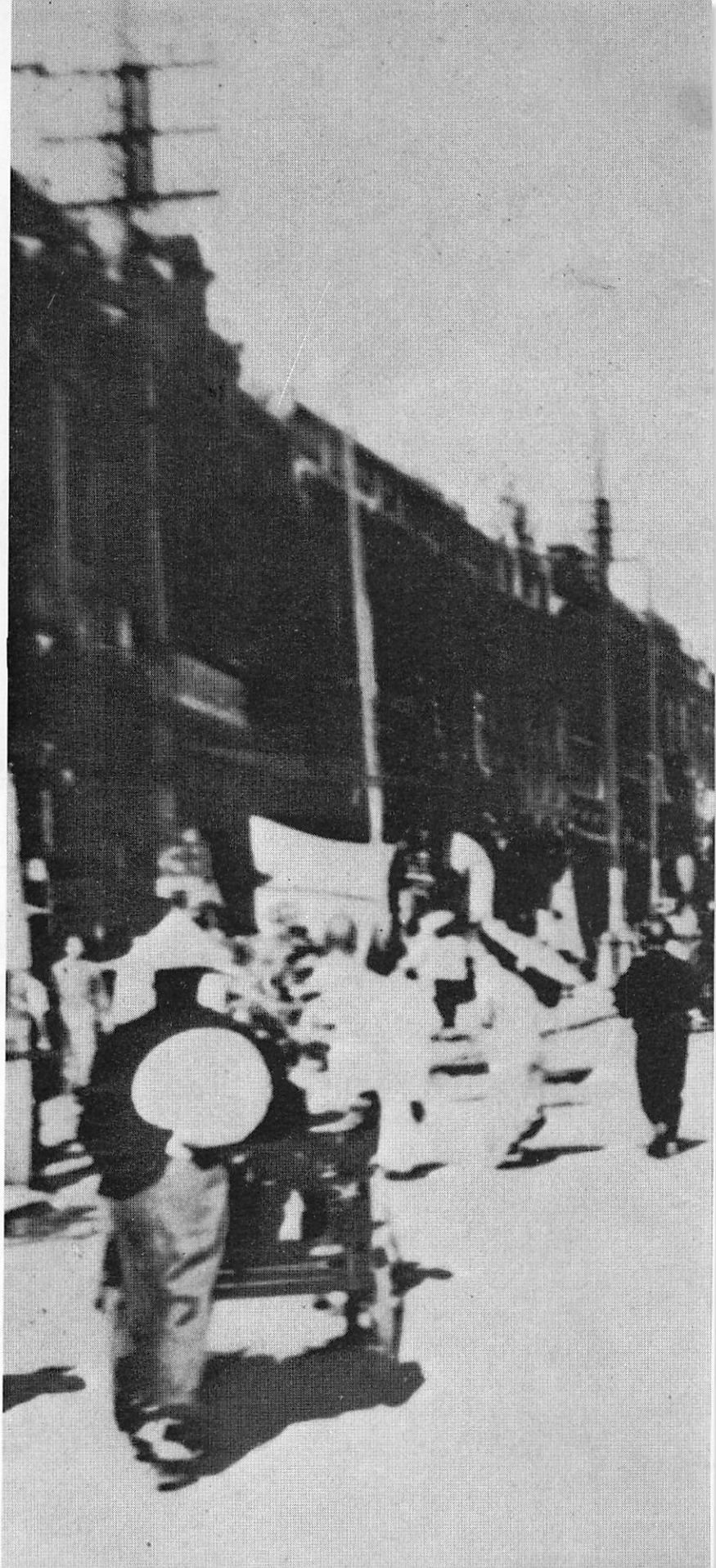
私は大学で、ゼミの最中にこれを発見したのだが、驚いたことにこれをUFOの記述であると指摘したものは一人もいなかった。信じられないような話だが、UFOの名称さえ知らぬものがいたくらいである。

このふんだと日本の古典資料の中には、まだまだUFOに関する未発見のものがありそうである。私はこれから、そういうものがあればどんどん発表してゆきたいが、ほかのユーフォロジストの方々にも手伝っていただきたい。



中国上空の
アダムスキー型円盤！

昨年八月、群馬県富岡市の一中学生が父親の古いアルバムの中からUFOの写真(左)を発見した。この写真は、アルバムの所有者である桐生益二郎さんが中国の北部を転戦中(昭和十七年頃)に当地で買い求めたものという。画面中央に浮かぶ不思議な物体は何と、今日アダムスキー型円盤と呼ばれ世界中で目撃されているものに酷似している！ 詳細は次ページ。





●写真A 左手を上げている？人物



●写真B 顔を上に向けている人物(左側)



戦時中の古いアルバムから発見されたUFO写真

中国上空の アダムスキー型円盤！

—田島 敏—

昨年八月、齊藤君というUFO仲間から、自宅の付近でUFO目撃が続いていると伝えてきたので次の日曜日私は出かけてみることにした。

彼の家は群馬県富岡市というところにある。山に囲まれた静かな場所である。近くに大塩ダムと呼ばれる貯水池がある。

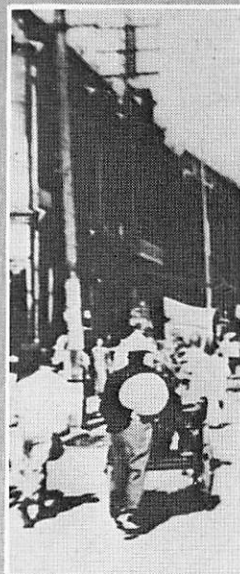
彼が伝える情報はその周辺に集中していた。この日会えた目撃者は十名ほどだったが、その中に貯水池の土手からというものが二件あり、その一つはオレンジ色の光体が池の上空を移動してゆくというものであった。

ところで私が同地区を訪れた数日後その中学生(桐生幸一君)から興味深い情報を聞いた。円盤らしい写真が出て来たというのだ。私は再び同地に行くことになり、そこで、見せられたのがこの写真(上)だった。

画面中央の空の部分に杯を伏せたようなものが見える。この写真は、幸一君の父親(益二郎さん)の戦時中の古いアルバムに貼ってあった。サイズは名刺判で、すでに茶色く変色し始めているが肝心の「そのもの」は肉眼でもはっきり識別できた。光と影の具合からそれは立体——空に浮かぶ、なんらかの物体らしい。

場所は中国。そこには広い街路が写っていて、民族衣装を着て行き交う人々。数台の人力車。その古風な風物と上空に浮かぶ物体との取り合わせに少々面くらうが、この形態は明らかに空飛ぶ円盤と呼ばれるものの特徴を見せている。私は写真をお借りして写真店へ復写を依頼した。名刺判から四つ切に拡大するとグット迫力が増し、地上におもしろいものが見えてきた。たとえば向かって右側に行く通行人の一人、カメラに背を向けているその人物(写真A)が左手を上げて空を指差しているようだ。あるいは、それは手ではなくて斜めに背負った棒状の荷物だろうか？ それにしても、この人の右前方を歩いて来る別の一人(写真B)

●中国北部の地図



が前者の指先に誘われるかのように上を見ている。更に、左側を歩く一人も顔を上に向ける。視線はほぼその物の位置に合致する。

私は写真を女房に見せた。円盤問題に熱を上げる私に水を差すのが趣味らしい女房であるが、今回は反論できず「困ってしまう」と真顔で言う。困惑するのは私も同様。そして興奮がおさまると今度は不安になってきた。これは写真のキズやシミではないようだし——この種のトリックは、当時まだ流行らなかったようである——となると、これは空飛ぶ円盤形の空中に浮かぶ何かに違いないと思うのだが。

写されたときの状況を知りたいが、年代が古すぎて撮影者もネガの行方もはっきりしない。

アルバムの所有者である桐生益二郎さんは当時、中国北部を転戦された方である。現在年令は五十代。家元を離れて神奈川で働いておられるので帰省を待って話をうかがった。

その要点は

- (1) この写真を入手したのは昭和十六年か十七年と思われる。
- (2) 場所は中国の河北省滄県、あるいは浙江省臨汾(平陽)らしい。
- (3) 撮影したのは本人ではなく、また、戦友の中に写真機を持った者がほとんどいなかったこともあり、たぶん地元の写真店で求めたものらしい。アルバ

ム中のほかの何枚かの写真(たとえば中国女性のポートレート)と同様に、この写真も土地の記念に買ったと思われる。

少し推理してみよう。

写されたのは戦争中であるが、UFOとか円盤が人々の話題に登場するのは戦後のことである。したがって撮影者X氏は街路上空に「新型の飛行船」か「気球」と思われる物体を見たようだ。X氏はその物の形態の珍奇さに魅かれて風景写真を撮影した瞬間、偶然にこの飛行物体が侵入した。

私はここで「UFOと宇宙」誌六号(当時は「コズモ」)の一枚の写真を思いだした。それは埼玉県青木敏明さんが寄せたもので「戦場に出現したUFO」と題されている。その場所がやはり中国(北部)で、年代も同じ昭和十七年とあるのがおもしろい。

さて、この写真を「空飛ぶ円盤」とみると、これに似ている円盤のタイプはドーム型のアダムスキー円盤。ところが米国のジョージ・アダムスキーがパロマー・ガーデنزでこの型の円盤を確認した(と言われている)のは昭和二十七年で、この写真が撮られてから約十年後のことである。

※この写真の別な解釈やこの街の所在について、また当時の中国で同種の問題をご存じの方はぜひご教示下さい。

鳥取県

三朝町のUFO出現騒ぎ

ダイヤのブローチ状に輝く謎の光体！

● 梶川 満

昨年（一九七五年）七月始めから鳥取県ではUFO目撃事件が相次ぎ、新聞でも数回報道された。

三朝町でも新聞報道以前より幾度となく目撃され、私の目撃回数も数十回に達している。目撃者の延べ人数もおそらく百人を越えていると思われる。

目撃ケースのすべてを詳しくレポートすることは時間的にも困難であるので、航空機としては異常と思われ、通常とは異なる行動をとったケースなどを写真掲載で重点的にレポートしたいと思う。

ところで、私以外の人でUFOの合体、分裂など、驚くべき光景を目撃しているが、このレポートは私自身がこの目で見たものだけを記録した。

● 七月八日のケース

この日は二回目撃。

午後二時五分頃、自宅裏で頭上を通

る飛行機を見上げていた（六日目撃したものが飛行機ならば、どのくらいの高度だろうと考えながら）。

ツバメが数羽、かなり高いところを飛んでいたのが最初はその黒い物体をツバメと思っていた。するとその豆粒大の物体は飛行機の右四十五度ぐらい後方に一定の間隔を保ちながら追跡を始めた。そこであわてて家の者をつれだ。母と弟が出て来て私の指さす方向を見て鳥ではないと確認する。しかし私は内心では、もしかしたら鳥の見間違いかも？と半信半疑であったが、後日の新聞報道で美保基地のレーダーで確認されたことを知った。

目撃継続時間は五分程。仰角は八十度。物体の大きさは豆粒大が遠ざかってゴマ粒大となり飛行機が見えなくなる少し前に見えなくなった。

午後二時五分の目撃のあと、近所のT氏が来て、昨夜十時頃、私が六日夜目撃したものと同一物体を目撃し新聞

にも報道されていると教えられた。

そこでカメラを三脚にセットし旅館「岩崎」上空に向けて待つ。二十三分十五分頃、二つのライトをつけた飛行機が現れ、「きょうはもうダメかもしれないから飛行機でも写しておこう」とシャッターを押していたところ、すぐあとから飛行機の現れた上方に、七月二日目撃したのと同様の光体が出現した。それは、まるで数個のダイヤモンドをちりばめたブローチが空から音もなく降りて来たという美しさで、あわててシャッターを押した。弟を呼ぶとすぐ飛んで来て「あつ本当だ！」とビックリしていた。母もこの声を階下で聞いてすぐ外へ出て見ていた。青白い光が数個キラキラしながら音もなくグライダーのように飛んで行くのを見るのは我ながら信じられなかった。後日、写真を引き伸ばしたところ光体の光跡の下に平行して最初に出現した飛行機と思われる物体の光跡もかすかに

目撃事件の全記録

月	日	天候	時刻	場所	その他	月	日	天候	時刻	場所	その他
7	2	晴	21:15	医大付近	真うしろから目撃	8	3	晴	20:25	自宅二階	飛行機の1分後に出現
	6	晴曇	22:05	温泉会館前	ブーンという音 東へ			晴	21:00	砂原近辺	花火の最中
	8	晴	14:05	自宅裏	YS11機を追跡		5	晴	21:30	自宅二階	飛行機の1分後に出現
		晴	23:15	自宅二階	カシオペアの上から東へ		7	雷雨	21:25	〃	西から東へ通常コース
	9	曇	21:20	〃	西より出現		8	晴	21:40	〃	〃
	10	曇	21:55	〃	東より出現		19	晴	21:30	〃	飛行機のすぐあとを追跡
	11	曇雨	21:55	〃	西から東へ通常コース		20	晴	23:30	〃	西から東へ通常コース
	13	雨曇	22:08	〃	〃		21	晴曇	21:20	〃	〃
	27	晴	21:55	〃	〃		29	晴	22:15	〃	〃
	29	晴	21:45	〃	山頂付近で停止(1分程)		31	晴	23:15	〃	〃
	31	晴	21:15	〃	西から東へ通常コース						
8	1	晴	22:20	〃	24時に東から出現						

同時目撃者はほとんどの場合、3～10人程

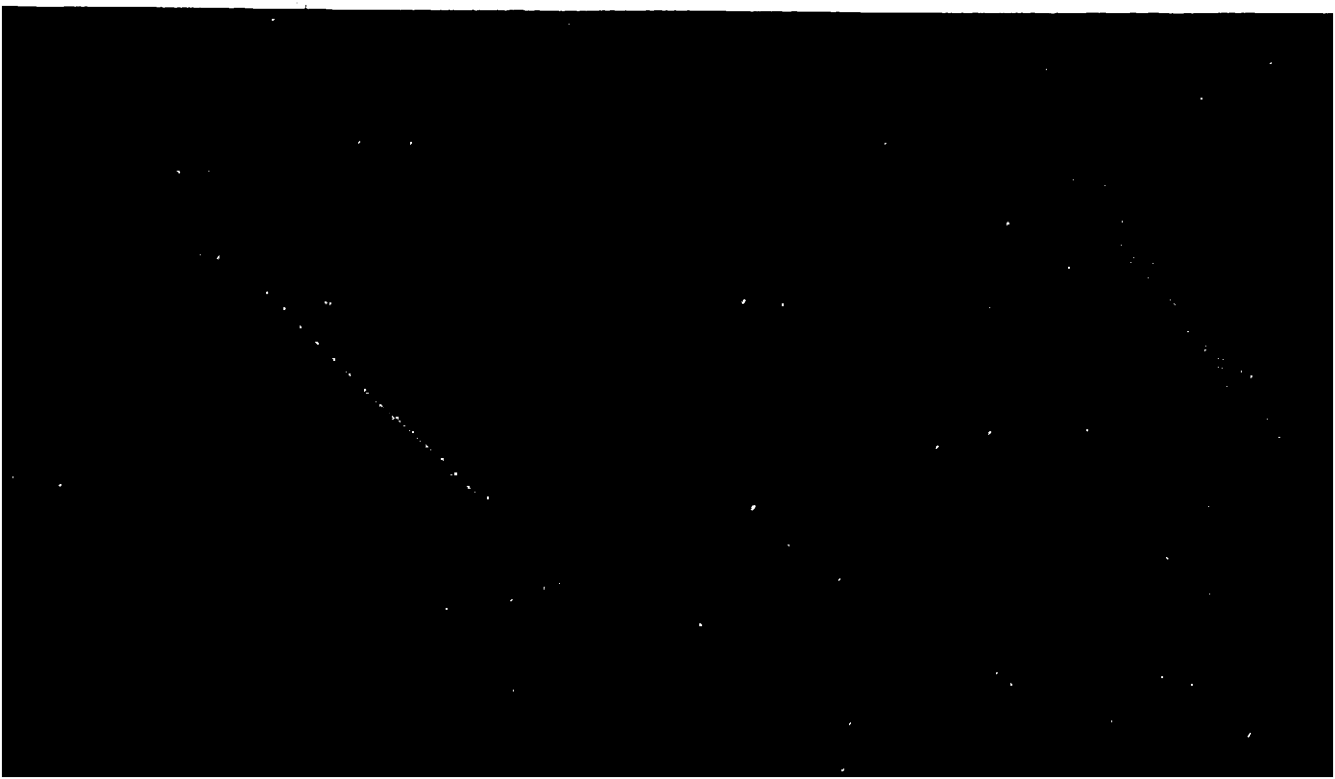
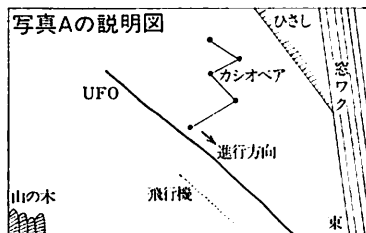
写っていた。このときもやはり飛行機を追跡していたのだろうか？

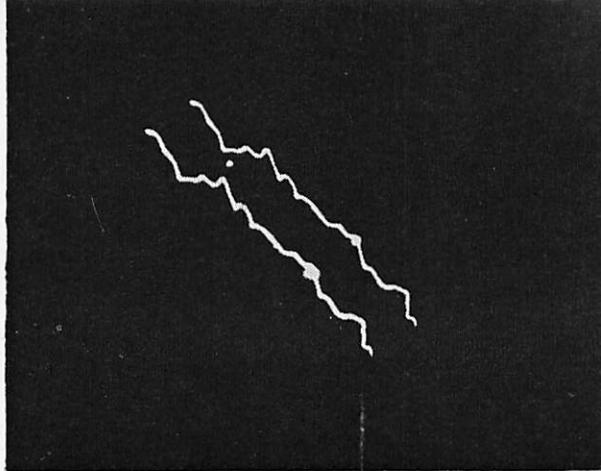
目撃継続時間三～四分。仰角六十度。方向はカシオペアの上方から東へ向かう。この日の物が一番輝きがきれいだった。写真A 写真B



●写真A UFOの光跡の下にかすかに飛行機の航跡が写っている。■撮影データ キヤノンFTb 50mm F1.4開放 90秒 フジカラーⅡ。

●写真B ダイヤのブローチ状に光りながら光跡を描く。■撮影データ キヤノンFTb 50mm F1.4開放 10秒 フジカラーⅡ。

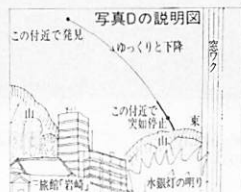
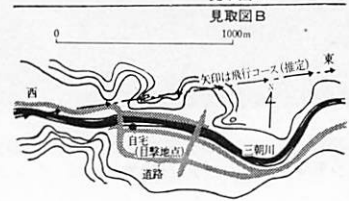
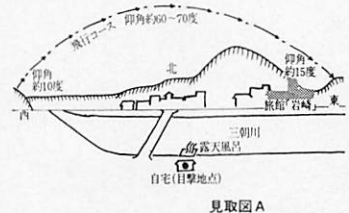




●七月二十七日のカース

夜二十一時五十五分、いつものコース（西、仰角二十度→七十度→十五度、東）で出現。ただしこの日は十四日ぶりに出現。これまでより光の数が少なく、左右に青白い光が一個ずつ真ん中に小さな赤い光が点滅し、左右の光も一秒間隔くらいで強く光っていた。目撃時間五分程。直後、かねてより連絡していた新聞記者のM氏より電話があり、全く同じ時刻に十キロメートル程離れた羽合町で目撃したと言う。こちらの物体より光の数が多く、6個程見え、やはり音は気をつけていたが全然聞こえなかったと言う。途中

●写真C 左右の青白い光がついたままになり、真ん中の赤い点滅は一回になっている。■撮影データ カノンFTb 135mm F2.5開放 1秒 トライX 2倍増感。



●七月二十九日のカース

二十一時四十五分空を見たらもう出ていた。最初、東から出て来たと思っていたが、光体はゆっくりと東の方へ降下しだし、まもなく山頂に隠れるなど思ったところで急に止まり、そのまま約

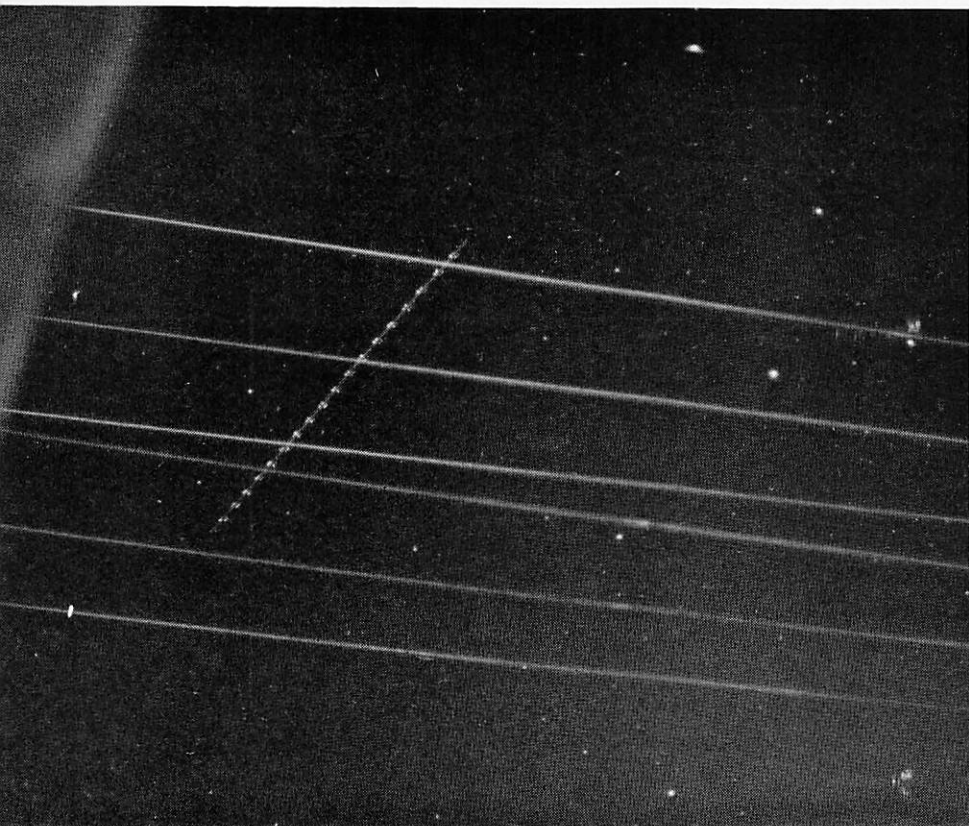
で点滅をやめて光がつきっぱなしになったので思わず「あっ止まった」と思ったそうだ。M氏は初めて見た驚きでかなり興奮したような口ぶりだった。M氏のほとんど真上を飛んだそうで、そうするとこの日は同じような物体が十キロメートル程離れて同じ時刻に平行して飛んでいたことになるようだ。この日はいつもよりややスピードが速いように感じた。写真C

●写真D 光体はゆっくりと東へ降下し、停止した後、山頂へ隠れる。■撮影データ カノンFTb 50mm F1.4開放 60秒

六十回ぐらい点滅（約六十秒間）。父と弟と三人で見ていたが三人とも思わず「あっ止まった」と声をあげた。その後ゆっくりと山へ隠れ、また三人とも思わず「あっ着陸した」と声をあげた。私はその後その山の裏側が見える

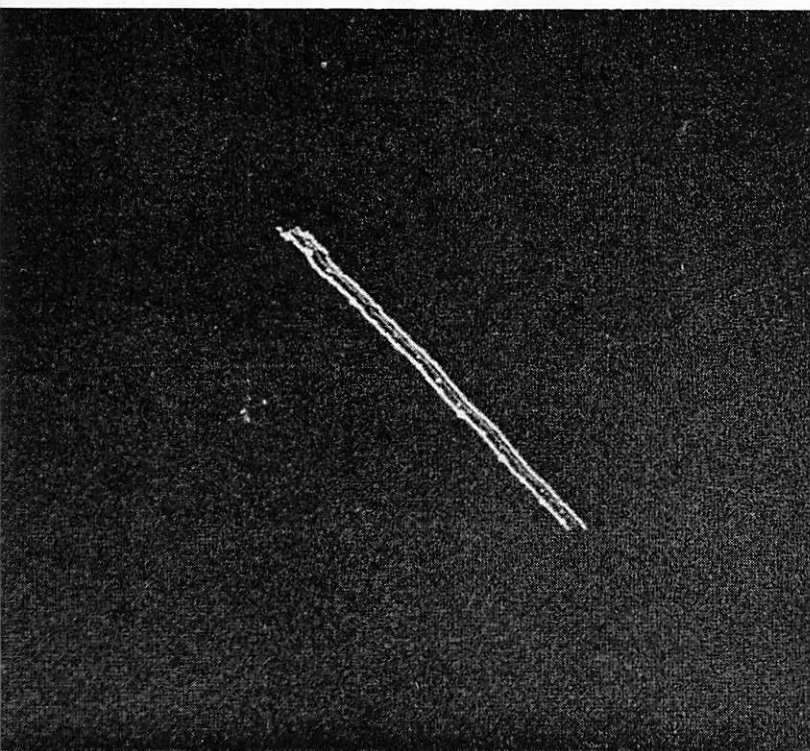


道へと走って行ったが途中で気味が悪くなりひき返してしまった。その間に倉吉市小鴨のY氏より電話があり裏大山の方角よりUFOが現れて三朝の方角へ向かうのを目撃したと言う。写真D



●写真E 真ん中のオレンジ色がついたまま、左右の青白い光が二回ずつ点滅している。赤も点滅している。■撮影データ キヤノンFTb 50mm F1.4開放 20秒

●写真F 左右の青白い光は強く、真ん中の赤い光は弱くなっている。■撮影データ キヤノンFTb 135mm F2.5開放 10秒 トライX 2倍増感。



●七月三十一日のケース

夜九時十五分に目撃、この日は6個
(図1)の光がはっきり見えた。写真E



●図1

●八月三日のケース

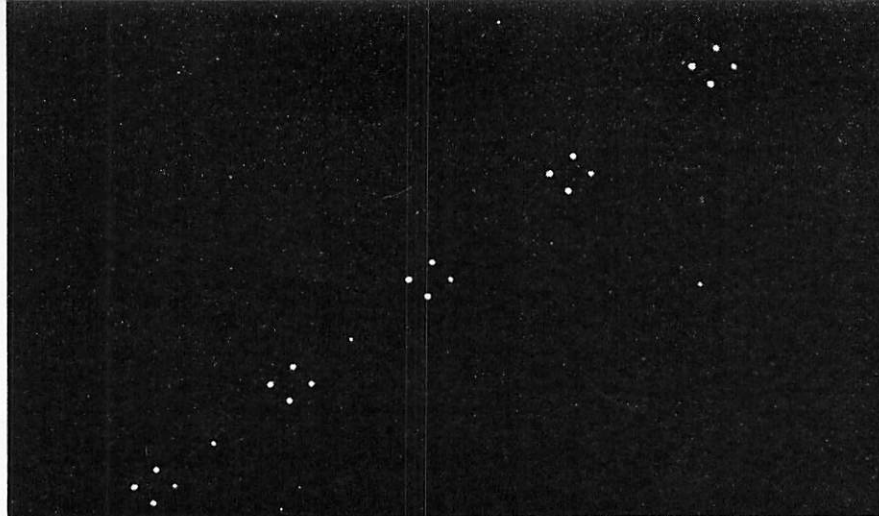
この日も二回出現。夜八時二十分頃父が「おい、飛行機が飛んでいるぞ」と言う。この時間は飛行機の通る時間なので別に見もせずにいる。それから五分程して父が花火を見に出ていてUFOを発見。皆を呼ぶのであわてて飛び出すと、もう岩崎上空だった。花火

が上がる上をゆうゆうと飛んだのが印象的だった。西の山から出たのは私たちが見るより五分程前だと考えられるので飛行機の出現時間とほぼ同じと思われる。

この日は、町の祭である「キューリー祭」の前夜祭であったので屋外でいろいろな催しが行われており、数十人がこの不思議な光体を目撃したそうである。写真F

●八月七日以後のケース

このときの写真類は時間と共に点滅の仕方が刻々と変化している様子がわかる。写真G 写真H



●写真G 中心のオレンジ色が消え、真ん中の赤い光も消えて最後の方で点滅。左右の光は二回ずつ点滅している。■撮影データ キヤノンFTb 135mm F2.5開放 約10秒 トライX 2倍増感。

UFOについてわかったこと

■物体について

◇形

形は光だけしか見えないのでわからないが双眼鏡で観測した光の配列の変化(図2)から推理できるのではないかと思います。

◇大きさ

実際の大きさは見当もつかないが、見かけ上の大きさは私の家の上空を通るYS11機とほぼ同じくらい。写真では航空機の航跡の幅よりやや大きい。

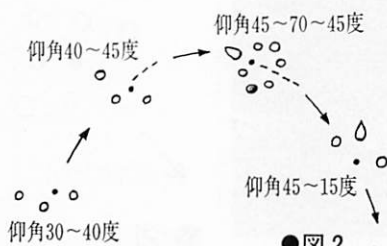
◇明るさ

一等星ぐらいの明るさ(閃光が出ている場合)

■飛行状態について

◇仰角と方向

これについては何度も書いたが、西から出るときは仰角約十度、真上に来



たときが約六十度~七十度(北)、東の山へ隠れるときは約十五度。東から西へ向かったのが二回あり、そのうち一回は私も目撃。

◇飛行中の形態の変化

形が変化したかどうかはわからないが光の配列が瞬間的に変化した。

◇飛行中の色の変化

これまでも記したようにオレンジ色の光の中から更に青白い光が閃光のように出る。中心の赤光も閃光のようにパッと光る。また双眼鏡で見ると最初に出て来たときには進行方向に対して、右側に緑色の光が点滅しているが、近づくにつれて見えなくなりオレンジ色の光に変わっている。ただし、これは二回しか確認していない。

◇飛行中の光度の変化

光度の変化というよりも点滅する光の数が刻々と変化しているのが写真によりよくわかった。光り方を形容するのにはチカチカというのが一番ピッタリで遠くで見ると星のようにキラキラと見える。

◇推定高度

全く見当がつかないが、層雲や積雲の上を飛んで行くのを数回目撃した。肉眼で見た感じでは一千~二千メートルの間ではないかと思う。

◇推定速度

西の山から東の山まで一キロメートル程あり、西から出て東へ隠れるまで

の時間は七分~八分程。肉眼では飛行機(プロペラ機)と同じか、やや速い位に感じる。

◇音について

目撃者のほとんどすべてが音は全然聞こえなかったと証言。聞いたという人は三人程いるが「聞こえたような気がした」とか、「通過してから聞こえた」と言うようにあいまいで目撃中にはっきり聞いていない。

◇鳥取気象台の意見

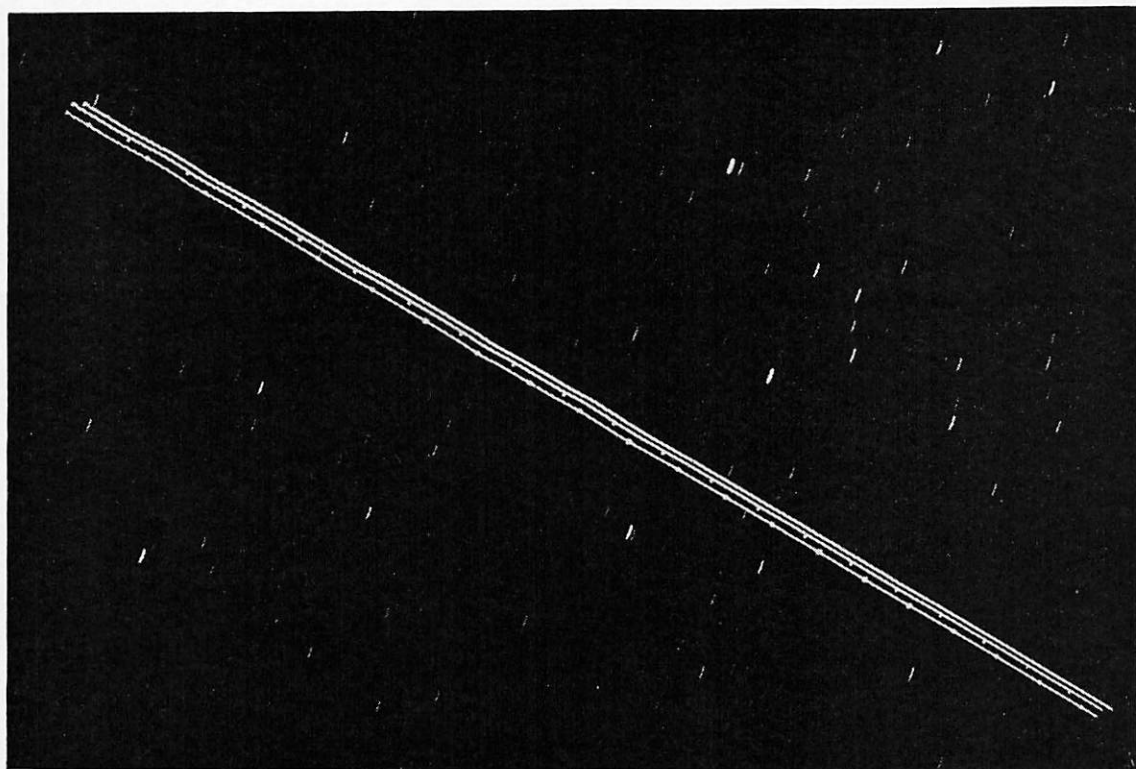
気球にも小さなランプは付いているが、光を追跡してコースを知るのはなく、電波で追跡するのだから、光は小さく地上からは見えない。三朝町上空を通るとすれば、おそらく米子で上げたもので、三朝上空を通過する頃は一万メートル以上の高度となり見えるはずはない。しかも光は点滅しない。

◇自衛隊美保基地の意見

美保空港に着陸するものはレーダーで確認しているが、通過するものは、いちいちチェックしていないので電話での問い合わせには該当機なしと答えている。しかし美保基地上空の鳥取寄りには二十一時過ぎにソウルから大阪、東京へ向かう飛行コースがあり、また米軍機は美保から岡山を通過して岩国へ向かうコースをとっている。

UFOの正体について

写真からもわかるように、この光体



●写真H 三個の光の上方は点滅をやめている。左右の光はときどき青白く強く光る。■撮影データ キヤノンFTb 135mm F2.5
開放 10秒〜20秒 トライX 2倍増感。

は流星、気球、星、鳥、人工衛星などの見間違いではなく、見間違いとする航空機の標識灯という可能性が大きい。以下それらの疑問点を列記してみる。

■航空機ではないかと思われる点

- ◇コース、速度がいつも同じである。
- ◇肉眼では多くの場合、光が三個見え、中心の赤い光が点滅している。
- ◇双眼鏡で見ると緑色の光の点滅が見える。

◇最後尾の光がローソクの炎のように見えジェット機のバックファイアーのようである。

◇出現回数が多いにも多い。

◇これまでのUFO目撃例や写真には同じようなものが、私の調べた範囲では見あたらない。

以上いろいろとあるが、航空機であるとするとおかしなところや説明のつかないことも数多くある。それを次に列記してみる。

■航空機としては説明のつかない点

◇光は明るく、はっきりと見えているのに音が聞こえないこと。

◇光の数が多いこと。肉眼での最高が六個、双眼鏡では十個程見える。

◇普通に見える航空機の夜間灯より明るく見え航空機の場合はずいぶん見失ってしまう。とても山から出て来ると

ころや隠れるところまで見えない。

◇一分間ほど空中で停止したこともあ

る。

◇肉眼でははっきりわからないが、写真では一つの光の光度が三段階に変化しているし、上空を通る航空機のコースと一致しない。

◇航空機の点滅と異なっている。(オレンジ色から更に青白色の閃光が出たり、点灯している光が時々刻々と絶えず変化している)

◇航空機のすぐ後(一分以内)に出現したことが数回ある。

◇最後尾の光がジェット機のバックファイアーとすると形、大きさが一定でオレンジ色であることなどが不自然。(ジェット機は高々度管制で飛んでいるので光がそんなに見えなはずである)

◇瞬間的に光の配列が変化する。

以上の理由により、私は九十%航空機ではないと思いますが、航空機の標識灯などについて、すべてを調べたわけではなく、残りの十%は航空機の可能性があると考えている。

このような意味で、この光体はまさしく未確認飛行物体であり、宇宙人の乗物かどうかは知る由もないが、UFOファンとしては宇宙人の乗物であってほしいのですが、そのような主観をさけて、ありのままに記録したつもりである。



奇蹟を起こす方法

S・Iとコンタクトするにはどうしたらよいか!

テッド・オーウェン

魔術的に希望を実現させる! 人間の意のままに雨を降らせ、ハリケーンを起こし、不治の病を治し、これまで二百例以上の「奇蹟」を行った超能力者テッド・オーウェンが、だれでも超能力者になり、S・Iとコンタクトできるようなる秘訣を公開する――

端的に話そう。私は読者の時間を浪費したくない。この記事は「奇蹟を起こす方法」を述べたものである。だから自分のマインド（心）を応用して、次にあげた各項目を実現させることに興味があるならば、この記事は役立つだろう。

■早魃地帯に雨を降らせる。

■ある目標をめぐってカミナリを直撃させる。

■ハリケーンを起こして、それを誘導する。

■空中を飛んでいる飛行機をコントロールする。

■海に浮かんでいる船（または水中の潜水艦）をコントロールする。

■不治の病を癒やす。その他

この記事に述べてある「奇蹟を起こす方法」をひとたび読者が応用するならば可能になる物事は無数にある。右にかかげた各項目は「自分の心」で実現させる例としてホンの少数の例にすぎない!

読者は以上の説明を疑うだろう。全然問題にならないと思うだろう。右の各項目を実現させることは人間にとって不可能と考えられるからだ。それとも、可能だろうか？ モーゼやエゼキエルはこうした奇蹟を行ったのではないか。それは聖書時代の話だ？ だが、ここで大切なことは「テッド・オーウェンとはだれなのか」ということと、「オーウェンは何をやっているか」ということなのである。一見きわめてバカげたように見えることをやっていると称するオーウェンの奇蹟の根拠はどこにあるのか。

私はテッド・オーウェン、すなわちPKマン（超能力者）であり、種々の奇蹟を起こす特殊な能力の持主である。

私は右の各項にあげた、一見不可能と思われる物事をやってきた人間である。そして実際に私によって奇蹟を起こさせられた人々の宣誓書を持っている。

たしかにこれまで二百件を超える「奇蹟」を行ったが、これらはすべて記録してあるのだ。これは物質の力を超えたマインド（心）を応用したのである。

つい最近も三週間にわたって、私を非難する科学者連を尻目に私はノーフォーク地帯へ大雨を降らせたのだ。この地帯は数カ月も日照り続きで、ひど

い目にあっていたのである。私はハリケーンを起こしてそれをノーフォーク州（米国東岸）へもたらしたので、雨が四日間も降り続いた。そしてこのことを立証するために一機のUFOをノーフォーク上空へ出現させたが、これは私が実現させていた他の奇蹟的現象に対する裏付けとしてやったのである。こうした奇蹟を行う前には必ず科学者、政府、地方新聞などへ手紙でそのことを知らせていたので、単なる偶然とは言えないだろう。これについては多数の宣誓書が手許にある。

とにかく証言はそろっているのだ、次の段階は読者がみずから奇蹟を行う方法を伝授する前に、土台になる知識をお伝えしよう。そうすれば実態がもっとよく理解できるだろう。

私は五十年前に米インディアナ州、ベドフォードで生まれた。四十歳になるまでは超能力の開発研究に打ち込んだが、この超能力なるものは読者がこの記事を読んだあとで応用できるのである。これはさほど驚くべきことではない。エジソンは光を発する電灯を完成するまでに多年にわたって実に五万回の実験を重ねたのである。彼がそれに成功して一般人に知識を伝えるや、だれでも電球が作れるようになったのである。

たしかに私は一人間にすぎない。私の頭脳はUFO人によって改変されて

いる（以下UFO人をスペース・インテリジェンスの略語としてSIで表わす）。それで私の頭は発信と受信の両道通話装置になっているのだ。したがって読者が私の指示に従って実行するならば同じ事が起こるだろう。そしてSIとコミュニケーションすることが可能になるばかりでなく私と同じように各種の奇蹟を行うこともできるだろう。

読者がこの記事に述べてある「方法」をマスターすれば、世界を動かすこともできるはずである。そこで疑問が起こるだろう。「このような計り知れない価値を持つ知識を、なぜ一般人に公開しないのか？」「公開するのは危険なのか？」

それでは答えよう。現在、一般大衆の中には「眠れる人々」がいる。つまり偉大な人格を内部に秘めた人々がいるのである。現在、米国が深刻な悩みをかかえていることは公然たる事実である。そこでSIはこれらの「眠れる人々」を発見し、それを覚醒させることによって一般人を混乱から救出しようとしているのである。したがって、この記事に述べてある「方法」をマスターして実行するならば、SIはその人に目を向けるだろう。そのとき彼らは（SIは）その人のマインド（心）をテレパシーを用いて調査するだろう。その人の過去の行状はすべてチェックされるだろうし、その人が未来に

おいてやれる物事のすべてが「予測」されるだろう。SIは未来を予知することができからである。それからSIは本人にコンタクトするかどうか、本人の頭脳を修正するか、超能力を与えるか、人類に益するか、などを決定するだろう。もし本人が他人を傷つけたり、妨害したり、盗んだり、殺したり、憎んだり、金を儲けて裕福になったりするならば、SI（宇宙人）は本人を無視するのである。

SIは、人類を建設的な方向に進歩させるために自分の新しい力を応用しようとする地球人を発見してその人を向上させることにしか関心を持たないのである。

ここで私は断言したい。こうした計り知れない価値を持つ力を応用して他人を傷つけようとする「悪人」による危険は全然存在しないのであると。

ここで読者は考えるかもしれない。

SIは秀才だけを選び出すのではないのか、と。たとえば私は一五五千人の会員を擁する「メンサ」という国際的な団体に属しているが、この会員の知能指数は異常に高く、これに人會するためには知能テストを受けて、少なくとも一四八以上の点数を得なければならぬ。しかるにSIはコンタクトテスターとして農夫、兵士、秘書、トラックの運転手というような人を選んだりする。すなわち、この記事に述べてあ

る「方法」にしたがって自分のマインド(心)を向上させ、メンサの会員を問題にしないほどの超人的な頭脳を持つようになれば、だれでもSIから選ばれるのである。その「選ばれた人」は読者である「あなた」になるかもしれないのだ。

よろしい。これで基礎は十分だ。伝授にとりかろう。読者は「方法」を知りたがっている。この「方法」はオソドックスなものではないが、心配する必要はない。それを学んで実行しているあいだは、自分のやっていることを他人に話さないほうがよい。ただし自分を援助してくれる「ヘルパー」だけは別だが、これについてはあとで述べる。

奇蹟を起こす

「心のイメージ法」

まず第一段階として、D・ロース著のMemory Courses という書物を手に入れることだ。この書には変わった考え方をすることによって一連の言葉を記憶する方法が述べてある。読者は最初の二十語を記憶するだけでよい。たとえば第一番目は「帽子」である。そして次に記憶しようとする物——たとえば「飛行機」ならそれを関連づけるのである。飛行機を記憶しようと思えば、巨大なジャンボ機が帽子のフチ

のまわりをぐるぐる回っているイメージを描けばよい。バカらしいと思われるだろうが、これは「心にイメージを描く技術」なのである。そして心にイメージを描くことは超能力者になるための二つのキイの一つなのである。ロースの書物を手して、その中に述べてある記憶用の二十語から練習を始めることだ。帽子、メンドリ、ハム、野ウサギ、丘、クツ、雌牛、ハチの巣、サル、森、潮流、タイヤ、ホテル、皿、犬、ハト、オケ、鼻である。これをグループ学習として行い、各メンバーに記憶の対象物を言わせて、他のメンバーが紙に記録する。二十個の連想が終わったら、順々に思い出させるのである。

超能力者になるためになぜこんな練習が必要なのか、と思われるだろう。あなたがついに念願かなってSIと

接触したり奇蹟を行ったりすると仮定しよう。実際には、これらすべては心中にイメージを描くことによって行われるのである。だから右に述べた記憶練習をやっているときは、実際には心中のイメージを強化するために心の中に筋肉を作り上げているのである。その練習をやるたびに心中のイメージを見るのがしだいに容易になるだろう。そのイメージをコントロールすることも楽になってくるはずだ。

超能力者になるのに、この「心のイ

メージ法」がいかに重要かということをお話ししよう。数年前、私がメイン州で著名な不動産業者エド・エームズ氏に、私は宇宙人とコミュニケーションして数日以内にブレイワー・バンガー地域の上空へ一機のUFOをはっきりと出現させるように頼んでみよう、そうすればその出現事件が新聞に報道されるだろう、と話したことがある。よろしい、果たして実現するかどうかみてみよう、と氏は言った。そこで私はSIとコンタクトする「心のイメージ法」を応用し、デモンストレーションとして私が望んでいた光景をSIに見せているイメージを描いた。すると数日後に一機の四輪がブレイワー・バンガー地域の上空に目撃された上、自動車のエンジン停止させて、消えて行った。そしてこの事件がローカル新聞の一面に掲載されたのである。この事件に関するエームズ氏の宣誓書を私は所持している。もし「心のイメージ法」を応用していなかったらこの「奇蹟」を起こすことはできないだろう。

別なケースとして、ワシントン市郊外の病院に入院していたブレンダー・スウ・ペンミントンという娘の例をあげよう。彼女は頭蓋骨を砕いて死にかかっていた。そして両親が娘を救ってやってくれと私に頼みに来た。そこで私はSIにコンタクトしている場面と、私がSIたちに自分がやろうとしてい

ることを「話している」光景とを心中に描いたあと、病院へ行って娘の部屋の中に立ち、次元の異なるシンボル(複数)が娘の体の上に置かれてそれらがしだいに大きくなってゆきながら娘を癒やしてゆくイメージを描いた。

このシンボル(象徴)というのは一つは虹である。この虹が彼女の頭にかかっている一日ごしに大きくなってゆき、ついに部屋全体に充滿してゆく光景を描いたのである。医師団がサジを投げていた瀕死の娘にとってこれが転機となった。現在彼女はウェストバニアで元気に暮らしている。これも「心のイメージ法」を応用しなかったら実現しなかっただろう。このケースも記録が残っている。

私は十八歳のときに初めてロースの記憶法を読んだが、最初はつまずいたもののやがてマスターした。もちろん、ほんとうにつまずいたのではない。SIがテレビシーによって私を導いたからである。つまり彼らSIがまだ「眠っている」私を他の必要な資料を手入して彼らと共に彼らのために働くように導いたのだ。

したがって、この「心のイメージ法」がいかに重要であるかがわかるだろう。これはむづかしい方法ではなく、たいそう楽しいことであり、友人たちに応用すれば喜ばれるし、何よりも自分の頭脳を強力にするのである。

第二段階の

「自己暗示法」

さて、この方法を習得するための第二段階は最も重要である。ある有名な科学者が——本人は地位を守るために名を秘したがっている——私のやっていることを徹底的に調査して、S I が私に超能力を授けたのは、私が自己暗示力をマスターしていたからだろうと説明した。この「自己暗示」が第二段階なのである。人によっては自己暗示力を身につけるのに数年を要することもあるが、読者が数日間でやれるように説明しよう。

たしかに自己暗示は心中の秘密のドアを開くキイとなるもので、これがまだ未利用のまま埋もれている偉大な力の貯蔵庫を開放するのである。これを応用してやれる例を二、三あげてみよう。

数年前テキサスで私はチャリー・ターナーというセールスマンから車を一台買ったことがある。チャリーは英国人なので彼の言葉のアクセントが私の興味を引いた。契約書に記入しながら二人はしゃべり合ったが、そのとき彼は、この数カ月間車は全然売れず、一文なしの状態だという。私は相手の心中を見抜いてこの男が偉大な潜在能力を秘めた異常な人間であるとい

うテレパシクな感じを受けたので、自己暗示方法を教えるから、それを練習したらどうかとすすめた。すると金がなく教授料が払えないという。そんなものは必要ない、タダで教えてあげようとして、私は彼のトレーニングを始めた。

自己暗示法を習得してからまもなく彼は車のセールスをやめて輸出入の仕事始めた。そして数カ月以内に信じられないほどに成功したのである。銀行に多額の預金をし、この分野で広く知られるようになった。この大成功は自己暗示法の習得の結果であり、日常生活への応用のたまものだと言っているが、それはかりではない。ある夜、郊外の遠い場所に住んでいたチャリーはストーブの上についている外部モーターを修理しようとして持ち上げたところ、ストーブのバイロットランプがストーブを発火させ、爆発して、ガソリンの炎がチャリーの左手と左腕を直撃した。すぐに炎を消して救急車を呼んだが、来たのは三十分もたつてからだつた（これは朝の三時半に起こつた出来事である）。あとで彼が語るところによると、自己暗示法を応用してものすごい苦痛をなくさなかつたら気を失っていただろうと言う。しかしもっと悪いことが起こつた。病院に到着してから彼は左腕から自己暗示を解いてしまったのだ。（そうせよと

私が教えていた）。これは医師が彼に処置を施せるようにそうしたのである。ところが彼は医師が来て診察するまでは痛みをやわらげる注射を打てないと言つた。それから伝えられたのである。そこで彼は激痛にもかかわらず再び自己暗示をかけて、医師が来るまで四〇分間すわっていた。やがて来た医師は左腕はもう使えものにならないだろうと言う。あまりにもひどく焼けたのだ。このときチャリーは私の教えにそむいて、先生の手当は必要ない、自分で腕を治す、と医師に言ったのである。彼はタクシーで帰宅し、一週間ほどベッドに横たわつた。腕の激痛をなくすばかりでなく、皮膚と筋肉が再生するようになると、自己暗示法を用いたのである。一週間後に彼は家の屋根に登り、新しいテレビアンテナを取り付けた。医師が使いものにならないだろうと言つた左腕を用いたのだ。翌週には自分の車を乗りまわして日常の仕事をやっていた。その次の週に彼は私の所へやって来て、事件のことを話し、左腕と左手を見せてくれたが、左手の甲に小さな茶色の点が残っているだけだつた。彼は完全に治つていたのである。

以上の件を詳細に述べたのは、日常生活や緊急事態が発生した場合に自己暗示法がいかに役立つかを示しているからである。もちろん痛みというものは警戒信号であるから、自己暗示法は医師の所へ行くまでの緊急時にのみ応用すべきである。私はチャリーに対して病院にいて医師の指示にしたがえどとなつた。「医薬と外科手術が第一だ、チャリー」と叫んだ。「そのあとで自己暗示法を応用するんだよ」肉体的な苦痛のコントロールは、無数にある自己暗示法のなかの一つにすぎない。ある男が自己暗示法を習得した。歯科医を死ぬほど恐れていたからだ。それで十二年間も歯医者へ行ったことがなかった。彼は自己暗示法をマスターするとすぐに最寄りの歯科医院へ突進して、自己暗示をかけた上で十二本の歯を抜いてもらったのである。こうした実例を多く知ろうと思えば、自己暗示に関する良い書物を読むとよいだろう。それには多くの書物があるので選択は読者にまかせよう。それらは基礎知識を与えるものなので、ここではもっとすぐれた方法を教えることにしよう。

自己暗示法を伝える前に、少し予備知識を伝えておく。

痛みは警戒信号である。あなたは緊急時において痛みを消すために自己暗示法を応用し、そのあと病院へ行くべきである。それから自己暗示を解くのである。なぜなら痛みは医師が治療をする上で指針として必要なのだ。常に医師と共に行動せよ。自己暗示法を

薬、医師、手術などのかわりに用いてはならない。

ところで、私が自己暗示法を教えた人々を少し紹介しよう。実業家「自己暗示法を用いて以来、人々が私をいらさせなくなったし、もう私をバカにしない。私は実に嬉しい気分だ。別人になったみたいだ」。裁判所詰め記者「あなたから自己暗示法を学んで以来、そのすばらしい結果に驚いている。それを応用してからは幸福そのものだ」。宝石商「あなたの自己暗示法で起こった物事は金で買えるものではない」。秘書「最初の二週間は何も起こらなかったが、ある日突然、かつてなかったほどに楽しくなった。信じられないほどなので、この幸せが逃げることを心配している。ほんとうに幸せなのだ」。弁護士「あなたが教えてくれた自己暗示法のおかげで、私の仕事は三パーセントほど増進した。これは真に役立つ方法だ」。裁判所詰め記者「今週私はもっと楽しくなり、もっとお金ができたし、これまでにないほど多くの仕事をやった。自己暗示法を用いてステノタイプのスピードを二十五語ほど増加させた。この自己暗示法こそ私の身に起こった最上の事柄である」。看護婦「まるで奇蹟だ。今は数年前と同じようによく眠れる。この数年間は夜間半分以上しか眠れなかったのに」。エレクトロ

ニクス技術者「二週間はこの方法が信じられなかったが、今はぐっすりと眠れる」。

このような例はいくらでもある。この方法がいかに強力で効果的かがわかるだろう。賢明に応用すれば（お望みなら医師の協力のもとに）、自己暗示法は驚くほどに自分の生活を改良するのである。だがもっと重要なのは、この方法によってあなたを直接にS Iや超能力の方へ導く可能性もある、ということである。

さて私がお伝えする自己暗示法は、あなたをS Iの方へ導くように工夫されている。しかしここで、その方法を応用することによって役立つ事柄を少しあげてみよう。

- (1) 憂うつな気分をなくして、楽しく愉快にする。
- (2) あらゆる物事に直面する勇気を起こさせる。
- (3) 疲れたとき、数分間で爽快な気分にする。
- (4) 必要とあらば眠気をもよおさないようにしてくれる（ただしこれをあまり長く続けられないように注意すること）。
- (5) 一夜、または必要ときに、ぐっすり眠らせる。
- (6) 肉体的な痛みや不快感をなくす。
- (7) 物事を遅らせるとか過食、喫煙、飲

酒などの悪習をやめさせる。

- (8) 恐怖、緊張、自意識過剰などを除く。

- (9) 自分の人格、他人に対する態度、周囲の状況などを改良する。

- (10) 自分を改良して収入をふやす。

自己暗示法の練習

さあ、自己暗示法の「秘密」は何か。

それはこうなのだ。人間の普通の意識状態においては、想念は潜在意識にさほど深く記録されない。ところが自己暗示による「引き金メカニズム」を応用すると、何に想念を集中していようと人間の心の力のすべてはそれに集中する。そして自己暗示をやめると、目覚まし時計と同じように心がセットされて、自己暗示をかけているあいだに命令しておいた結果が最大限に得られるのである。普通の意識状態においては人間は知能の五ないし十五パーセントを用いているが、自己暗示によってコントロールされた潜在意識は、知能の七十ないし九十パーセントまでを引き出させるのである。何という相違か！

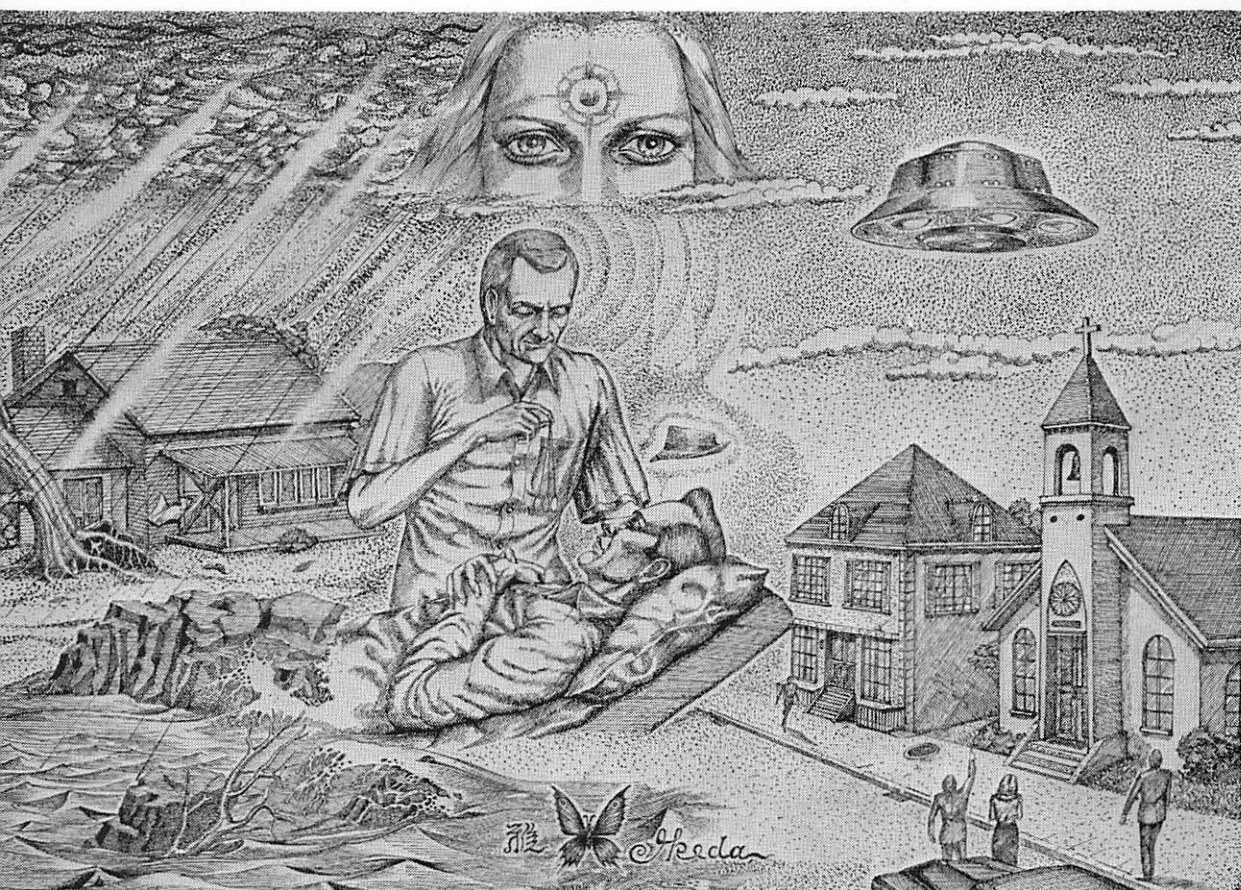
よろしい。それでは正確に自己暗示をかける方法を少しずつ教えることにしよう。

第一段階は、「ヘルパー」から暗示

をかけてもらうのである。ヘルパーは夫か妻、ガールフレンドまたはボーイフレンドなど、だれでもよい。この方法を茶化さないでまじめに取り上げてくれる慎重な人を選べばよい。あなたが何らかの疑惑を持っているなら試みないようにしていただきたい。

振子を一個用意する。珍品店で入手してもよいし、なければ長さ十五センチの糸の端に指輪を結びつけてもいい。室内のライトを消して、あかりを一灯だけあなたの後頭部の上のあたりにつける。そしてあなたは寝イスに横たわる。ヘルパーがその横に立ち、糸の端を持って、振子をあなたの眼前にぶら下げたまま前後に振り動かす。あなたの眼の少し上あたりを振幅十五センチで動かして、あなたはそれを見つめる。そして揺れ動く振子に眼が集中しているあいだに、ヘルパーは次の言葉を述べるのである。

「さあ、あなたは私の言葉を聞いて下さい。動く振子をじっと見つめながら私の声を聞きなさい。あなたの全身はしだいにリラックスしてきます。眼もしだいにリラックスします。二つかぞえと眼をつむり、あとは私の声が聞こえるだけです。一つ……二つ。さあ眼を閉じなさい。眼を開こうとしないように。あとでゼロというまではこの深い精神集中を解かないように。」



飛蝶 Keda

私の声だけを聞きなさい。他の事を考えないように……。あなたは今深くリラックスしてゆきます。呼吸をするたびに全身がますますやわらかくなるのを感じます。両手は布のようにやわらかくなる。

私の言葉を聞くことに心を集中させれば、ますます心の力を通じて良い結果が得られます。さあ、肉体内でこっている筋肉をすべてリラックスして、やわらかくしなさい。

ますますおだやかな感じ……。おだやかさと幸福感が全身を包む感じ……。あらゆる緊張といらだちは顔と首から消えてゆく。顔と首をリラックスして、この部分はやわらかくリラックスしてゆく。

(訳注)以下、全身をリラックスさせるための同じような言葉をしばらく反復する。これはいわゆる催眠術とは異なって、眠らせるのではなく、ヘルバーの声に心を集中させる基礎練習である)

さあ、注意して聞きなさい。今後あなたが自分で自己暗示を練習するときはいつも、五倍もリラックスし、五倍も全身がやわらかくなります。毎日自己暗示法を応用するたびに、ますます楽しくなりリラックスしてゆき、神経はますます静まってくる。練習するたびに急速にリラックスできるようになります。そして、ますます練習が容易になる。そして

て練習するたびに、ますます容易に心を集中させることができるようになります。

さあ、私の言葉を注意して聞いて下さい。そして言葉の一つ一つを受け入れなさい。これから述べる言葉は生涯あなたの潜在意識に刻みつけられて消えることはない。そして生涯あなたに対して強力に役立つのだ。強力に、

今後あなたが自分で自己暗示法を応用するときは、次のようにしなさい。

まず眼を閉じる。次に心の中に一個の電球を描き、自分の手が両眼の間のミケンに触れて、パッと点灯したところを心に描きなさい。これが「引き金メカニズム」。これを描き終わった瞬間あなたは表面の意識を消して、巨大な潜在意識にあかりをとめたことになる。ただしあなたが実際に目覚めていることに相違はありません。次にゆっくりと三つまでかぞえなさい。そうすると自己暗示の準備ができたことになる。それから力強く自分自身に語りかける。何度もくり返して、そのたびにますます力をこめて。たとえば『今日は私は幸せになる』と言うかわりに『今日ばかりか毎日私は幸せになり、リラックスして、おだやかになる。今まで私を悩ませ、いらいらさせていた物事は、もう私を挫折させる力を持たない。それらは壁にはね返るゴムボールのように私からはね返って行くのだ』

『』
言い替えば、自己暗示法を行っているあいだに自分に対して激励演説を行うのです。これを力強く反復する。それから自己暗示を解くのですが、このときは常に次の手順にしたがうのです。

こう言えばよい。『私はゼロをかぞえて体を起こす。爽快な幸せな気分が満ちて、心身ともに完全にバランスがとれている』続いて逆にかぞえなさい。……四、三、二、一、ゼロ……

額に手を触れたときに頭の中の電灯がパッと消えた光景を描いて、『さあ、起きよ!』と自分に対して大声で呼びかける。そして眼を開く。両眼の前に手を上げて指をビシッと鳴らす。これは深い精神集中を解いたシルシです。

以上述べた方法を心に刻みましたか? (彼または彼女はうなずく) よろしい、それでは私があなたの額に触れると、今述べた方法が生涯あなたの潜在意識にしっかりと刻み込まれる。これはあなたにとって強力に役立つ。強力に!

(ヘルバーは相手のミケンに触れて言う。『さあ!』)

さて、あなたが深い集中を解く前に、もう少し暗示しておくことがあります。このあとの二週間は、起こってくる物事についてあれこれ考えたり、それが妨げるのではないかと心配して

はいけません。それは明るいともしびを持つて暗い押入れに入り、その中に「暗黒」があるかないかを見きわめようとするようなものです。すばらしい結果を得るための秘訣は、せんさくしないで自分をそのままにしておけばよろしい。この自己暗示法を完全にマスターするには二週間から四週間かかるでしょう。だからそれまでに奇蹟的な結果を期待しないことです。

さあ、ゼロをかぞえれば深い集中が解けます。楽しい爽快な気分で、心身ともに完全にバランスがとれて……。あなたの神経はリラックスして落ち着いています。心身からあらゆる緊張は取り除かれる。体は爽快で軽く感じる。心に何かの心配、恐怖、不安があっても、集中を解くと消えてしまう。四、三、二、一、ゼロ! 眼を開きなさい! (ヘルバーは聞き手の眼前で指をビシッと鳴らす。)

(訳注)ここから再びオーウェン氏の話にもどる)

どうだろう、読者のみなさん。こればかりと長いけれども、ヘルバーがあなたに自己暗示法を教えるのに必要な「魔法の公式」なのだ。右に述べた手順のすべてを翌日かまたは数日後にもう一度くり返して行うとよい。今後、いつでも自己暗示法を応用するたびにやらねばならないのは、まず自分

の右手か左手の親指のツメの根元の白い半月形の部分を見つめて、「心は深く静まってゆく」ととなえるか思念することだ。そして眼を閉じて三つほど数をかぞえる。そうすれば自分の望ましい物事が実現するように自分自身に語りかける準備ができたのである。

SIに接近する方法

SIに接近するための方法は次のとおりである。次の言葉を小さな紙に書いて常にハンドバッグか財布に入れておく。「私は今、自分の心を長い時代を通じて古代エジプト、インカ、アステカの時代へ逆行させる。当時の偉大な秘密を知り、その秘密を私の所へ持ち返り、今私の住む世界で人類を援助するために応用するのである」。

自己暗示法を学んだら、週に二度この紙片をベッドへ持って行く。寝る前に普通の自己暗示法を行う。暗示法が終わって眼を開く前に、自分に対して次のように語りかける。

「私が眼を開くとき、自分で読む内容は大自然の力すべてにより必ず実現するのである」。

それから眼を開いて、紙片の文章を力強く読む。

もう一枚の紙片には次のような三番目の公式を書いておく。

「私はここに私の心、魂、肉体を創造

主にささげ、創造主が世界と人類を改善されることを決定されたときに共に働くのである。しかし私は悪魔を根底から否定し徹底的に排除する!」

右の第一の公式も週に二度応用するのだが、ただし朝、目覚めた直後がよい。普通の自己暗示法を行ったあとと眼を開いて、右の公式を力強く自分に向かって読む。それから眼を閉じて数え逆にかぞえて、起き上がる。そうすると楽しい一日をすごすことになるのだ。

以上で大体に説明したが、もしヘルバーがここに述べた方法に疑惑をいだくならば、真に信頼できる別な人をヘルバーとして選ぶ必要がある。私は多数の人にこの公式を教えてきた。正しく行うならば魔法のように作用する。だからヘルバーは信頼できる人でないといけないのだ。

「こんなことをやっている暇がないよ!」と言う人もあるだろう。「興味はあるがむづかしすぎる!」と言って本誌をバタリと閉じてテレビを見る人もあるだろう。

なかには深く研究して記憶法を習得し強力な「心のイメージ法」を開発する人もあるだろう。そしてヘルバーを得て自己暗示をマスターするだろう。そして百万の味方を得たように感じるだろう。しだいに幸せとなり、時の経過とともに自分の生活全体が変わって

改善されるだろう。だが紙片に書いた公式はバカらしく思われて、やらないかもしれない。

少数の人はこの記事に述べた方法のすべてをまじめに実行するだろう。そうすると二つの結果の内、一つが起るだろう。あたかもこちらが相手のドアーベルを鳴らしたのに応答するかのようになり、S Iが注目するだろう。彼らは本人の心を調べて、別な惑星からたらされた秘密事を扱うのに適した人間であるかどうかを決定するだろう。彼らが本人の心を調べて、その結果、欲望、意志の弱さ、権力欲、貪欲、野卑、残酷などを発見したら——本人がどんなに他人をごまかしていても、彼らS Iには地球人の心の状態すべてがわかるのだ——それ以上の進展はないだろう。そして超能力は与えられないだろう。

しかしあなたの方の社会のど真ん中に——おそらく主婦、社員、トラック運転手、弁護士、野球選手、その他職業を問わず、子供でも——私が述べた方法をマスターできる潜在能力を秘めた「眠れる人」が少数ながらもいて、S Iに心を調べられ、テストに合格して選ばれるような人がいるかもしれないのだ。

そのときからS Iは本人を選んで超能力を授けるだろう。彼らが私にそうしたように——。

あなたはS Iによってトレーニングと協力が望まれている。世界は現在危険な状態にあるからだ。人類はいつ破壊するかかわらない。しかしあなたの方のだれかがS Iに見い出され、認められてトレーニングを受けるならば、まだ世界を幸福な安全な場所にするチャンスはある。健全に生活でき、戦争も殺人も憎悪もない場所にすることができるのだ。

終わりに、創造主があなたがたを祝福せんことを祈る。勇気がわいてきて、この記事に述べた方法を試みようという衝動を感じるならば、ぜひやっていたいただきたい。創造主のために。

久保田八郎訳

訳者付記

テッド・オーウェン氏の「心のイメージ法」と全く同じ原理を述べた、望ましい物事を実現させる方法を、「希望を実現させる心の映画法」と題して日本GAPニューズレター第五十二号の二十二頁に訳者が述べたことがある。その当時訳者はテッド・オーウェン氏なる人物を知らず、五十二号の記事は別な方面から与えられたインストラクションを伝えたものであるが、むかしから訳者は何となく自分でこの方法を心得ていて望ましい物事の現実に応用していた。東京へ移住してからは特にこれを実行してしばしば好結果を得

得ているし、五十二号に発表以来、会員の方々からも種々の実現報告を受けている。

自己暗示法も重要である。本記事に述べてある方法はいわゆる催眠術や自己暗示法ではなく、強烈な信念を潜在意識に叩き込むための積極的な推進行為であって、普通の催眠術のごとく被術者の意志を術者に譲り渡すことではない。潜在意識のメカニズムは科学的には未解決であるが魔術的な力を持つことはたしかである。これに強烈な建設的暗示を吹き込むことが「引き金」の役目をし、本人の活動をその望む方向へ進行させるばかりでなく、運命の形成にも決定的な役割を果たすと考えられるが、科学的な機構はやはり不明である。この記事でヘルバーが練習者

に向かって述べる言葉は、自己暗示を行う方法の説明であり、単独で開始するよりもこの方がより大きな印象を与えることになる。しかしどうしてもヘルバーが見つかれば、このイントロダクションをはぶいて単独で自己暗示法を実行して差し支えない。いずれにしても強固な意志を持って続ける必要がある。気まぐれに試みてすぐやめるのでは何にもならない。

S Iとのコンタクトを図るための基礎姿勢として述べられた最後の部分の「本人がどんなに他人をごまかしていても、彼らS Iには地球人の心の状態

すべてがわかるのだ」はきわめて重要である。だからこそ日本GAPは多年にわたって想念観察を奨励してきたのである。

我々は他人をあざむく前に自分自身をあざむかないように自省する必要があるがそれにはまず自分自身の心の状態、想念内容などを知らねばならない。そのためには絶えず自己の想念を注目し修正することが肝要である。そしてそのような行為自体が別の場所から——たぶん上空のどこから——S Iによって観察されており、更にそのような人間たちの行為も宇宙の到る所で観察されているのである——創造主によって。

一般人は本記事に述べられた「心のイメージ法」や「自己暗示法」の驚くべき効果を全く知らないし、想念観察の意義についても知識を持たないにもかかわらず、自己の心の内部は自身が最も熟知しているかと思いがちだが、これは錯覚である。自分が何をやろうとしているかについて知らないのが地球人の特徴である。第一、人間に与えられた「生きる目的」をほとんど意識することはなく、実際には何もかも不明のままに生涯を終えるのが普通だが、こうした人々の放つ想念が充滿するこの世界で、ひとり高次の精神状態を保つのは容易ではない。精神問題の探求は人間にとって最も重要である。

超光速粒子タキオン は存在するか

●新しい物理学の夜明けを考える

●狩野幽邃

相対性理論によればいかなる物質も秒速約三十万

キロという光速の壁を超えることはできない。しか

し、絶えず限界に挑まずにはおれない人間の本性が

この理論の逃げ道を探し求めている。タキオン――

この予言は現在の理論をこえた世界への突破口にな

るだろうか――

プロローグ

一九七三年三月十日付の読売新聞に「光より速い物質発見か」というセンセーショナルな見出しでタキオンの発見が報じられた。その内容は英国の科学誌『ネイチャー』に掲載され、発表したのはオーストラリア・阿德レード大学のロジャー・クレイとフィリップ・クラウチという二博士であった。本誌七号でも同記事が紹介されたので、記憶に新しい読者もおられること

と思う。

このような記事に対し、アインシュタインの相対性理論をひき合いに出して、いかなる物質も光速度を超えることはできない、という先入観から、多くの読者においては懐疑を抱くに違いない。

しかし、我々の頭はあまりにも権威主義的でありすぎるため自由な思考を止め、標準的な参考書や学者の言動を鵜呑みにしてしまう傾向があるように思う。かく言う私とて例外ではない。

なにごとにおいてもそうであるが、門外漢にとっては心ならずも知る手立として安易な参考書を頼りにするからである。理論というものは仮定された条件のもとで成立するのであるから我々は文面の表面的な文句にだけとらわれず、深くその理論の成立する条件を見定めなければならない。

速度の限界

光速度の壁

特殊相対性理論の初歩を学んだ人ならだれでも速度には限界があり、光速度の壁を超えられないということを知っているだろう。

この壁は絶対的であり、どんな大きな力を勞しても超えられない。特殊相対性理論の復習を兼ねてここでその理由となるものを少しばかり拾ってみよう。これらの光の壁を予言する議論があるにもかかわらず、超光速速度の議論を成しうることを、読者自身考えてみるのも面白いと思う。

理由1

電車（電車の速度を V_1 とする）の車中で歩いている人（歩く速度を V_2 とする）の、地面に対する相対速度や、二段式の宇宙ロケット（一段目のロケットの速度を V_1 、二段目のロケットの速度を V_2 とする）の相対速度等は一般に我々の日常によく使われる馴染みの速度であって、相加的である。すなわち

相対速度は $v = v_1 + v_2$ と表される。

これらの速度は光速度に比べると十分小さく、我々が知る乗物としての最高速を出しうるロケットでさえもこの比ではない。それほど光速度というのは速いのである。

しかし、高エネルギーをもった素粒子などのように光速度に近い速度で動き回るものに対しては相対論的な効果が現れてきて、この影響を無視できなくなる。ましてや、速度の相加性ということも、この速度の領域では成立しなくなってしまう。

特殊相対性理論においては、速度の合成は次の式で与えられる。

$$(1) v = \frac{v_1 + v_2}{1 + v_1 v_2 / c^2}$$

速度が相加的であれば、光速度に非常に近い二つの速度の合成で容易に光速度を超えてしまうが、式(1)を用いる限りではそれは不可能となってしまう。最初の速度を V_1 とし、二番目の速度を V_2 として、共に光速度にいくら近くてもよいがそれを超えないとすると $(1 - V_1/c)(1 - V_2/c) > 0$

$$1 - (V_1 + V_2)/c + V_1 V_2 / c^2 > 0$$

$$1 + V_1 V_2 / c^2 > (V_1 + V_2)/c$$

左辺は正であるから、左辺で両辺を割り、更に両辺に C をかけると、

$$C > \frac{V_1 + V_2}{1 + V_1 V_2 / c^2}$$

が得られる。したがって、結局光速より遅いかなる速度をもってしても光速度以上にはなれないという結論を得る。

理由2

運動している物体の運動エネルギー E について考えてみよう。相対論的な効果のもとでは、それは、
(2) $E = mc^2 / \sqrt{1 - (V/c)^2}$
と書かれる。

(注・ V が C に比べて十分小さいという古典的な条件のもとでは、この(2)式は、
 $E = E_0 + E_{kin}$ となる。 E_0 の項は、質量をエネルギーに換算したものを表す)

ここに m_0 は静止質量と呼ばれ、速度 V が0のときの質量である。

この式(2)によると、速度 V が徐々に増してきて光速度に近づくにつれてエネルギー E は無限大となっていくことがわかる。

物体が運動エネルギーを得る方法には二通りある。一つは、ロケットのように運動エネルギーのもとになる物質（燃料）を持っていて自分自身を加速させる方法で、もう一つは加速器からエネルギーをもらって加速される素粒子の場合や、他の素粒子の場合等のように外部から運動エネルギーのもとになるものを得る方法である。

しかし、どちらの方法に従ったとしてもエネルギーのものは有限であるので、したがって光速度に達することはできない。

理由3

特殊相対性理論の式の中にはいたるところにローレンツ因子といわれる

$$\gamma = 1 / \sqrt{1 - (V/c)^2}$$

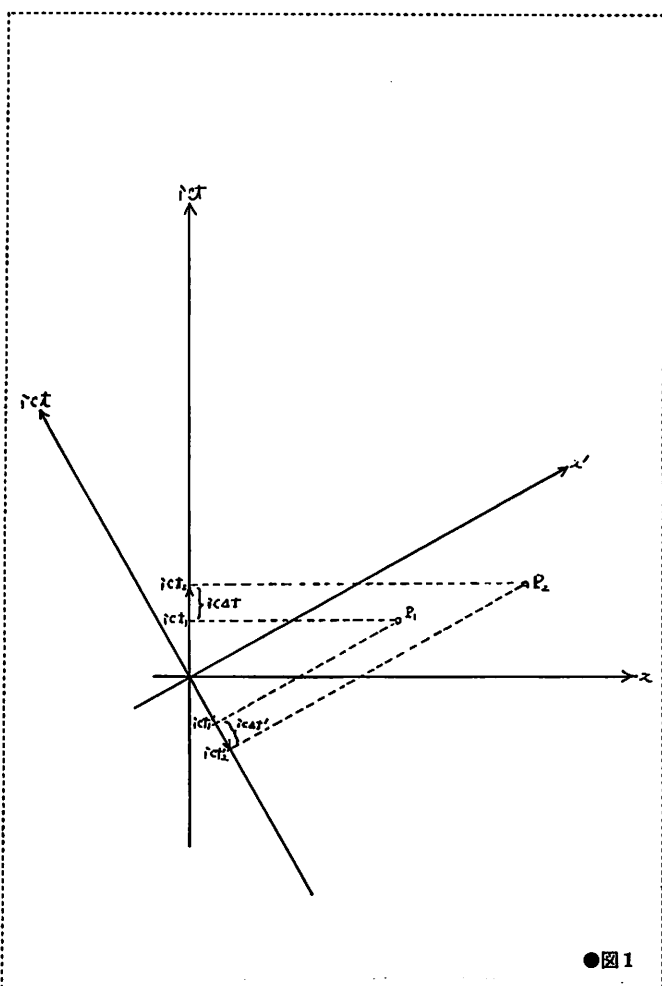
がこの γ において、もし粒子の速度 V が光速度 C より速いものとする、 γ は虚数になってしまう。「虚数」というものは実在の量ではない」という意見から、速度 V は常に光速度 C より遅くなければならない。

読者はこの意見にとまどうかもしれない。しかし、すべての物理法則は経験法則であることを考え合わせればそう不思議なことでもない。ここで議論している相対論そのものも経験の総括である。しかしこの意見は、少なくとも本質的であるように思われない。

超光速速度粒子

「タキオン」

超光速速度ということをはかしてアインシュタインの相対性理論と矛盾しないように説明できるであろうか。読者はここにおいて耳慣れない「虚の質量」というマジックを見せつけられるであろう。タネを明せば、実は我々の周囲をとり囲んでいる物質（これを虚の質量に対して実の質量という）に対し、数学で用いられる虚数の性質を有



●図1

動量の表式は、特殊相対性理論の領域では次のように表される。

$$(3) E = \frac{mc^2}{\sqrt{1-(v/c)^2}}$$

$$(4) P = \frac{mv}{\sqrt{1-(v/c)^2}}$$

粒子の速度 v が光の速度 c より遅い場合には $\sqrt{1-(v/c)^2}$ は実数であり、その質量 m もまた実数である。したがって、エネルギー E も運動量 P も共に実数であることが、この二つの式(3)(4)からわかる。

ところで、質量 m を虚数であると考えてみよう。そこで $m = i m^*$ (i は虚数単位) と置くと、 m は実数となる。これを上の二つの式(3)(4)に代入すると

$$(5) E = \frac{im^*c^2}{\sqrt{1-(v/c)^2}} = \frac{mc^2}{\sqrt{1-(v/c)^2} - 1}$$

$$(6) P = \frac{im^*v}{\sqrt{1-(v/c)^2}} = \frac{mv}{\sqrt{1-(v/c)^2} - 1}$$

となる。この(5)と(6)式でわかることは粒子の速度 v が光速度 c より遅い場合には、エネルギー E も運動量 P も共に虚数であるが、もし粒子の速度 v が光速度 c より速いと仮定するならば、エ

ネルギー E も運動量 P も共に実数となる。

エネルギー E や運動量 P が虚数であるとする仮定をなぜ退けなければならぬのだろうか。それについて確かな理由はないが、次のように答えることができる。

最初(実の質量をもった)粒子が光速度より遅い速度で運動していたとする。ところが何かの拍子で光速度を超えるような事件が起こったときに、そこでエネルギーが実数から虚数に転移することになる。

しかし、少なくともエネルギーというものを絶対的な概念として受け入れる場合にはこのような飛躍は考えられないことである。また、我々は光速度で運動する粒子として、光子とかニュートリノの存在を知っているけれどもこれらの粒子はエネルギーを虚数にしてしまいうような議論では扱いきれないように思われる。それよりも、粒子の速度が光速度を超えるようなものでは質量を虚数であるとした方がなにかしら自然であるように思われる。

II

次にこのような粒子、すなわちタキヨンの性質について調べてみよう。ここではエネルギーと運動量について考察する。

(5)と(6)の式からわかることは、エ

する質量を考えることによってこの速度の限界を逃がっている。

そうすれば、難なく相対性理論に矛盾することなく理論を構成し、超光速速度の存在を説明できるのである。

一般に、このような虚の質量を有する光より速い粒子は「タキオン」という名で呼ばれている。タキオンという名の由来は、速さを意味するギリシャ語の *taxis* (タキス) からとって名づけられた。命名したのは創始者の一人であるファインバーグである。

注意しなければならないのは、タキ

ヨンは光より速い虚の質量をもった粒子の総称であって、電子や陽子等のようにある特定の数値の性質をもった粒子の固有名詞ではないということである。

さて話をもとに戻して本論に入ってくる。

I

比較のために普通の状態の粒子(実の質量)、すなわち光速度より遅い速度の粒子について考えてみよう。

普通の状態の粒子のエネルギーと運

ルギーEも運動量Pも共に粒子の速度vについての単調減少関数であるというのである。

したがって粒子の速度が光速に近づくところでは、エネルギーも運動量も共に無限大に発散していくが、速度が次第に増加して無限大に近づくときエネルギーは0に、運動量は一定値 $\gamma_0 c$ に近づくことがわかる。

粒子の速度vが無限大のときの極限値、エネルギー $E=0$ 、運動量 $P=\gamma_0 c$ は、一見エネルギーがまったくないのに運動量をもつということで不思議に思われる読者もあろうかと思うがこれに類することは自然界において時折みられるのである。たとえば光子についてみると、光子自身の質量は0であるが、エネルギーも運動量も0ではなくある定まった値をもっている。

光子はよく知られた粒子であるが、このように一見矛盾とも思われる性質をもつのである。

(三)

次に第二の観測者がタキオンの時間の意味について考える場合を考察してみよう。

この場合も非常に奇妙な現象にぶつかるので読者を楽しませることができよう。いま、第二の観測者が第一の観測者に対して速度uで運動しているとしよう。もちろん、第二の観測者の速度

uは光速cより遅いとする。二人の観測者の間の相互関係は、よく知られたローレンツ変換で表される。すなわち、

$$(1) \begin{cases} ct' = \gamma(ct - ux/c) \\ x' = \gamma(x - ut) \end{cases}$$

であつた。

ここで γ は「速度の限界—光速の壁」の章で述べたローレンツ因子である。ブライム「」の付いた記号は第二の観測者における立場での値であり、それに対応するブライムのない記号は第一の観測者における立場での値である。

さて、第一の観測者がタキオンを時刻 t_1 に、位置 x_1 において観測するとき、第二の観測者は同じものを時刻 t_2 に、位置 x_2 において観測するとき、第二の観測者は時刻 t_1 に、位置 x_1 において観測するものとする。

次に少し時間が経って、第一の観測者が同じタキオンを時刻 $t_1 + \Delta t_1$ に、位置 $x_1 + \Delta x_1$ において観測するとき、第二の観測者は時刻 $t_2 + \Delta t_2$ に、位置 $x_2 + \Delta x_2$ において観測したとする。このことを(7)の式からみてとると、次のような関係になつてゐる。

$$\begin{aligned} (8) \Delta t_2 &= \gamma(\Delta t_1 - u \Delta x_1 / c) \\ (9) \Delta x_2 &= \gamma(\Delta x_1 - u \Delta t_1) \\ (10) x_2 &= \gamma(x_1 - ut_1) \\ (11) x_2 + \Delta x_2 &= \gamma(x_1 + \Delta x_1 - u(t_1 + \Delta t_1)) \\ (12) \Delta x_2 &= \gamma(\Delta x_1 - u \Delta t_1 / c) \end{aligned}$$

(11)と(10)の差をとれば、

$$(13) \Delta x_2 = \gamma(\Delta x_1 - u \Delta t_1)$$

ここに、 $\Delta x_2 = x_2 - x_1$ 、 $\Delta t_2 = t_2 - t_1$ である。 $\Delta x_2 / \Delta t_2$ についても同様である。

タキオンの速度を $v = \Delta x_1 / \Delta t_1$ とすれば、(12)から、

$$(14) \Delta t_2 = \gamma(1 - uv/c^2) \Delta t_1$$

が得られる。そこで、もしタキオンの速度vが $c/v < 1$ を満足するならば、第一の観測者における時間の変化 Δt_1 を正とすると、第二の観測者における時間の変化 Δt_2 は負となる。

このことの意味は、第一の観測者が見てゐる過去から未来へのタキオンの姿が第二の観測者では逆に未来から過去にさかのぼって観測されるということ

とである。(図1参照)

(四)

ふたたびタキオンのもつエネルギーについて考えてみよう。

本来エネルギーというのは正であるとされてきた。しかし、タキオンにおいてはある観測者にとって負のエネルギーとみえることがある。それは、エネルギーおよび運動量のローレンツ変換の式から理解される。このローレンツ変換の式は次のように表される。

$$(15) \begin{cases} E = \gamma(E - Pu) \\ P = \gamma(P - Eu/c^2) \end{cases}$$

(15)と(16)式によれば $E = \gamma m_0 c^2$ 、 $P = \gamma m_0 v$ であるから、

本格的UFO研究団体

日本宇宙現象研究会

●入会のおすすめ

JSPS「日本宇宙現象研究会」はわが国有数の会員数と伝統を誇るUFO研究団体です。当会は国内各地支部はもちろん、全世界にネットワークをもち、とくに現地調査を中心とした国内事件の徹底的研究は英国最大のUFO研究誌 Flying Saucer Review にも紹介されるなど国際的にも高く評価されています。

会誌 未確認飛行物体

内外のUFO実写写真・図版等貴重資料多数収載。海外UFO事件詳報、国内UFO事件現地調査報告、会員の研究論文発表、海外研究の翻訳紹介。B5版高級オフセット・毎号30頁以上・不定期刊。号外、別冊等も随時発行(会員にのみ毎号送呈)。

当会はUFOに興味関心をおもちの方なら男女年齢等の別なくどなたでも入会でき、会員には会誌送呈のほか研究会・講演会等へのご招待など多数の特典があります。

- 入会金 500円(会員証交付)
- 会費 1年間2,000円(会誌4号分)

入会ご希望の方は、住所氏名を明記の上、入会金および会費を添えて、振替、書留等でお申し込みください。

〒150 東京都渋谷区神山町5-2

日本宇宙現象研究会

(振替 東京128・740)

$$PU/E = Uv/c^2$$

が成立する。したがって、これらの式を(10)式に代入すると、

$$(10) \begin{cases} E/E' = \gamma(1 - Pv/E) \\ = \gamma(1 - Uv/c^2) \end{cases}$$

を得る。(3)でみたように、こゝでも

Uv/c^2 を仮定すると $E/E' \rightarrow 0$ となつてエネルギーEは第一の観測者から観測した場合には常に正であるとする

と、第二の観測者から観測した場合のエネルギーE'は負になることがわかる。この第二の観測者のような立場にある人にとって他のタキオンはどのようにに観測されるであろうか。先にみた負のエネルギーをもったタキオンよりもっと速度の遅いタキオンは当然正のエネルギーをもつに違いない。

つまり観測者の相対者の相対運動の違いによって、あるタキオンは正のエネルギーをもっていたり、また別のタキオンは負のエネルギーをもっていたりすると換言してもよい。あるいは、ある観測者に対して正のエネルギーをもっているタキオンが、その速度を増すにしたがい突然ある時点から負のエネルギーに転換してしまふようになることを考えることもできる。

正のエネルギー、負のエネルギーという概念は、正のエネルギーをエネルギーの放射に、負のエネルギーをエネルギーの吸収に当てることもできる。

(3)で述べた因果律の破綻は、このタ

キオン理論の最大の欠点であるとされてきた。しかし、その研究者であるスーダーシャンたちは、再解釈原理をもとに「負のエネルギーのタキオンが時間の流れと逆向きに運動すれば、現象的には正のエネルギーが時間と共に運動するようにみえる」と解釈し、タキオンの実在性を論じている。

超光速速度粒子タキオンについても一つ重要な事柄を付け加えておくことがある。それは、超光速速度粒子は絶対に光速以下にはなり得ないし、また光速以下以下の粒子は絶対に超光速速度にはなり得ないということである。特異点＝光速速度の壁がこの二つの領域をがんとして隔てているという事実を知らなければならぬ。

その証明は速度についてのローレンツ変換の公式から導かれる。いま、二人の観測者間の相対速度をu（太文字はベクトルをあらわす）とし、第一の観測者におけるある粒子の速度をv、第二の観測者における同一粒子の速度をv'としよう。そうすると、vとv'の間には次のような関係式が成立する。

$$(11) v' = \frac{-\gamma u + v + (\gamma - 1)(u \cdot v)u/u^2}{\gamma(1 - u \cdot v/c^2)}$$

この式から更にもっと整った形の式、

$$(12) \left\{ 1 - \left(\frac{v'}{c} \right)^2 \right\} \left\{ 1 - \frac{u \cdot v}{c^2} \right\}^2 = \left\{ 1 - \left(\frac{u}{c} \right)^2 \right\} \left\{ 1 - \left(\frac{v}{c} \right)^2 \right\}$$

が得られる。もし観測者間の相対速度uが光速速度Cよりも速いとし、粒子の速度vが光速速度Cより遅いとするならばvは虚数となり、したがって(12)式よりvも虚数となるので物理的意味をなくしてしまう。それゆゑ、観測者間の相対速度uは常に光速速度Cよりも遅いものとしなければならない。このような仮定のもとで、粒子の速度vが光速速度Cより遅いとする、(12)式からの第二の観測者における粒子の速度v'も光速速度Cより遅くなければならないことがわかる。いろいろの場合に分けてまとめると次のようになる。

もし $u \ll C$ ならば $v' \approx v$

もし $u \approx C$ ならば $v' \approx v$

もし $v \ll C$ ならば $v' \approx v$

以上の結果を換言すれば、光速速度以下の速度の任意の粒子は、どのような慣性系においても常に光速速度である。これは特殊相対性理論の光速速度不変の原理にほかならない。

エピソード

超光速速度の理論は、アインシュタインが特殊相対性理論を発表（一九〇五年）してから約半世紀を経て復活した。特殊相対性理論は、その発表後検証がすすむにつれてその信奉者が増え、現在ではすべての学者がこの理論を認めているといつてもよい。

しかし他方では、現代物理学の基幹を成すものへと成長するに至り、それのもつ実質的な意味だけに目が映り、だれ一人疑うものがないくなりかけた。そういう時に、この理論の有意性についてもっと広い目を向けたのが、ここで紹介した超光速速度粒子「タキオン」の概念をもちだしたファインバーグ、スーダーシャンたちであった。

二十世紀の初頭から現在に至るまで物理学界には多くの天才が輩出し、現象や事物に対して理論で説明を試み、予言に対する発見を行い、我々の見識を広めていった。

超光速速度粒子「タキオン」の理論もそうした予言の一つで、予言としてはもっとも華々しいものであろう。

このような理論の証明の難しさは観測に困難がある。したがって、どんな奇抜なアイデアや結果においても、それがどこまで真実であり、どこまでが誤りかわからないところがある。

しかし、理論の正当性を証明するには、あくまで現実の世界との照合、すなわち観測しかない。したがって、タキオン発見の報道はその存在を確定づけるものではない（観測方法に無理はなかったか、それが真実タキオンを示す現象であったか等、更に検討され万人の学者に認められるものでなければならぬ）が、新しい物理学の夜明けを見るような気がする。

奈良県金剛山に 現れるUFO

左の三枚の写真は昨年十一月、奈良県吉野郡の弓道武さん(三十歳 小学校教員)により撮影されたものである。弓場さんは昨年八月に奈良県の金剛

山周辺でオレンジ色に輝く物体を目撃して以来、奈良県下の金剛山、生駒山、葛城山上空に現れるUFOを三日に一度目撃するようになった。弓場さ

んの話によると、UFOの現れるコースはほぼ一定しており、金剛山を越えて生駒山の上空で突然消えるケースがほとんど。また、自宅の東側から北西に向かって飛ぶコースもあるが、この場合は生駒山上や葛城山上空で突然消えたり、百八十度の急激なUターンをして、もと来た方向に飛び始めたりするなど、異様な飛び方をするものが多いという。

弓場さんの住む西吉野村では二年ほど前からUFOらしき物体を見ている人もあり、金剛山周辺での目撃が多い。昨年八月には近畿放送で「生駒山は円盤の基地ではないか」と紹介されたこともある。



- 上 1975年11月3日午後7時30分撮影
(アサヒペンタックス・タクマー50mmF1.4・開放・40秒)
- 中 1975年11月3日午後7時50分撮影
(上に同じ)
- 下 1975年11月20日9時40分撮影
(コニカ・ヘキサノン45mmF3.5・開放)

UFO目撃レポート

●消えたあとで異様な音が―

秋吉洋則 15歳 山口大付属中学3年

目撃日時 一九七六年一月十二日午後6時15分頃

同時目撃者 不明

目撃地点 山口市上山口駅付近

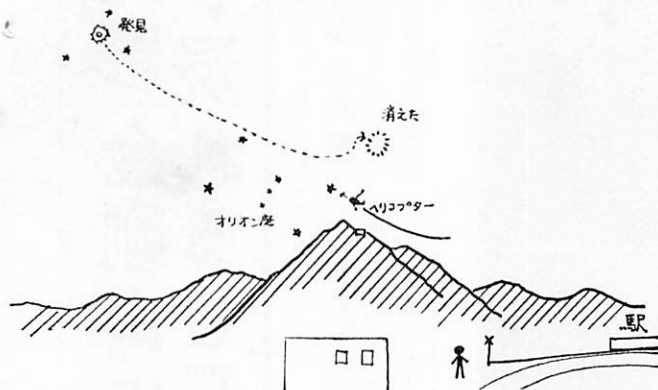
天候 快晴

目撃継続時間 約1分

物体について 二等星くらいの明るさで、色は黄または白。

飛行状態その他

はじめ何気なく空を見たのだが、星の中



●図・秋吉洋則

に移動する物体を発見、流れ星かと思っただけのように低速度のためちがうと思う。仰角は約40度。かなりの高高度で飛行。

方位は真南、その10秒後に、自衛隊のものと思われるヘリコプターが飛んでいった。ヘリの速度はUFOの速度より少し遅かった。

標示灯が点めつしていたのでしきべつはかんたんだった。1分ほどUFOを見たあと突然消えた。音はなかったが、その後30分くらいたって異様な音が南の方向から聞こえ、遠ざかっていくように聞こえた。

(〒73山口市宮野下法務省アパートA304号)

●だ円形の黄色い物体

立亀正平 14歳 松山市立小野中学校2年

目撃日時 一九七五年十二月十六日午後6時20分ころ

目撃地点 自宅の前

天候 はれ

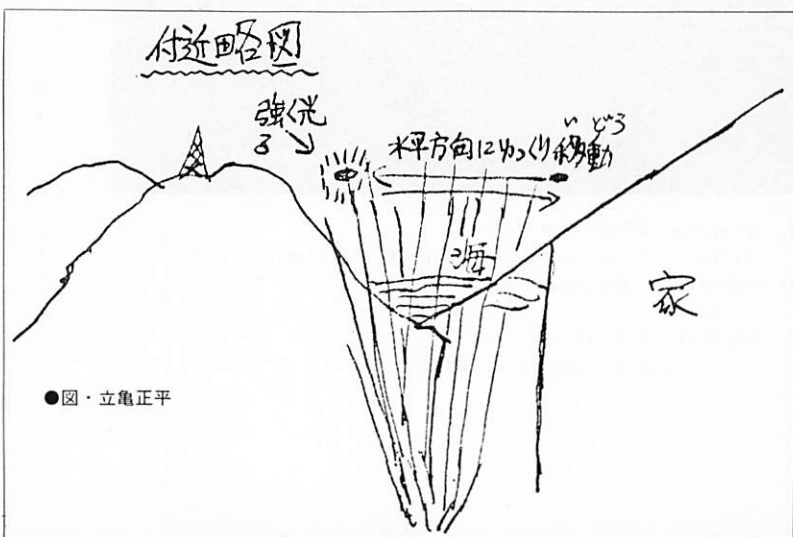
目撃継続時間 約1〜2分

同時目撃者 父を呼んできたときには消えていた。

観測方法 肉眼

物体について 形はだ円形、色は黄色で光っていた。大きさは見たところ肉眼で3ミリ位に見えた。

飛行状態その他 じっくりに行く途中、星が多く出たので空をながめていると南々西の方向に黄色く光った物体がとんでいる



●図・立亀正平

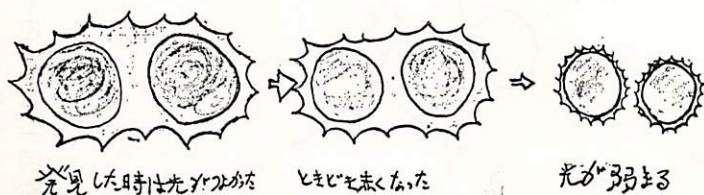
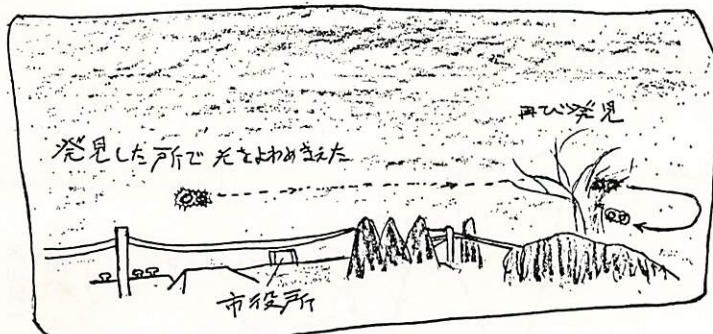
のを発見。速さはどちらかといえばおそろしく水平方向にとんでいた。

仰角は15度くらいで、一時的に強くひかりを出してはじめてとんできた方向にもどっていった。いそいで父を呼びに行ったが、その時はもう消えていた。

飛行場に近いところだったが飛行機は赤で点滅し、またその時間に飛んでいた飛行機はいないようだった。同時刻ころ、場所

凡例

- ①氏名年齢(職業・学校名)
 - ②目撃日時
 - ③目撃地点
 - ④天候
 - ⑤目撃継続時間
 - ⑥同時目撃者
 - ⑦観測機器・方法
 - ⑧物体について
 - ⑨飛行状態その他
- (一)内は目撃者の住所



●図・立野清

はちがうが天頂の方に黄色に輝いた物体がとんでいたのを目撃した人がある。
(千791-02愛媛県松山市南梅本町九三の九)

●テレパシーを送ったら…

立野清 15歳 東海中学校3年
目撃日時 一九七六年一月五日午後5時頃
午後4時頃からテレパシーを送った。

目撃地点 自宅から

天候 晴

目撃継続時間 30秒

同時目撃者 なし

観測方法 肉眼

物体について 黄色い星のような光が二つ、一つのUFOから二つの光がでていて弱まったり赤く光ったりした。

飛行状態その他 はじめに北々東のひくい空に発見、そして光を弱めてきた。北東に再びあらわれた。そして東に向かってとんでいたが、きゅうにUターンして北にとんで光が赤くなった。そして再びあらわれた所できた。UFOと宇宙の第14号UFO目撃レポートに出ているUFOにている。

また、一月七日にも目撃した。

午後5時25分、外にいたとき、キーンという音かして空を見たら南東の方に青白いUFOを発見。点めつしながら東へとんで竹やぶにかくれた。

(千290-02千葉県市原市引田53)

●大きさは見かけで米つぶ位

青木隆次郎 22歳 無職

目撃日時 一九七五年十月八日午後1時20分頃

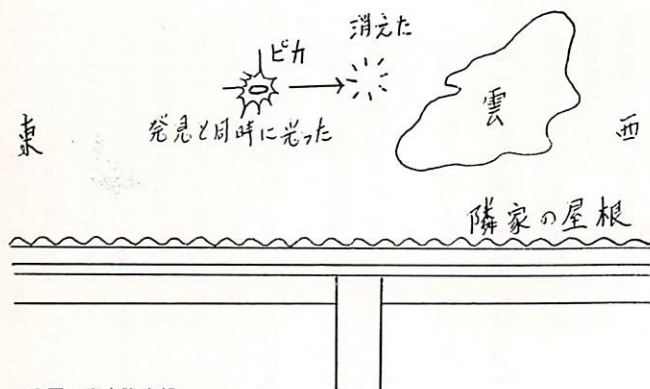
目撃地点 自宅の二階

天候 晴(弱風が吹き雲が少し出ている)

目撃継続時間 約3秒

同時目撃者 なし 観測方法 肉眼

物体について 目撃時間が一瞬だったので



●図・青木隆次郎

良くわからなかったが、楕円形のような感じで一瞬光ったときは銀色のように見えた大きさは見かけで米つぶ程度だった。

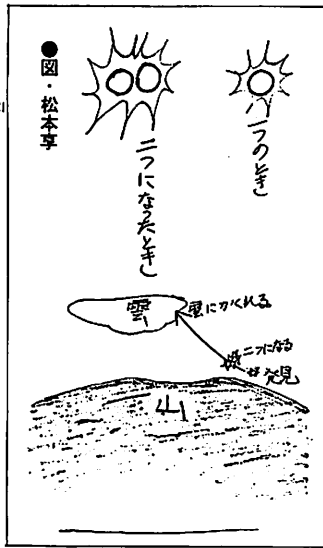
飛行状態その他

何気なく空を見つめていたら急に楕円形の物体が現れ、一瞬ピカッと光った。ほとんど現れると同時に光り西の方向へ飛行したかと思うとすぐ消えてしまった。その間わずか3秒くらいだった。音はなく高度不明。この物体がUFOだと確信はもてないが、飛行機その他の物体でないことは確信している。

(千424静岡県清水市月見町208)

き出してから二つになりました。そのときの物体の光り方は太陽のような光り方でした。その物体は本誌15号の口絵写真(最初の2ページ)に載っている物体とそっくりです。

●図・松本享



(千979—41福島県田村郡大越町上大越寺前
153)

●一日に三度もつづけて目撃

一回目 桜林賢 15歳 四日市々立南中学校3年

目撃日時

一九七五年十一月八日午後7時

10分頃

同時目撃者 父

目撃地点 四日市々南部の自宅前(付近にコンビナートがある)

目撃継続時間 約20秒

観測方法 肉眼

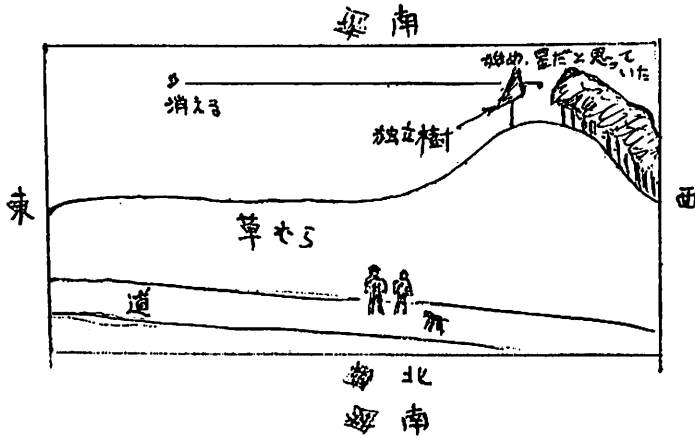
物体について

最初、母が円盤を見たとき家の中へ呼びにきた。私が外に出たときはすでにいなくなっていたが、母の話によると南の空、東の

2 回 目

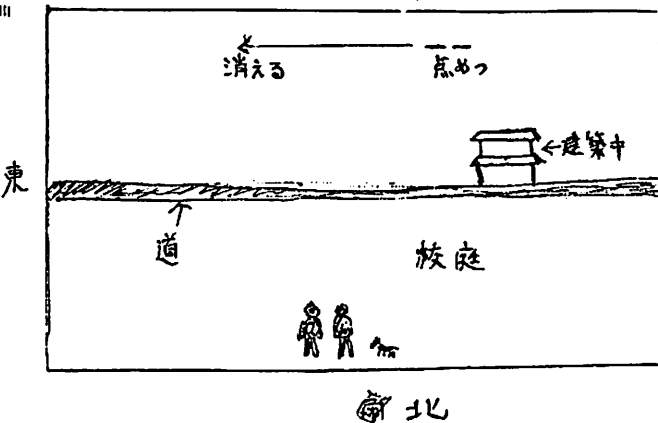
コンビナートの方から西の山の方へ向かって飛んでいき、途中でフッと消え3分程後に少し離れた場所に現れ、少し飛んで消えたという。

その後私と父が路上でUFOの話をしていると再び南の空に現れ、今度は西から東



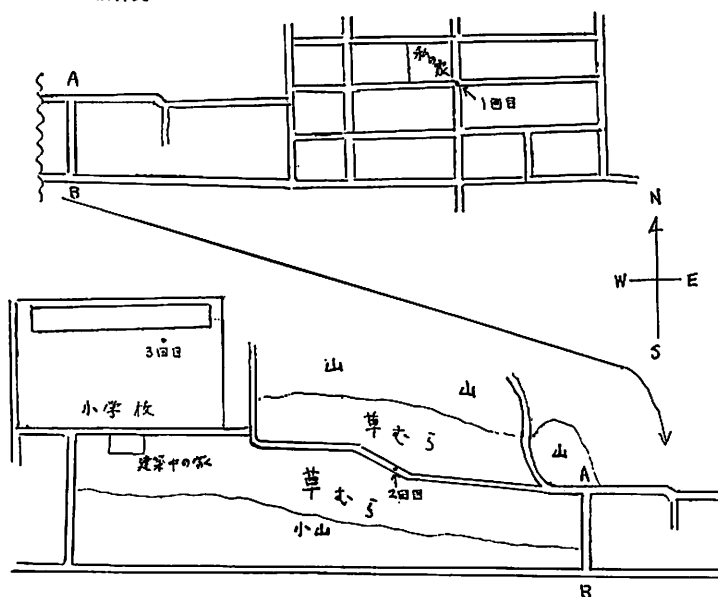
3 回 目

へ飛んでいった。大きさは一等星位で明るさもその位。色ははっきりわからないが、光源が複数あったようだ。音もなく突然現れて少し上下にゆれながらゆっくりと飛んでゆき、空中でスーッと消えてしまった。



●図・桜林賢

●圖・桜林賢



二回

目撃日時 十一月八日午後8時55分頃

目撃地点 自宅より西方の丘の上

天候 雲が急速に広がってきていた。

目撃継続時間 約40秒

同時目撃者 友人と犬

観測方法 肉眼と望遠鏡（天体用ファインダー）

物体について

一回目に四盤を見た後、友人と犬をつれて散歩に行った。これは以前から約束していたのであって、四盤を見るのが目的ではなかった。しかし、また見れるかもしれないと思って望遠鏡をもっていった。

途中の草むらの中で立ち止まって一回目に見た田盤の話をしながら空を見ていた。

そして望遠鏡で近くの山の上の木のをばに
でている星を見た。それからまた話を続け
て、しばらくすると友人が「アッ、出た
！」と言ったのでこちらを見ると、望遠鏡
で見ていた星と同じあたりからゆっくりと
南の空を西から東へ飛んでいった。形（つ
まり光点、色などは一回目と同じものだ
った。

その直後、円盤の出たところをよく見ると、はじめに望遠鏡で見た星がなかったの
で多分円盤がその星で、ずっとそこに止ま
っていたのだと思う。

三回目錄

目撃日時 十一月八日午後9時35分頃

目撃地点 自宅より西の丘の小学校

天候 曇

目撃継続時間 約10秒

同時目撃者 友人と犬

観測方法 肉眼と望遠鏡

物体について

友人と一緒に校庭でねばっていた。そろそろ帰ろうかと思ったとき、またもや出現し、友人に言われてみると、どの星よりも明るく大きい光が音もなく飛んでいた。南

の空を西から東へ向いて飛び、私が見てから二回ほど点滅し、その後ずっと光って飛んで急にスッと消えてしまった。今までに見たUFOの中では一番はつきりしておりその明るさは目をみはるようなものであった。なにしろ数十m離れた電灯の光と同じ位かそれ以上に明るかったから。肉眼で見ると光のために大きく見えたが、望遠鏡で見ると小さい点のようだった。

色はオレンジ色であった。高度は仰角30度位で、普通のジェット機より少し速いスピードで飛んでいた。

(〒510四日市市泊山崎町5の2)

●UFOと証明できる！

内村勝 16歳 東京都立練馬工業高校1

目撃日時 一九七六年一月四日から五日のど

ちらかの日

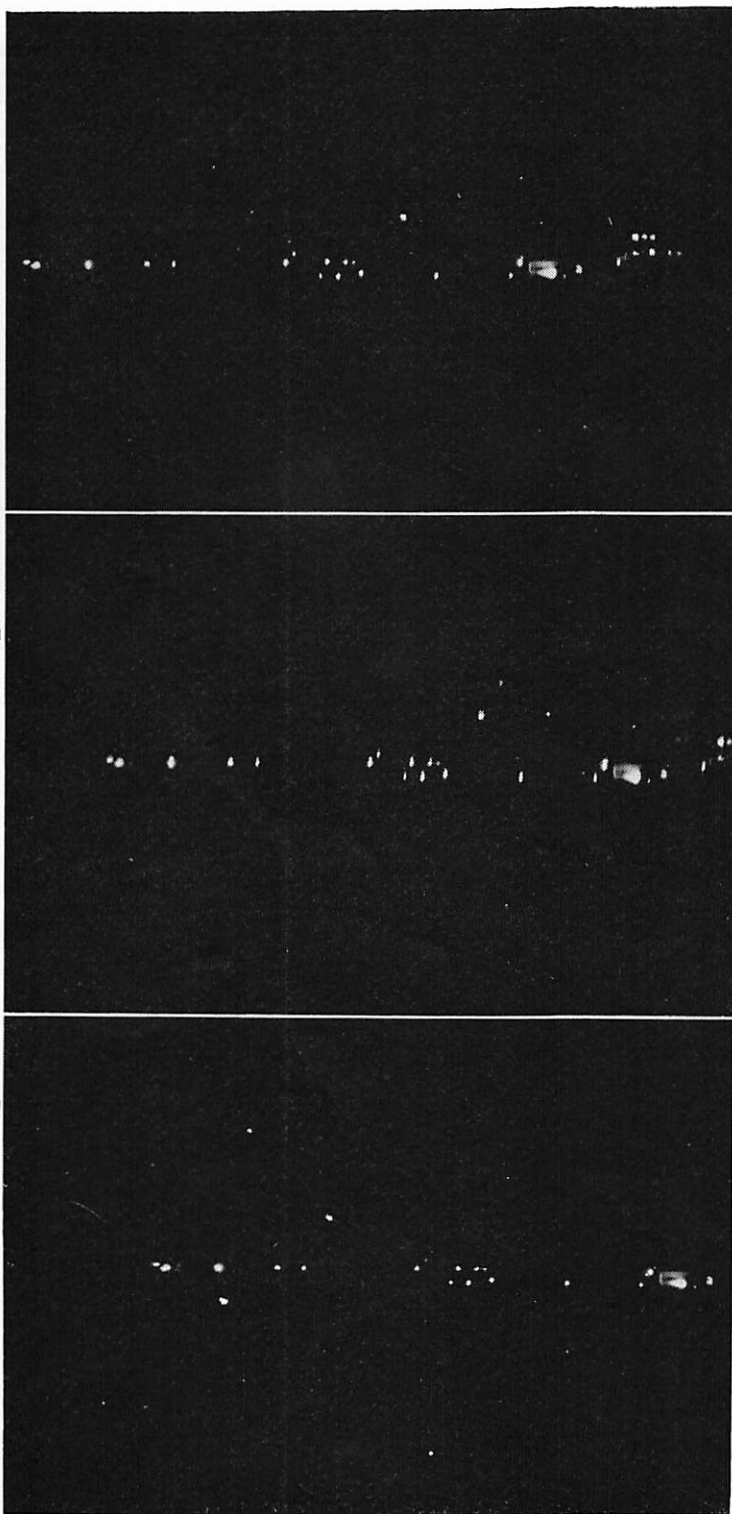
同時目撃者 伊東敏明（友人）
目撃地点 東京練馬のグラウンドハイツ西の

上空。撮影場所はおじさんの家の工場屋上
天候 晴

撮影機器 ペンタックス 200ミリF4.5
 ャッター開放約20秒 フジカラーFII

物体について

物体は動いているときは二番目の写真。オレンジ色の光点がある方向に動いたと思つたら、またもと来たところに折り返したなりして、その光点が止まつたかと思つて写真のようにすごい明るさでオレンジ色にな



●内村勝くんが撮影した動く光体の写真

った。そしてその光が弱くなって銀色の光点になり、今度は銀色の光点の動きはゆっくりしてよく見なければわからないほどのろかった。音はもちろんなかった。UFOはすごく低いところをとんでいた。右側に見えるのは小さなビル。窓から電燈が見える。下に見えるのは民家の明り。

これがUFOだという証明が僕にはできない。それはまず、(1)3枚の写真をくらべた場合、光点は民家に対してたしかに動いているということが言える。(2)飛行機だとい

う場合、シャッタースピードを開放、約20秒でとったら飛行機は動いていて、そして先は点めつするはず。それが写ったら飛行機の動いた光跡が残るはずだ。それに、一番の写真には建物が写っている。こんな低空で飛行機がとぶはずがない。

またふしぎなのは肉眼で見たときはただまぶしく光るオレンジ色の光点だったが、写真では二つの光点からできている。二つの光点がドッキングしているようだ。

(〒176東京都練馬区田柄5の15の12)

●望遠レンズで撮影に成功

佐藤明宏 16歳 喜多方工業高校1年

目撃日時 一九七五年九月二十四日午後6時45分～7時ごろの間

同時目撃者 父と母

目撃地点 自宅前の道路

天候 うす曇り。でも円盤のた地点はあまり雲はみられませんでした。

目撃継続時間 約30秒

観測機器 ベトリカメラ、望遠レンズ200ミ

●撮影・佐藤明宏

リ、三脚、レリーズ使用、フジカラーFII
物体について

円盤の飛び方は、始め下の方からV字になり少しずつジグザグ運動をしながら上のほうにあがっていききました。そして一度消えました。それから写真にははいりませんでした。二度めに同じ型のUFOが出てすごいスピードで飛んでいき消えました。この写真を送る気になったのは「UFO



と宇宙」10月号にこれと同じような物がのっていたからです。北海道函館市豊川町に住んでいる小山彰さんが撮った写真で、同じような飛び方をしていますので送る気になりました。ぼくの写真も三脚の上にカメラを固定しレリーズを使用したのでカメラのブレではありません。光体は南から東に飛んでいきました。
(千 福島県喜多方市関柴町平林1230の2)

●星とは違った物体が――

安部裕行 18歳

目撃日時 一九七五年一月十六日午後8時以降

目撃地点 重岡孝士君(撮影者)の自宅の



●撮影・重岡孝士

庭 西の空
飛行状態その他

この写真は大部分東国東郡安岐町瀬戸田の18歳の学生(当時17歳)重岡孝士君が撮影したものです。彼、重岡君は一月十六日の8時もまわった夜、星を撮影中でした。そのとき何枚写真をとったのかはつきりとは聞いていませんが。撮影中はUFOには全然気づかなかったとのこと。後に一週間ぐらいして写真店に出かけプリントされた写真を受け取りました。そしてそのとき店内で何枚かある写真の中から2枚に、何か星とは違った物体が写っているのを見。おそらく彼はそれがUFOであろうと直感したのでしょう。それから後日、学校でクラスメートに写真を見せ「これはUFO

Oの写真だ」と言ったそうです。しかしクラスメートのだれ一人として彼のいうことを信じず、みんなに「にせものだろう」とバカにされたとのこと。重岡君はその写真を新聞社に投稿しようと思ったのですが、みんなににせものだろうなどと言われてか、そのまま机の中にでもしまったのでしよう。私が彼の写真のうわさを聞きこれを確認するまで陽の目をみなかったのです。

なぜ私が重岡君の写真を知ることになったかというと、私も重岡君もアマチュア無線をもっているのです。私のコールがJH6ROP、彼がJH6UTZです。もう一人、私の友人であり良き理解者のJH6GPNと森君が重岡君の話を聞きつけ、私におしえてくれたのです。余分なことかもしれないませんが他にも私の仲間がいます。みんな熱心な理解者です。そしてみんなアマ無線をやっています。JH6QEUと高橋君、JH6RKF西原君、JH6WGD園田君です。

(〒870大分市城南団地北町23班)

● アダムスキー型に似ていた

吉田昌明 18歳 土浦日大高校
目撃日時 一九七六年一月二十七日午後11時

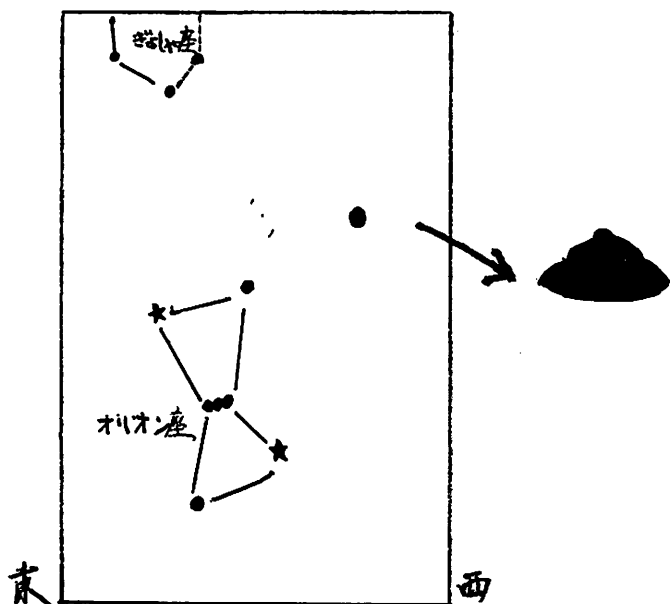
目撃地点 自宅二階のバルコニー
同時目撃者 父、母、兄、僕の4人
天候 快晴、やや風強し
目撃継続時間 約50秒

物体について 黄色の強い発光体。明るさ2〜4等級。静止していたが上下運動ややあり。

飛行状態その他

私はUFOに興味をもってはや3年になります。UFOの存在は信じているのですが、まだこの目で見たことはありませんでした。

ところが、今年の一月二十七日の晚11時頃、オリオン座のガイドをしていたところ、オリオン座の上部に2〜4等級の明る



●図・吉田昌明

い物体があるのに気づき、望遠鏡で見たところ、よく雑誌にのっているアダムスキー型円盤に似ていました。すぐ写真におさめようとセットしている30秒足らずの間に見失ってしまいました。色は黄の強い発光体でシンチレーションのせいもありましたが上下運動をしているように見られました。一月二十七日(火)に天体観測をしていて、もし気づかれた人がありましたらお手数でもお手紙を下さい。

(〒300茨城県土浦市天川町3-4-9)



科学番組を重視しよう

●冷静な観察で聴取者を納得させる
今こそ科学番組が重視されねばならぬ時代だと思う。にもかかわらずラジオ、テレビでの、この分野の貧困さはどうだろう。とりわけ民放局では、全く精彩がない。オカルト番組などに熱を入れるのも結構だが、科学をなおさらにして超科学にいきなり飛びつくのもどんなものか。

こうした中で、光彩を放つのはNHKラジオの「科学千一夜」である。たとえば、最近の番組にこんなのがあった。

●大地震に際して発光現象が起きることがある。空や地面、ときには海面が怪光を発するのだ。遠く平安時代の地震の記録にも、このことが書いてあり、人々を不気味がらせてきた。原因はいまだにナゾで、地中の電流放電説、岩石摩擦説、地下水の電気毛管現象説など諸説があるという。

番組には、学者はもちろん、長野県松代地方で発光現象をカメラにとらえた人も登場、それぞれに「怪光」を分析していた。あわてて結論を出さなくても、こうした方法で聴取者を納得させることは十分できるのである。この番組を耳にした方なら、発光現象を目撃しても冷静な観察が可能だろう。

予言、超能力、UFO、ここ数年、わが国では異常な騒ぎが続いている。パミューダ海域から、船が消えたといつては、すぐさま宇宙のブラックホールに結びつけられたりす

る現象は、それ自体が奇怪である。プロの研究者や科学者が調査する余裕も与えない。

科学番組は、今こそ、このあたりの交通整理を果たさねばならぬ。(一九七五年九月十三日付、北陸中日)

UFOの名所、喜多方市に今度「アダムスキー型円盤」出現

●写真撮影にも成功

UFOの実体を突き止めようとして喜多方市にUFOのファンが集結し連日のナゾの未確認飛行物体を追いつけている。先月13日、炎を噴く物体が確認されファンにセンセーションを巻き起こしたが、今度はUFOファンならだれでも知っている「アダムスキー型円盤」を数人が目撃、違った場所でも2人がカメラにおさめ、「アダムスキー型円盤出現」で会津っ子は空飛ぶ円盤の話題でもちきりだ。

去る10月6日夕方、喜多方市東部の雄国山から西喜喜連峰にかけて空がくっきりと晴れ上がった。UFOファンは同市熊倉町小沼沢地内の田んぼに続々集まって来た。30人前後のマニアがカメラに三脚をつけ「UFO」の出現を待った。

午後7時過ぎ、東京から秋田方面に飛行するジェット機が夜空に光を放って去っていく。その後、雄国山の東側から明るい光を放つ星(火星らしい)が姿を現すと、その星の周囲に不思議な物体がからまって光を放った。

河沼郡会津坂下町五ノ井字権現堂内三三七ノ一、会津自工社員、小野寺勝さん(19)は「UFOだ」と買ったばかりのカメラのシャッターを押した。数人が「あれは円盤だ」と叫んだが、見とれているうちにシャッターチャンスを使い、口惜しんだファンが多かった。小野寺さんだけは「してやったり」とばかりに自宅に持ち帰り、さっそく現像したと

ころ「アダムスキー型円盤」が写っていた。

同じ時刻頃、この熊倉町小沼沢から直線にして約5キロ西に離れた同市豊川町一ノ原九〇三、村沢メリヤス勤務、渡部義博さん(25)も同時に刻頃変な光を発見、自宅の庭に取り付けておいたカメラに小野寺さんと同じ物体を撮影した。目撃者は1人きりだった。しかし、2人の撮影した物体はまさに逆ソングブレードで、話題のアダムスキー型円盤に間違いないというのがマニアの一致した意見だ。

UFO撮影地の熊倉では約30人のうち数人の目撃者しかいなかったが全く別の場所でも同じ時間に偶然UFOらしい物体を撮影したことでそれまで円盤を信じた人たちが目撃者に出かけるようになった。稲刈りでもいそがしい農家の人たちが農作業の手を休めて空をながめるなど、市民も昼夜を問わず空飛ぶ不思議な物体を追いかけている。

アダムスキー型円盤「米・カリフォルニアのパロマ山に住んでいたG・アダムスキー氏が撮影した円盤」といわれる。日本では一九七五年5月11日に千葉市で同8月3日夜は愛知県豊田市の撮影されている。千葉市で撮影したのは中学校理科クラブ天文班の5人で、このとき、円盤は千葉県勝浦と会津を結ぶ線上に出現するとレポートしている。(以上「UFOと宇宙」の専門誌から)(一九七五年10月13日付、福島民報)

止めておいた車が動き出す

●山梨県白州町大坊

2人の若者が「宇宙人らしいものを見た。車が後ろへ引く張られた」と言う。周囲の人たちは「ウソだ」「いや、ほんとうだろう」と言い、議論を呼んでいる。「ヘン」なものを目撃したのは白州町大坊、農業植川美智雄さん(19)

と同町横手、荏崎工高機械科3年古屋剛君(18)。「あれはたしか、今月、1日の夜のことであった」と植川さん。午後8時半頃古屋君と2人で夜のドライブに出かけた。車は植川さんの父親、正次さん(53)の軽四輪。同町竹宇にある尾白川キャンプ場の駐車場に車を止めて休んでいた。駒ヶ岳神社の下方にある駐車場だ。

サイドブレーキをかけておいた車が突然、後ろへ引く張られたので、古屋君は前につんのめったという。砂利が敷きつめるのに音もしないで「スー、スー」と5、6メートルも引く張られて5、6秒間停車。また引く張られることを繰り返した。結局、車は約15メートル後ろへ移動したという。

怖くなって、2人は車のエンジンにかけて逃げ出した。しばらく竹宇地区の方を乗り回して再び元の場所に引き返した。今度は駐車場入り口の坂道に停車したが、再び車は上り坂を上の方に引きずられ始めた。2人は「宇宙人じゃないか」と思っ

て車を動かした最初の場所に置いた。すると少しづつまた後ろへ引かれたという。古屋君は「最初引かれる直前、身長1メートル足らずの小人のような人が、暗がりに大勢いた。あのときは近所の子供たちが遊んでいるのかと思ったのだが。そういえば助手席側の窓ガラスを直径5センチぐらいの、まるで牛の足のようなものがふいてた。あれは宇宙人では」と言う。

「そういえば車から降りたとき、なんだかザワザワして変な感じで、オヤジさんが翌朝、車のリアガラスに手ですくったような字とも、絵ともつかない模様がついていた」と言っていた」と言うのは植川さん。ひよっとすると、甲斐駒あたり宇宙人の円盤基地でもあるのではとある。い出す人も現われ、にぎやかである。

(一九七五年10月14日付、山梨日日新聞)

秋田市に「黄金色の物体」

●秋田空港管制官らが発見

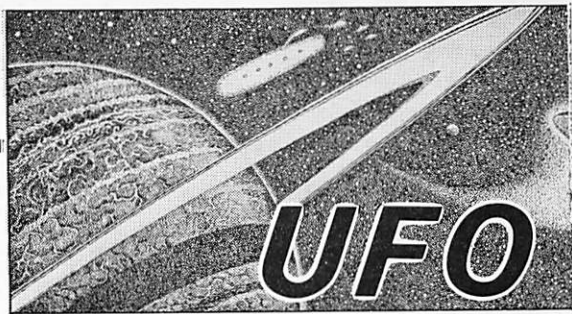
一九七五年10月17日午前10時40分頃、秋田市の大森山動物園上空に円盤状の黄金色に光る物体が浮かんていたのを同市新屋割山、秋田空港管制官の管制官らが発見。「物体」は同市南部にある同山の上空900、1500メートルのあたりにあり、約5分間確認された。同空港ではこの日、来月1日から新設される東亜国内航空の秋田一大阪線のテスト飛行が行われており、当時管制室にいた管制官はじめ、見送り客や空港関係者ら約50人、肉眼ではっきり確認したという。

テスト飛行の取材で同空港に居合わせたABC秋田放送の町田正樹記者(25)は「黄金色の光を発した平たい円い物体がはつきり見えた。空港にいた人はみな、5分間くらいで見えなくなったが、5分間くらいで見えた。同空港によると付近の上空には当時飛行中の国内便はなかった。(一九七五年10月18日付、毎日新聞)

秋田市の「輝く物体」は本物のUFO?

●細長いサラのような形

一九七五年10月17日午前10時40分から同50分にかけて、秋田市新屋の秋田空港管制塔で仕事をしていた田沢拓実さん(21)は大森山にあるテレビ塔上空でキラキラ輝く飛行物体を発見した。双眼鏡でのぞいたところ、細長いサラのような形をしたもので、金色に光っていた。夜空に輝く明るい星と同じくらいの光度だったという。ちょうど東亜国内航空の大阪一秋



田便のテスト飛行中だったため、田沢さんは無線で注意するように連絡。「高度3000フィート付近に確かに未確認飛行物体がある」と返答があった。しかし、その後この物体はスッと自然消滅したという。本間にUFOは存在するのかもしれない。(一九七五年10月20日付、秋田魁新報)

喜多方市のUFO

○毎晩のように出沒

●全国のUFOファンが詰めかける昨年、消え行くSLで名を売った喜多方市だが、こじしはUFOで大騒ぎしている。

本社にも連日のように電話や手紙で「UFOを見た」という連絡が相次いでいるが、喜多方市には全国からUFOファン(?)が詰めかけカメラを構えて観測、撮影に懸命だといふ。人間には常には知らずには計りしれないもののへひそかなあこがれがあり、これがツチノコや英国のネッシーなどを面白がる心理につながっているように思う。

UFOもその一つとみられなくもないが、喜多方市の上にあまりにもエスカレートしてきては、そういつていられない。解明できるものなら早く解明して無用な騒ぎはくなくしたいものである。

つい先日、福島市の福島天文同好会の大野昭明会長から電話をちょうだいした。その内容は「一九七五年1月15日夜、東北各地で100人ぐらいたったというUFO騒ぎがありました。そのとき私はあるテレビ局に取材され、人工衛星のかけらでも

落ちたのではないか」と答えておいたのですが、最近、英国から届いた人工衛星に関するニュースによると、ちょうどその頃「コスモ701」の破片が70個くらいに分かれて、世界各国に落下、そのうちの一つが東北上空を通ったことがはっきりし、私の言ったことが間違っていないことが証明された」というものだった。

UFOなんて案外こんなものである。喜多方市のUFOは幸いなことに毎晩のように出沒、現れるときはほぼ決まったコースを飛ぶという。これだけ材料がそろっているなら、科学の発達した今日、いまだに未確認というのも情けない話だ。だから早く「正体」をあばき「枯れ尾花」であることをみんなに知らせてほしいものだと思う。(一九七五年10月21日付、福島民報)

富山市にも空飛ぶ謎の物体?

●小学生が写真撮影
これがUFO? 富山市の小学生がこのほど、空飛ぶナゾの物体を写真撮影、学校や付近の人たちの話題になっている。

写真をとったのは富山市音町町、教員、浅利勉さん(二男、哲之君(9))清水町4年(10月6日)午後4時頃、学校から帰ったあとと兄の太伸君(13)「大泉中2年」や近所の同級生と一緒に家で遊んでいたところ、窓の外に黒い物体が飛んでいるのを「発見」し、びっくり。あわててポラロイドカメラを持ってきて撮影したという。

哲之君らの話によると、この日の天候はあまりよくなかったが、「ナゾの物体」は雲の手前の方を飛行。太陽はどの大きさで丸をつぶしたように見え、色は薄い黒色で、光りはなかったが、北西から南の方向に向かって不規則に飛び、約5分後に姿が見えなくなったという。

その後、哲之君らが撮影したことが伝わる、同時刻頃に「目撃」したという子供たちが多かったため、たちまち付近民や子供らの話題となったが、哲之君「前に一度、UFOみたないものを見たような気がするが、今度のはかなりはっきり見え、正体がわからないが、見たという友だちも何人もおり、UFOじゃないかと思う」と言っている。(一九七五年10月21日付、北日本新聞刊)

甲斐駒ヶ岳で宇宙人騒ぎ

●山腹で黄色い「光」が点滅
南ア・甲斐駒ヶ岳は宇宙人の基地か? こんな奇妙な論争が「宇宙人を見た」「円盤の光を見た」というふもとの人の間で、盛んに論じられている。

というのは、10月1日、北巨摩郡白州町竹竹で「宇宙人を見た」という2人の青年に続いて、12日には駒ヶ岳の登山道で、今度は「宇宙人の光らしいものを見た」という女性が現れたからだ。この「へんな光を見た」という女性は、櫛形町上宮地、家事手伝いの横内澄恵さん(25)。

横内さんは「あれはたしか12日午後6時半頃。小雨が降っていたときのことで」と言う。横内さんは友だちの女性と2人で、10日に青木鉱泉・地蔵ヶ岳・早川尾根・北沢峠・駒ヶ岳・横平のコースを二泊三日の予定で縦走した。2人は、13日朝、北沢峠を予定通り出発し駒ヶ岳を下る途中、疲れをいやすため駒ヶ岳神社西方の見晴らし台で腰を下ろしていた。

「光」はそのとき、北側にそびえ立つ標高923メートルの山腹に現れ、黄色く、点滅するように太く、なったり細くなったりしながら、山すそに線を描くように消えた。横内さんはUFO、宇宙人についてはいくつものしるしと、見たときは、別に気にもとめなかったが、後です

ぐ近くの駒ヶ岳神社に「宇宙人が現れた」という2人の青年の奇妙な話を新聞で見てビックリ。「もしや」と思っ、周囲の人に話したそうだが、2人の青年が「宇宙人」に会ったという場所と、横内さんが「光」を見たという場所は、「光」が見えたという923メートルの山を隔てて約2キロ離れている。このため、「宇宙人に間違いない。甲斐駒ヶ岳に宇宙人の基地があるのでは」と言い出す人が現れて、話題をまいていく。(一九七五年10月22日付、山梨日日新聞)

樺原市で「UFO」の目撃者相次ぐ

●ピンポン玉のように跳ねて飛行
「あれを見た以上、空飛ぶ円盤を信じないわけにはいかない」——一九七五年10月21日・22日の両日、樺原市内で、未確認飛行物体を見たという話が相次いだ。せん回して友好の合図を発信したピンポン玉のように跳ねながら飛行した。いずれも午後8時前後の出来事だ。さて、実体は何だったのか。

21日夜、同市川西町一八八、農業梅本庸三さんの妻、美貴子ちゃん(40)と長女、新所小5年高美ちゃん(11)、二女同小1年有香ちゃん(7)、長男勝彦君(5)の母子が自宅の庭で見たという未確認飛行物体は西の空の葛城山と二上山上空を南から北へ飛んだ。オレンジ色で、自転しながら高度を下げ、やがて光が2つに分かれ、パットひときわ輝いて消えた。この間約30分。

同じ光る物体は、隣家の水道工事業、辻井義夫さん(49)と長男茂さん(20)も自宅庭で見ている。茂さんは8月末と9月末にも同じ現象を見ていた。特に2回目はピンポン玉のように跳ねながら飛行したという。両家の人たちは「このへんは旅客機の航路になっているので、飛行

機の飛び方や信号灯の様子はよくわかっていて。あの光は音もしないし飛び方が全然違う。空飛ぶ円盤の話はよく聞いた、読んだが信じていられなかった。これからは信じざるをえない」と興奮気味。

22日夜は、同市西池所町一八二、農業中西洗盛さん方に下宿している奈良芸術短大2回生の長里花さん(19)加藤明美さん(19)後藤楓子さん(20)の3人が近鉄南大阪線樺原宮西駅駅踏切を渡って目撃した。長さんが西の空を指して「あつ空飛ぶ円盤と違う?」と大声をあげた。

3人が見上げると、オレンジ色の光る物体が二上山上空から駒ヶ岳山に向ける低空で上下運動を繰り返しながら東進していた。2分30秒で消えたが、15分後、踏切から50メートル離れた西池所橋のところで南から駒ヶ岳山に向かう光を見た。オレンジ色で二重の輪になっていた。これも2分30秒で消えたが、更に30分後、駒ヶ岳山の方から飛んで来た光が、3人の周囲を円形を描いてせん回上下運動、ジグザグ、後退などを繰り返して飛行、約10分で消えた。

生駒山宇宙科学館にこの話をするとき、ときどき、未確認飛行物体を見たという連絡があるが、どうも天文学の分野ではないので、見間違いないかと思う」と否定的。しかし、澄み切った秋の夜空のこの未確認飛行物体話、なにやら楽しい。(一九七五年10月24日付、読売新聞奈良版)

秋田県の中学校で教諭、生徒がUFO騒ぎ

●金色に輝く平べったい物体を目撃
10月22日午後4時40分頃から同50分頃にかけて、雄勝郡羽後町西馬音内、羽後中て学芸会の準備をしていた2年生が、島海山から大曲市方向に向かって飛んでいく金色に輝く平

べつたい飛行物体を発見、校内にいた100人以上の教諭、校務員、生徒たちが、これを見てUFO（未確認飛行物体）だ、と大騒ぎになった。

田んぼの中の見晴らしのよい場所に建っている同中では、1階や2階から飛行物体をじっくり観察した。この日はだれもカメラを持ってなかったで証拠を残すことができなかった。

県内では17日午前中、秋田市の秋田空港管制塔で働いていた田沢拓美さん（21）が大森山上空でキラキラと輝く飛行物体を発見したと話題になったばかり。

東京航空局秋田空港出張所によると、ローカル機、定期便とも22日午後4時21分、全部着陸しており、また航空自衛隊レーダー観測でも、同時刻頃の飛行機は確認できなかったと言っている。

怪音を発するUFO？

●「カン、カン」と軽い金属音
喜多方市ではUFO観出が話題を呼んでいるが、石川郡玉川村ではUFOの飛行音？が聞こえたこと大騒ぎしている。

この怪音を最初にキャッチしたのは同村藤生字羽根石一、電気器具商添田宗良さん（27）。

一九七五年10月21日午後8時頃、風の音に混じりて上空の方で「カン、カン、カン、カン」という軽い金属音が聞こえた。

近所の人たちと一緒に空を見上げたが、音は空が広がって見えず寒々とした夜空が広がっているだけ。添田さんは約1時間、この怪音を録音する一方、電気商だけに近くの工場か工事現場のモーターの回転音がサモスタットの音と推定、カメラを持って付近一帯を探索したが、それらしいものは見つからなかった。

録音テープには5・10分間隔で原因不明の音が収録されており「UFOが通過、または着陸するときの音ではないか」と大騒ぎ。この怪音22日夜も聞こえたが前後同様北北西の上空から聞こえる。

添田さんは自称「地球耳」で数キロ先の救急車のサイレンの音が聞こえる「また交通事故だな」と思っている

と間違いない数分後に救急車に出会うというほど聴覚が発達しているご仁でもある。

一九七五年10月25日付、福島民報

諏訪市と岡谷市で同時に「UFO」が出現？
●岡市の小学生が同時刻に目撃
諏訪市と岡谷市の小学生たちが、ほぼ同時刻にUFO（未確認飛行物体）を目撃し、「あれは絶対に空飛ぶ円盤だった」と興奮している。

時刻は10月22日午後6時少し前、諏訪市でこの「光る物体」を見たと言るのは、高島小6年の鮎沢克己君と5年の浜野純平君で「ゴミ処理場近くの上空を見たいな小さな物が白く光りながら飛んでいた」とのこと。

岡谷市では、田中小の校庭にいた4年の岩井実君が白く光る物を見つけた、居合わせた5・6人の子供たちも目撃。

怖くなって家に帰る途中6年の丸茂君も白く強い光がジグザグに動くのを見たと言っている。

アマ天文学者の今井正明さん（諏訪市立図書館員）は、「今頃の日暮れ時は木星がきれいに見られる。雲が流れていて、それが移動しているものと錯覚しやすい。科学の分野では空飛ぶ円盤は存在しないと言っているが、夢を打ち砕く冷たい説明をしているが。」
（一九七五年10月26日付、南信日日新聞）

福島県いわき市でもUFO？
●気象観測用の気球が濃厚
県内各地で「UFO」を見たという人が多く、各地で話題となっているが、一九七五年10月27日夜、いわき市の常磐共同火力勿来発電所周辺でUFOを見たという人が数人もでた。

時間は午後9時から10時頃までの間、星よりもかなり明るく、じつと止まって左右にノロノロ動いた後スーと消えて行ったという。ところが現在、同発電所で昼夜時間を区切って気球を打ち上げ、気象観測を実施しており、夜間を目印として気球に打ちつけて打ち上げていることからこの気球が「UFO」と間違えられたという説が濃厚。

しかし、一方ではUFO説もなかなか捨てきれず「あれは絶対UFOだ」と主張する目撃者もいる。ちなみにこの気象観測、11月1日まで続けられる予定で、ユメユメ気球に「ダマされないように」。

（一九七五年10月30日付、福島民友）

指宿市に白黄色のUFO出現？
●ジグザグ飛行して消える
指宿郡喜入町で「空飛ぶ円盤」騒動が起こってからもう1年。「こんどは指宿市の知林ヶ島上空に現れた」と、ナゾの発光物体を撮影した青年がいる。

「飛行コースを移動したのでは？」
「UFO（未確認飛行物体）をめぐる話題は再び指宿市で広がってきた。」

撮影に成功したのは喜入町役場建築課職員上吹越昭さん（26）。さる10月12日午後6時30分頃、同町生見の自宅近くの海岸にいた母親のミヨ子さん（49）が約8キロ離れた知林ヶ島の上空をジグザグ飛行中の発光物体を最初に見つけた。上吹越さん

はさっそく135ミリの望遠レンズを3・5に絞り、カメラを三脚に固定して撮影した。

10月28日、フィルムを写真屋で現像してもらったところ、白黄色に現れた奇妙な物体が2枚のフィルムに写っていた。「ソノブレロ型の発光物体だった。知林ヶ島の上空を上下、左右にフワフワ乱舞したあと、こんどは錦江湾の上空を何度もジグザグ飛行を続けながら横断するように行ったり来たりして、最後に大隅半島の空へ消えて行った。近所の人たちも果実約15分間観測できた」という。

喜入町でUFO飛来が話題になったのは、昨年10月23日夜、同町弓指の鹿商店高3年、横井昇一君（18）が喜入駅を降り、単車で帰宅の途中「バスぐらいの大きさの発光物体を見た」という記事が本紙に掲載されたのがきっかけ。

この記事を読んだ同町役場建築課崩中幸一さん（30）はUFO探しに執念を燃やし、これまでに数回撮影に成功したほか、多くの目撃者もつぎつぎに現れテレビや週刊誌にも紹介されるなど、喜入の空飛ぶ円盤は全国的にも有名になった。

指宿市でも昨年末から九州電力指宿営業所の職員や高校生が「UFOを見た」と報告しているが、撮影に成功したのは初めて。この同僚の2つ写真を見て崩中さんは「これはロケットや飛行機から出す発光体ではない。明らかに円盤だ」と断定している。

指宿市内では「不況風が吹く温泉都市・指宿にとって、空飛ぶ円盤は天から降ったかっこうの観光資源。『指宿でUFOを見よう』と宣伝に使ったチャッカリ組も現れるかも」といううわさがしきり。秋の夜空にナゾの物体を求めて限らない夢とスリルを追うUFO騒動は当分続きそう。

（一九七五年10月30日付、南日本新聞）

鶴岡市でオレンジ色の物体が飛ぶ
●主婦、女子中学生らが確認
オレンジ色に光り輝く物体がユラユラ飛ぶ。あれはまぎれもなくUFOだぞーこのほど、二晩続きで鶴岡市の主婦、女子中学生らがそれぞれ複数で確認、話は人から人へ。

主婦は夜7時半頃、北の空、島海山の方へ姿を消すまで家族と2分間ほど確認。中学生はその翌日の午後5時50分過ぎ、やはり月山から島海方面へ「飛ぶ」光の物体を発見。いずれも雨が今にも降り出しそうな夜空であるうえ、飛行音もなく、「あれは絶対に星ではありません」と自信満々。

「はおー、こんどはどこに出るか」と、話は広がる一方。たとえ発見してもはつきりと「UFO」と言い切れるわけではないシロモノ。この正体いつたないなんだろう。

（一九七五年11月6日付、山形新聞）

駒ヶ岳の「宇宙人ブーム」
うわさが人を呼ぶ
●紅葉そっちのけの見物客
白州町竹宇の駒ヶ岳神社周辺にちよつとした「宇宙人ブーム」が起きている。10月初め、同町の青年2人が「宇宙人を見た」との「体験」が報道され、その後テレビでも全国放送されたことから話題が話題を呼び休日には紅葉見物が目的ではなく、宇宙人目当てのマイカー族で、現場の尾白川キャンプ場駐車場はいっぱいだ。

2人の青年の体験談によると、夜停車してサイドブレーキをかけてあった車が突然後ろに引っぱられたというもので、助手席に乗っていた1人は「小人のようなものが5・6人いた。宇宙人では」と言い出し

「車の窓ガラスを牛の足のようなものがこすっていたのを見た」と証言した。その車は翌日、バッテリーがすっかり上がっており、点検に出したところ、まだ30000キロも乗っていないのにエンジンがこわれていたというものだ。

「スワウ宙人」(田盤基地があるのか)話題に追い討ちをかけるように「甲斐駒ヶ岳を登山中、駒ヶ岳神社西方の見晴らし台付近で田盤らしきものを見た」という中巨摩郡御形町の女性も現れた。更に長坂町にある狭北消防本部長坂消防署の署員も「緊急出動の際、駒ヶ岳の上方を赤っぽい緑色の物体が飛ぶのを見た。飛行機の見間違ではない。4人同時に見ている」と駒ヶ岳の田盤について話している。

このため宇市人の現れたという「現場」には、平日でも県外ナンバーや県内ナンバーの車がやって来て、竹宇地区の人に「田盤の出る神社はどこか」と聞くそう。またなかには夜、カメラにフラッシュを装着して「宇市人の出現」を持つ人まで出るほど。突然の「田盤異変」に、観光地・尾白川渓谷は急に訪問者が増え始めた。地元では「田盤ねえ。本当ですか」との声も。(一九七五年十一月六日付、山梨日日新聞)

山上にUFO?

●和歌山県の中学生在が撮影UFO(未確認飛行物体)らしい写真、はつきり撮影した中学生がいる。

和歌山県日高郡電神村上柳瀬、中山路中学校2年大浦美義君(13)が去る4月の午後4時30分頃、自宅付近でフィルム枚数の少ないカメラで何かを写そうとしていたところ、山の上に田盤様の黒い物体が飛んでいるのを見つけたシャッターを切った。カラー写真には、山上に回転する物体がはつきり写っており、大浦君

は「夕方なので下から見ると黒っぽかった。大きさは10センチぐらいに見えたが山より高かったので本当の大きさはわからない。虎ヶ峰山の方へ飛んで行った」と不思議がっている。(一九七五年十一月七日付、紀伊民報)

松島上空にもUFO出現?

●野球のボール大で音はない
一九七五年十一月十日午後5時20分頃、松島町高城寺町、松島中2年佐々木純一君が友達2人と下校途中、南の空から西に向かって光を発しながら飛んでいる物体を目撃した。

佐々木君らの話によると、この「ナゾの物体」は野球ボールぐらいの大きさ、音はなく、ジグザグしながら西の山の方へ消えて行った。7分間ぐらい見ていたが、消える瞬間異常な光を出し、物体が2つに割れたと言っている。佐々木君らは「UFOに間違いない」との確信を抱いている様子。

自衛隊霞ヶ丘駐屯地では、この時間帯、練習飛行はしていないと言いつつ、航空自衛隊松島基地では「飛行機であれば音がするはず。飛行物体を見たという情報も入っていない。なんでしょうかね」と首をかしげている。(一九七五年十一月十一日付、河北新報)

静岡県に「青白い光」を放つ物体が現る

●人衛生の燃えカスカ?
一九七五年十一月十二日未明、西の空で青白い光を放つ未確認物体(UFO)を見たという人があり、東京天文台に各地から問い合わせが殺到したのが、本県でもこの「物体」を見たという人が現れた。

目撃したのは、磐田市西島、市議山下正夫氏で、同日午前4時半頃、日課の朝の散歩に出たところ、田原小付近で、西の方から南の方に向かい、太田川上空を、月ぐらいの大きさに見える青白い光を放つ物体が目のすぐそばまで通過するのを見た。時間を計ったところ7秒ぐらいで南の方の太平洋に消えたという。天文台係官の話では、いま人工衛星は3000個も地球の周りを回っているの、あるいは大気圏に入っただけで燃え尽きたとも考えられ、最近ではよくみられる現象です」と言っている。(一九七五年十一月十三日付、毎日新聞静岡版)

パトカーで警ら中、青白いだ円形の「物体」を発見

●小田原署の無線に連絡が飛び込む
一九七五年十一月十二日未明、小田原署の無線に「空飛ぶ田盤を見た」と警ら中のパトカーから連絡が飛び込んだ。時刻が時刻のこと「ねぼけるな」と、当直さん(この2人は同署外勤課の岩淵晃一巡査部長(31)と松下隆彦巡査(25)。同日午前4時40分頃、小田原市鴨宮の国鉄鴨宮駅北側の市道をパトカーで警ら中、酒匂川飯泉橋上空を箱根方面へ向けて、ジェット機のような猛スピードで飛ぶ青白いだ円形の「物体」を発見、本署に報告した。

その後の調べで、約5分後に隣接の秦野署でも国道246号を走っていたパトカー(26)ほか1人乗務が、富士山上空から南の方に向かって飛んでいるこの物体を確認していることがわかった。さあ大変。

岩淵巡査部長の話によると、直径3.5メートル、後ろに黄色い火を噴きながら約10秒間で雲の中に消えたという。流れ星にしては大きすぎるうえ、飛行時間が長い。また、航空路からも外れているとあって「UFOでは」という結論になったが犯人追及には慣れているはずのお

巡りさんも、これには「まいった、まいった」。(一九七五年十一月十三日付、神奈川新聞)

小田原署員のUFO目撃はその後市民の話題に!

●朝日新聞の通信局にも電話
小田原、秦野両市で一九七五年十一月十二日早朝、パトカーの警官4人が「空飛ぶ田盤」らしいものを見た、と報告したため、小田原市では「まさか、宇市人でもあるまい」「いや、警官が見たのだから間違いない」「季節はずれだが、ひとだまでも見たのでは」と市民たちの絶好の話題になっていく。朝日新聞の通信局にも、市内の読者から「11月11日夕方箱根山の上空で見た」「11月13日午前2時過ぎ同じような飛行物体を目撃した」など電話があった。

小田原署には13日朝、新鶴岡上越市のたばこ屋の主婦が、はるばる電話をかけてきて「同じ時刻頃、日本海から太平洋に向かって三角の形をした飛行物体が飛ぶのを見た」と言っている。東京からUFOの調査員がやって来るなどで、署員たちはちょっと持てあまし気味だ。(一九七五年十一月十四日付、朝日新聞横浜版)

備後瀬戸「ナゾの怪物体」

●いん石説が濃厚
一九七五年十一月十三日夜に県下上空で生じた「せん光」はさまざまな憶測を呼び、一夜明けた14日の話題の中心。「空飛ぶ田盤」をこれまで信じなかったが、あれは間違いない田盤だ」と熱っぽく語る目撃者。「いや、あれはいん石だ」と語る人もおり、議論白出。この物体が何であるかは確認できていないが、天文学者の話をまとめると、いん石の落下説が濃厚。備後瀬戸の夜空をにぎわした「ナゾの怪物体」だった。

同日午後7時15分頃、県下各地から「空飛ぶ物体を見た」との通報が県警、消防署、高松地方気象台、四国新聞社などに相次いだ。「1000メートルくらい上空を直接1メートルくらいの火の玉が赤や青、白い炎を引きながら、南西に向かってシュルシュルと音をたてて飛び去り、23分後にドォーンという地震が起きた」と高松市鬼無町で目撃した飯田好太郎さん(70)。同様の通報は深夜まで続いた。

ところで、いん石説を打ち出すのは五色天文台に勤務する小川和夫さん。「車の中で物体そのものは確認していないが、青白い光が次に赤く変わった。たぶん、いん石が落下したものだ」と推測。また、東大岡山天体物理観測所の石田五郎副所長は「ドォーンという音は衝撃波で、落下音ではないと思う。たぶんいん石はどこかに落下せず、途中で燃え尽きてしまっているのでは」と語っている。

UFO、超能力の講演会

●山形大の「超科学研究会」
金力やテレパシーからUFO、幽霊まで、世のあらゆる「超常現象」に取り組んできた山形大学の「超科学研究会」が12月6日、米沢市民文化会館で初の講演会を開く。「研究活動を広く知ってもらいたい」とも、人間の秘められた能力を自覚してもらうため、当日は参加者を対象にした色彩心理診断も行。世紀の謎として話題を呼んでいる「パシフィックの怪」について、米航空局が最近「特殊な問題」があると公式見解を

示すのは、国立科学博物館の村山実男理化学部長。「いん石」の権威者で県下に落下していることがはつきりすれば調査に乗り出したいと意欲十分。(一九七五年十一月十四日付、四国新聞夕刊)

出したばかり。果たしてこの企画どんな反響を呼ぶか。

山内に「超科学研究会」という一種風変わりなサークルが誕生したのは3年前。金力、テレパシーはものろん、予知、透視などの超能力やUFO、更に伝説のムー、アトランティス大陸まで、あらゆる超常現象に興味を持つ学生が集まった。

しかし「テレパシー」などの現象を契機に宇宙と人間についても考えていこう」というだけあって活動内容は本格的だ。シートフィルムを使っての念写実験、電流、電圧計をセットしてサポテンとテレパシー送信実験などに取り組み、一方、UFOや幽霊に関する情報も集めた。残念ながら実験は失敗の方が多かったという。

また、研究誌「超科学」を発行、「宇宙人の存在について」「霊と霊界に関する考察」「予言の不確定性」「タキオン（超光速粒子）とテレパシー」など会員の得意な分野について研究を深めてきた。会員の半数近くは工学部学生。それだけに「理論」はお手のもの。アインシュタインの相対性理論、高等数学を駆使して「テレパシーのエネルギー波の正体」を究明したり、ときにはピラミッド効果（世界最大のピラミッド「クフ」の精密な模型を作り、その中に刃物を入れておくときびきないといわれる）を確かめるための実験もやったという。

メンバーは現在16人。結成以来参加している森口茂君（工学部繊維科4年）は「我々は皆ロマンチストなんです。会員だけ一人としてUFOも幽霊も見えないけど、その存在だけは固く信じています」とニコニコ。「我々の活動を広く知ってもらいたい」とつけ加えた。

開演は6日午後4時半。講師は超心理学や精神科学の若手研究家である全国的なサークル「宇宙研究会（CRC）」の主宰者、山本佳人、同研究

会の設立者でOBの高木潤介、色彩心理の研究を続けている菅原秀の3氏。講演のあと、質問や相談も受けつけるという。

（一九七五年十一月十七日付、山形新聞）

瀬戸内海沿岸で「UFO」騒ぎ

●夜空に怪しい火球が飛ぶ！

香川、岡山県など瀬戸内海沿岸の人が11月13日夜、衝撃音とともに空が紫やピンク色に光る「怪現象」を見た。と伝えられているが、三好郡山城町、池田町でもこの7月から数回にわたって未確認飛行物体、または惑星の破片ファイアボール（火球）を見たという人が相次ぎ話題になっている。

11月17日朝、山城町役場職員、大池サカエさん（44）もその一人。大池さんの話によると、この7月7日午前2時半頃、ジョージ・ジョージ・コトン」という音が目ざめ、暑いの出窓をあけて空を見たところ「ドゥー」という屋根から空へ突き抜けるような音がした。このあと満月の3倍ぐらいの大きさでコバルト色をした三角形の物体が、100メートル余りの至近距離を南から北へ飛んだ。続いて30センチぐらいの大きさで銀色の物体が同じコースを飛んだという。UFOではないかと思

い、10日朝、屋根の上に上って見たところ、中央部付近のストレーツが真っ二つに割れていたほか直径10センチ前後、深さ0.5ミリの傷跡が無數に入っているのが見つかったという。そして茶か色のストレーツは放射線を浴びたように表面の色がはげ下地まで見えたといわれる。

大池さんはこのあと7月末と8月下旬にも銀色をした30センチぐらいの球状物体を見たと話している。また7月末には夜、木に水をやっていた長女（和子さん）（23）「洋裁学校生」もともに見たという。更に隣家の主婦美智子さん（24）も8月22日

夜、銀色の空飛ぶ物体を見たと話しているほか数人が確認したと言っている。山城町はいまUFOの話で持ち切り。

「落雷ではないのか」との疑問に対して見た人はいずれも「落雷ではなかった」と否定している。大池さんの家は山城小学校のブルの上側に建っており、国道32号線と吉野川を見下ろすことができる。対岸の山が迫っている感じの環境で遠景はきかないため飛行物体をかなり近くで見ている。

一方、池田町西山地区の阿讃山脈の頂上に近い部落数十戸の住民も問題の13日夜、岡山県方面から同町峠久保上空へ向けて赤い物体を見たあと「ドスン」と大きな衝撃音がして窓ガラスが割れたと話しており、もし「怪現象」が一部に伝えられている惑星の破片ファイアボールだとすれば落下地点は阿讃山脈の山中ではないかという声も出ている。

（一九七五年十一月十八日付、徳島新聞）

UFOや宇宙の神秘ブーム続く

●実体不明へ執念燃やすマニア

超能力、オカルトブームが去ったと思ったら、現在はUFO（未確認飛行物体）つまり空飛ぶ円盤や宇宙の神秘ブーム。これまで一部のマニアの占有物だったのが、いまや多くの人たちのものになったわけ。人間の想像を越えたものへの好奇心、あこがれがその底にあると言える。いわば現代人のロマン。このロマンを追いかける人々を紹介してみよう。

西南大学怪奇研究会（江島勝会長。昨年4月発足で会員15人。活動の内容はUFO探究から妖怪（よかい）や超能力、更に無人島探検まで、およそ変わった現象なら何でもやってみようという集まりである。「未知なものに触れてみたいという好奇心。言ってみれば、怖いものみ

たさとも言えるでしょうね。でも、そこには人間ならだれでも持っているロマンがあるんじゃないでしょうか。会を作った一人で前会長の畠山公作君（3年生）。

UFOを見たという情報があればすぐ飛んで行く。昨年11月に行った熊本県人吉市の例はこうだった。地元九州工業大学の先生が車の窓から月やや大きいフットボール型の光る物体を見たというのだ。「車と一緒に移動すると言わんでは。はつきりとは確かめられなかったけれど、市内の何カ所かで「見た」という人がいるので、もしかしたらという感じがする」。

岡山県旭町、広島県尾道市、福岡県瀬高町など新聞で報道された場所にも調査の手を伸ばしている。今夏テレビでも放映された猪俣郷嘉徳町にも。ここは古処山の上空にUFOが現れるというので同地の八丁峠は近在の人でにぎわった。しかし結局は飛行機の灯火ということになった。「確かに飛行機を見送っている例は多いです。かなりはつきりとした飛行機とわかるのに、1人がUFOだと言え、回りの人が「そうだ、そうだ」と言っていたら、まあ群衆心理ですね。しかし、飛行機とは決められないものもあると思っています」。

UFOの存在を確かめたいと、空の写真撮影を続けている人がいる。画家の小山正さん（27）「福岡市中央区菜園」。目撃の話聞いて、大牟田、久留米、鹿児島まで出かけて写真撮影した。「残念ながらいまのところ何にも写っていません。UFOに何対する興味という、現実とは違つて別の世界に対する興味ですね。次元の違うものが存在するのではないかと。それを確かめたいんですよ」。

昨年11月初め、メキシコに行つて古代文明のピラミッドなどを見たのが発端。「あんな広大な建築物を作った人間の力。何か現代の人間の想像を絶する力があるんじゃないか。今度は友人の話から田川に写真撮影に出かける。とにかく写るまで続けるつもり」だそうである。

小山さんが大牟田で写真を撮るきっかけになったのが、テレビ局に勤める友人の女性の話。「家の前に立つたら全然信じてくれない」ので名前を出したくないというこの人の「証言」によれば、出現したのは去る5月19日の午後5時半から6時頃のこと。

大牟田駅の正面玄関の上方に三日月型をした朱色に光る物体がゆっくりとジグザグに降りて来て駅舎の屋根の向こう側に消えたというのだ。この間5、6秒にわたる。

「友達4人と一緒に見た。以前からテレビなんかで見て興味を持っていたが、見たのは初めて。それまで信じられなかった部分もあったけど、いまはすごく信じています。現実には他の星があつて、すぐ進んだ文明があるというのはいくらも考えられることだからね」。

「見た」という人は意外に多いようだが、今月初め西南大学の大学祭で同研究会が小中学生にアンケートをとったところ「見た」というのがかなり現れた。

「百道小、西新小、高取小の生徒がいたが、自分は見たとかクラス全員が見たとか、70枚ほどのアンケートではほとんどがUFOの存在を信じてました」と畠山君。

もちろん真実のほどは定かではない。夢というか、ロマンというか、人間だれしも持っている未知なものへのあこがれなのだ。畠山君は学生だけでなく一般人も含めた会の結成準備中。その名も福岡ロマン探究会。UFOを初め、よう怪探偵や探検など信じられないものに挑戦しよう」という趣旨で来年1月旗揚げの予定で、現在会員募集中。連絡先は中岡市昭和町四丁目、畠山公作氏（一九七五年十一月十八日付、フクニチ

新聞

鈴鹿峠上空に「奇怪な赤い光」

●火の玉？ 飛行機？ UFO？

三重県境に近い甲賀郡土山町山中の鈴鹿峠付近の上空にこの夏頃から夜空を横切って飛ぶ不思議な赤い光が見られるようになり、同町黒川地区では日用百貨店を経営する林友茂さん(32)ら若い人が中心になって観測を続けてきたが、このほどその奇怪な航跡の写真撮影に成功、地元ではUFO(未確認飛行物体)かもしれないと、ちょっとした観測ブームが起こっている。

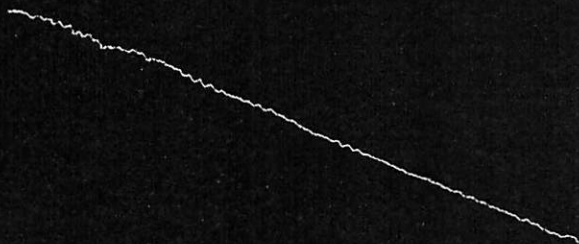
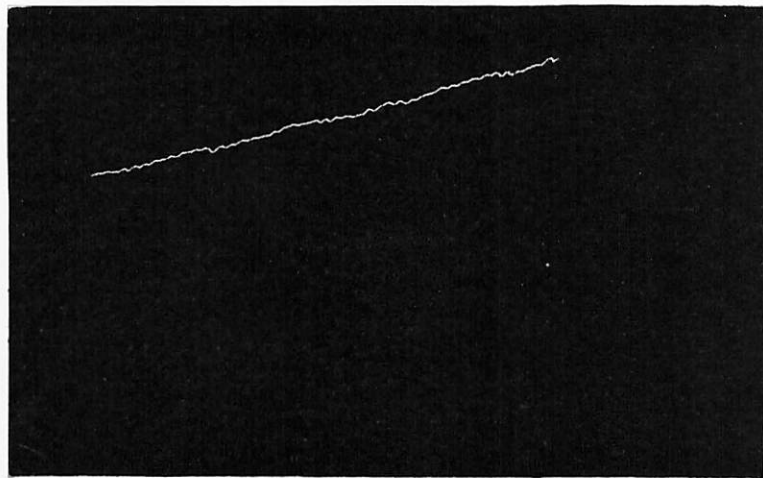
林さんから目撃者の話によると、この飛行物体は全体が赤またはダイダイ色。おもに西から東にフワフワと不安定に上下しながら波形に飛び4/5分間も見えることもある。全体にスピードは飛行機に似ているが、飛行機と違いときどき速くなったり突然ぶつたりと消えたりする。10倍程度の天体望遠鏡を使って見た人によると、翼はなく形は葉巻き型で胴体にはポツポツと数個の点があったという。晴れていれば、ほぼ確実に見えるとあり地元の見撃者は多く、青年団の会合などではしばしば、これが火の玉かUFOか、気象現象か、飛行機かといった議論が沸騰するという。いまのところ写真撮影は同町南土山、会社員松本清さん

(27)が11月8日夜1カ所から一度撮っただけ(左・下2枚の写真)。飛行高度など詳しい分析はできないが今後、科学的な観測や数カ所からの写真撮影などが計画されている。撮影した写真を見た日本流星研究会幹事の藪保男さん(近江八幡市、八幡中教諭)は「飛行機のように思われるが、波形に飛んでいるのがおかしい。観測点をふやし、撮影データをしっかりとせうえで再分析してみる必要がある。現地に行つて調べてみたい」と言っている。

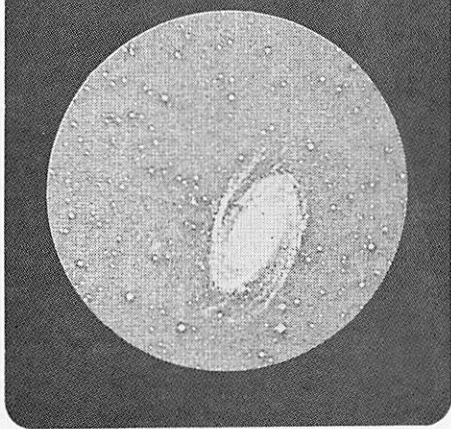
(一九七五年11月20日付、朝日新聞 滋賀版)

●撮影データ

キャノンFTb 50mm F1.4開放
B5〜6秒 三脚リリース使用 コダック・トライX



科学ニュース



宇宙連絡船の一号機

春に完成

●一九七九年、打上げ目ざす

米航空宇宙局(NASA)が開発している宇宙連絡船(スペース・シャトル)の試作一号機が、米カリフォルニア州バームデールにあるロッキウエル社の工場で着々組み立てられている。(昨年十二月十日報道)

宇宙連絡船はアポロ計画に続く一九八〇年代に活躍する宇宙船で、翼をもつ飛行機のような形をしている。本体より大きな主ロケットにおぶさるようにしてケープカナベラルの発射場から打上げられ、宇宙空間を飛行

するが、実験終了後は自力でもどり滑走路に着陸するなどのおもだった特徴がある。乗員は飛行士四人のほか、科学者など乗客六人が乗れる。

この試作一号機は、三月初めにほぼ完成するが、その後、最終点検を行い、七月から振動試験、エンジンの試験、一九七七年初めから地上での着陸性能テストや外部の耐熱装置の機能テストを行う。

NASAは一号機を一九七九年に打ち上げる予定だが、さらに二号機の組み立てを一九七七年二月から開始する。引き続き三ノ五号機の製作も予定している。

中国、地震予知に成功!

●十時間前に避難命令を出す

昨年二月四日、中国の遼寧省に起こった海域地震(マグニチュード七・三)において、被害地震としては世界で初めて、その予知に成功した。その経過について、このほど中国の地震視察団が東京本郷の東大地震研究所で講演会を開き、くわしく説明した。(昨年十二月四日報道)

遼寧省では、一九七〇年から同省一帯を監視地区として、観測機関を最優先で集めて設置した。その結果、地殻変動が観測されたり、地電流、地下水位、地下水中のラドン値などの異常をキャッチした。また、ヘビが地震直前に冬眠中の穴から逃げ出して、雪の上でたくさん死んだり、井戸が自噴するなどの前兆現象が一般の人からも多数報告された。このため、地震の起こる約十時間前に避難命令を出したと説明した。

ヒマラヤは新しい山脈

●千数百万年前になって隆起

世界の最高峰エベレストをはじめ、八千メートル級の峰が九座に及ぶ、世界の屋根―ヒマラ

トピックス

謎のシベリア爆発にまたまた新説

●地球に飛び込んだ「微小ブラック・ホール」か。一九〇八年六月三十日、シベリア・ツングース地方で起こった謎の大爆発の原因について、またまた新説が登場した。

これまで「隕石の落下」「UFOによる大爆発」などと推測されたが、最近になって地球に飛び込んだ「微小ブラック・ホール」ではないかとする新説が現れた。

この新説によると、このブラック・ホールは地球の千分の一ほどの質量がつぶれた砂粒大ほどの小さなもの。宇宙の誕生時に作られたものではないかとケンブリッジ大学のS・ホーキンス博士は語っている。

魚は光を背にして泳ぐ習性がある

●魚はその姿勢を多分に視覚にたよる動物ではないかという推定が、スカイラブの実験によって明らかになった。

光と生物のかかわりについては多く知られているが、スカイラブの無重量下でのメダカの泳ぎ方をみた実験では、輪を描くだけで前にすすめなかったメダカが、三週目にしよて本来の泳ぎにもどった。ここで注目されたことは、メダカは常に照明光に背を向けて泳いでいたという事実である。地球上では、内耳の前庭器官の働きによって傾きや重力を感じ、筋の緊張とか視覚がこれを補充している。無重量下で内耳の機能を失ったメダカは視覚によって姿勢を正したものである。地球上で光の側を上としていたように姿勢を正したのである。

ヤは、千数百万年前に隆起した

ものと、このほど岩石にふくまれている放射性元素の分析によってヒマラヤの絶対年代を測定した京都大学の甲斐邦男研究生(28)と京都産業大学の能田成助教授(34)が、その結果をまとめた。(昨年十二月四日報道)

この新説によるヒマラヤの誕生は、四十五億年という地球の年齢からみれば、ごく最近のものということになる。ヒマラヤ山脈はこれまで、数千万年から一億年前の間に隆起したのではないかとみられていた。最近になって、もっと新しい時代に誕生したという見方が有力になってきたものの、裏付けになる資料がほとんどなかった。

甲斐さんは四十八年春、カンチェンジュンガ山群のカルン・カン峰に登頂した際、持ち帰った岩石に、放射性元素ルビジウムの自然崩壊の進み具合を測定した。その結果、「ヒマラヤの前身は五億年前までさかのぼる古い岩石で形成されているが、千数百万年前になって隆起した」との結論を得たという。

つまり造山運動の結果、ごく最近の千数百万年前になって、「地球の屋根」までになったと

いうことになる。

瀬戸内海に「火球」が落下

●科学者もイン石探しに大騒ぎ

問題の「火球」は昨年十一月十三日午後七時十分すぎ、瀬戸内海東部一帯を青白い炎を引きながら、香川県高見島の周辺に落下したらしい。

目撃者の証言によると、火球は岡山県下津井半島上空、五十キロメートルで発火しはじめ、香川県仲多度郡多度津町の高見島上空十二キロメートルで、「ドーン、ドーン」という大きな衝撃音と共に消えたようだ。

また、高見島では「頭上から島のすぐ東に夕日よりも大きい物体が落下して消えた」「島の東側にある波止場で釣りをしていた人が、海へ落ちた落下物で目がくらんだ」という証言がある。

「火球」は流星のように燃えつきることなく地球に落下するもので、世界でも数年に一度ほど。日本では六十六年ぶりのファイア・ボール(火球)とあって、私学者も火球のゆくえに必死の思いである。

今回の火球は小惑星の巨大な破片が、ゆっくりした速度で地

球に追いつき、大気圏内に突入したものと考えられ、地球や太陽系の起源を知るうえに貴重な資料が秘められているため、国立科学博物館の村山定男・理工学研究部長らのイン石捜査は今後も続きそうである。

日米共同で木星探査

●NASAからの呼びかけに日本も協力したい意向を示す

米航空宇宙局(NASA)はこのたび、東大宇宙航空研究所に対し次のような呼びかけを寄せた。(一月四日報道)

「一九八一年に打上げを計画しているMJO計画において、日米共同で惑星探査機を開発、木星探査をやらないか」この呼びかけは非公式のものだが、これに対し、東大宇宙航空研究所などの関係者は「やりたい」との強い意向を示している。現在、同研究所は所外の関係者も含めた研究グループを組織して、わが国初の惑星探査機開発の技術的可能性について今春をメドに検討を始めた。

NASAのジェット推進研究所が一九八一年に打上げを計画しているMJO計画とは、マリナー型の親子式探査機を木星の

やはり、地球上で生活する人間にも光の側を上とする方向感があるのではないだろうか。

約百三十五年以内に「小氷河期」が襲う

●米マサチューセッツ工科大学の気象学者、ハロッド・ウィレット氏によると、今後、地球上の気温は年々下がる一方で、二一〇年までには小氷河期になるだろうと論文を発表した。

この予言は同氏が行った過去数千年間の太陽黒点の研究に基づき発表されたものだが、きたるべき小氷河期は現在の大陽活動の大周期(七百二十年)の頂点に当たり、二一四〇年まで約三十年間続くという。

さらに同氏は今後二十五年間、地球上の気温は過去十年間に比べ著しく下がりを続けるだろう②米国のメキシコ国境沿いの各州を除き、低、中緯度地域では大規模で長期にわたる干ばつは起こらないだろう③高緯度地方、特にカナダ、北ヨーロッパには大干ばつ時代が到来するかもしれない④アフリカ、南アジアは十年以内に大干ばつに襲われる……と論文を発表した。

ヒマラヤの雪男は類人猿のような動物?

●米国の動物学者、エドワード・W・クロニン氏が「アトランチック・マンスリー」誌の昨年の十一月号に発表した説によると、「ヒマラヤの雪男は、好奇心の強い類人猿のような動物にちがいない」という。

クロニン氏は三年前、コングマア・ラ山の標高三千六百メートルの地点で一夜を過ごし、翌朝になってテントの外に雪男の足跡を発見した。同氏によると、足跡のならび方からみて二

周りに周囲させようとするもので、親は重さ約七百キログラム、子供は約百五十キログラム。打上げはタイタン・セントール、またはスベースシャトル。木星近くまで二年半ほどかけて行き、親子を分離して別々の軌道をとって木星を周回する。親の方は木星そのものを対象に、大赤点や縞模様を生じている木星大気の様子などを調べ、子は木星周辺の粒子、電磁場、プラズマなどを観測するのがねらいである。

金星九号はクレイター の急斜面に着陸した

●ソ連から探査結果を発表する
昨年十月、ソ連の探測器金星

九号、十号から送られてきた写真を処理した結果、金星九号が軟着陸したところは、金星にある火山クレイターの急斜面であったことがわかった。

九号の写真に写っていた鋭く上がった大きな石は、比較的に新しく噴出したもので、火山弾に似た丸みのある石も見えることから、火山噴火があったことが確かめられたという。

また、十号の写真では、平らでコントラストに乏しいのは、古い岩石に地表が覆われているためで、細かい破片に覆われた岩石の多孔質構造は、金星の高温高圧下での活発な化学的浸食によるものではないかと考えられている。(一月七日報道)

●大マゼラン雲も生命存在の可能性を示す

国際天文学者グループはオーストラリア南東部に新設され三・九メートルの英豪光学望遠鏡を使用して、地球に最も近い銀河系にはじめて一酸化炭素を発見した。

大マゼラン雲の中で、ここには多くの若い星が含まれている。大マゼラン雲で、炭素を含んだ分子が発見されたのは今回が初めてで「お隣の宇宙にも、何らかの形の生命が発生している可能性を物語るものだ」と、同天文学者グループのブルース・ピーターソン博士は語っている。

昨年十二月二十四日報道
(AIS)

米ソ宇宙飛行で

X線を発見

●放射能力は太陽の百万倍

米海軍研究所のハーバート・フリードマン博士が昨年十二月、明らかにしたところによると。

昨年7月、米ソ共同宇宙飛行の際、アメリカの宇宙飛行士が二十万光年かなたのマゼラン星雲内に、これまでにない強いX線を発見した。

この星は一分間に三十四回転し、X線を全宇宙に向けて灯台のように放射している。同博士によると、このX線の強さは太陽の百万倍というものすごいエネルギーを放射していて、中性子だけでできた星である。この星は猛烈な重力で隣の星からガスを吸い込んでおり、そのガスは一平方キロメートルくらいの狭い場所に圧縮されている。そのためガスの温度が摂氏百万度くらいに上昇し、X線をつくり出しているらしい。このようなX線を出すバルサー(脈動星)は、銀河系内にヘルクレスX1とケンタウルスX3の2つあるが、銀河系外で発見されたのは、今回が初めてという。

トピックス

本足で歩く動物で、足跡の深さから動物の体重は七十五キログラムであることがわかる。ヒマラヤで目撃されている例もあり、雪男は絶滅にひんした数十万年前の類人猿ではないかという。

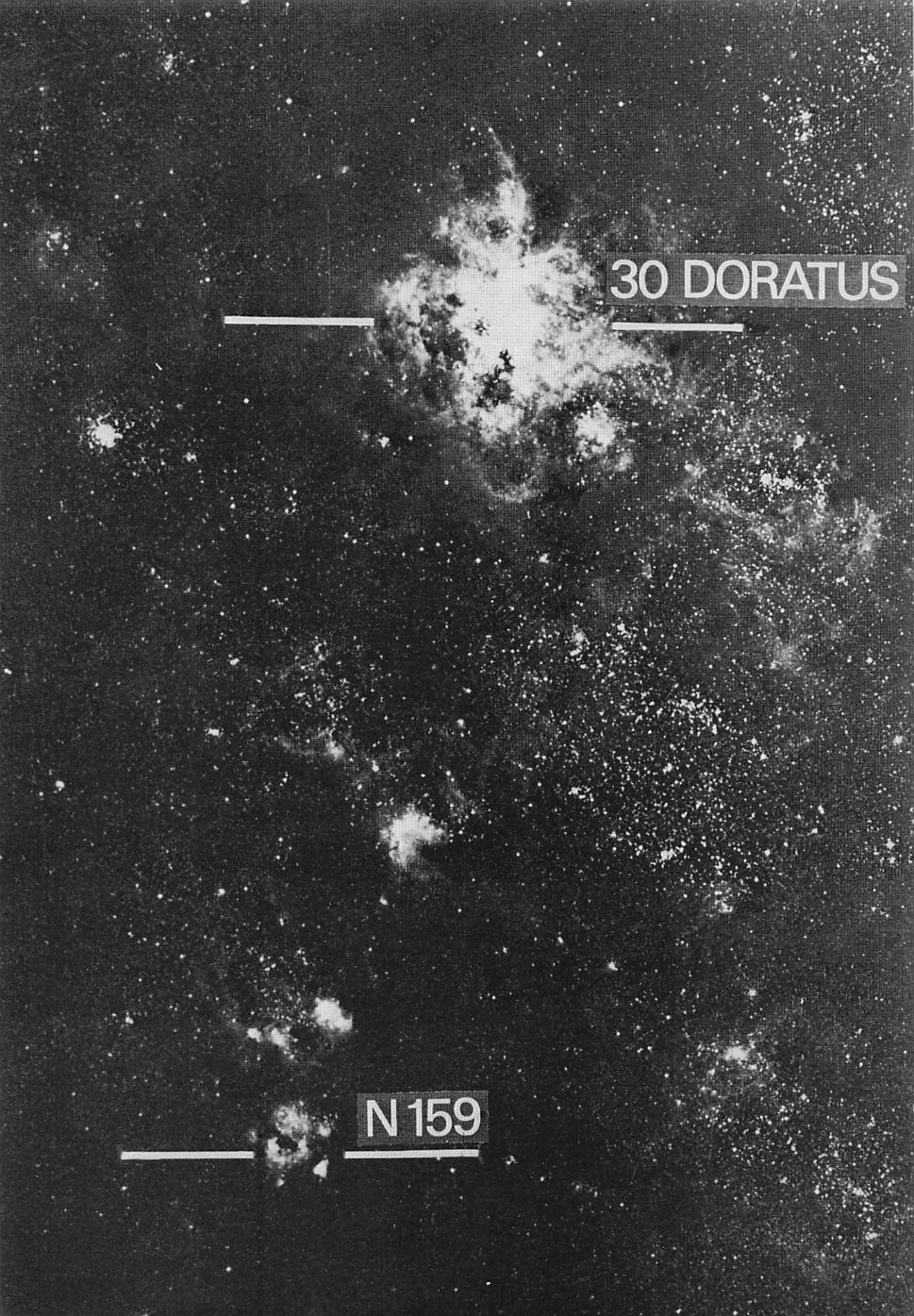
電気を通じると骨が発生する

●からだの中に弱い電流を通じると、電流のすじ道にそって見事な骨をつくることができる。これを応用すれば、どうしてもくっつかなかった骨折でも治療することが可能であるので、整形外科に新しい治療の道を開くことになる。

京都府立医大の保田岩夫助教授は、骨に力が加わると、骨の中に電気が発生することを発見。これが、骨の新陳代謝や成長に大きな影響を与えているに違いないと考えた。保田博士は理化学研究所生体高分子物理研究室の深田栄一主任研究員と協力して「骨の電気」に取り組んできた。その結果、からだの中に弱い電流を通じると、電流のすじ道にそって見事な骨が生えることをつきとめた。

実験によると、ウサギの骨折した大腿骨に電極を巻きつける。もうひとつの電極を皮膚のすぐ下に植えておき、一マイクロアンペアぐらいの電気を流す。三週間たつと、電極の間を橋渡しするように仮骨が生成するのである。

この研究論文が外国の専門誌に紹介されると、米コロンビア大学のパーセット教授(整形外科)、ニューヨーク大のライバイン教授(同)ら欧米の学者たちは、生物物理学者と研究チームを組んで実験をはじめた。どうしてもくっつかない骨折、生まれつき足の骨が折れ、そこが



30 DORATUS

N 159

地球軌道に小惑星を発見

●二千四百万年以内に衝突も？

昨年暮れにつづき、また地球軌道周辺で小惑星が発見された。

米カリフォルニア工科大学のユージン・シューマー・カー教授は一月三十一日、地球の軌道と「緩やかに結ばれたチェーン」のように重なる軌道を持つ直径約3キロメートルの新たな小惑星を発見した、と発表した。

この小惑星は1月7日、同工科大学の天文学者エレナー・ヘリン夫人が発見し「一九七六A」と命名された。発見者のヘリン夫人は、二十年に一度しか地球に接近しないためこれまで発見されなかった、と説明している。

シューマー・カー教授によると、この小惑星は今後二千四百万年以内に七十五パーセントの確率で地球と衝突する可能性があるが、衝突した場合には直径三十二キロメートルのクレアターができるという。

寒波は地球を一周する

●毎年〇・六度ずつ西回り

英国のイースト・アングリア

大学のグレイ博士（気象学）は東京、中国、ソ連、ドイツ、イギリス、米フィラデルフィアの

冬の平均気温の変動を過去にさかのぼって比較した結果、一九五〇年代頃にドイツで起きた変化が、現在イギリスに現れている。この移動は規則的で、六百年で地球を一周するかのようになり、毎年経度にして〇・六度ずつ西回りですでていることがわかった。たとえば、東京で起きた変化は五十年後に中国に行き、百八十年後にはモスクワ周辺へ、二百年後にはドイツへ、二百二十年後にイギリスへ、三百五十年後にはフィラデルフィアに達するという。

一昨年、英国アップルトン研究所のキング博士が、十二世紀に極東で起きた寒波が十七世紀に西ヨーロッパに到達したという説を唱えており、今回のグレイ博士の研究はそれを裏付けることになるという。

この論文はニュー・サイエンス誌の昨年の十一月二十七日号に紹介されたものであるが、この変化が太平洋を渡り、振り出しにもどるかどうかにについては十分なデータがないと述べている。

人類最古のアーチ天井

●ギザのピラミッドで新発見

人類最古のアーチ式天井建築様式が、このほどギザのピラミッド群で最近新しく発見された。（二月八日報道）

ナーセフ・モハメッド・ハッサン・エジプト考古局ギザ地区監督官の発表によると、古王国第四王朝時代（約四千年前）のクフ王の大ピラミッドの陰にあるいちばん小さい「第三ピラミッド」ミケリヌス王の墓で発見された。

同ピラミッドは十九世紀前半の英国調査隊によってある程度研究されているが、今回あらたに調査した結果、さらに通路を入ったところに本当の玄室らしい大きな部屋に行き当たった。巨大な石をくり抜いた部屋だが特徴は天井がいくつもの岩を組み合わせ、湾曲したアーチ形になっていることだ。

いまだで発見されている玄室の天井は二枚の岩を合わせたようになっているのが多いが、上からの圧力に強いアーチ式がピラミッド内で見つかったのは初めて、同監督官は人類最古のものとしている。

トピックス

関節のようになって（偽関節）歩けない人の骨をこの方法で橋渡しをしてくつけようというわけだ。

骨のまわりに弱い電気を流すとなぜ新しい骨が成長してくるのか。分子レベルの研究はこれからである。電流の通るすじ道にそってカルシウムイオンが集まり、骨の細胞分裂を活性化させるからだともいわれている。

赤ちゃんが母親の乳ガンを発見

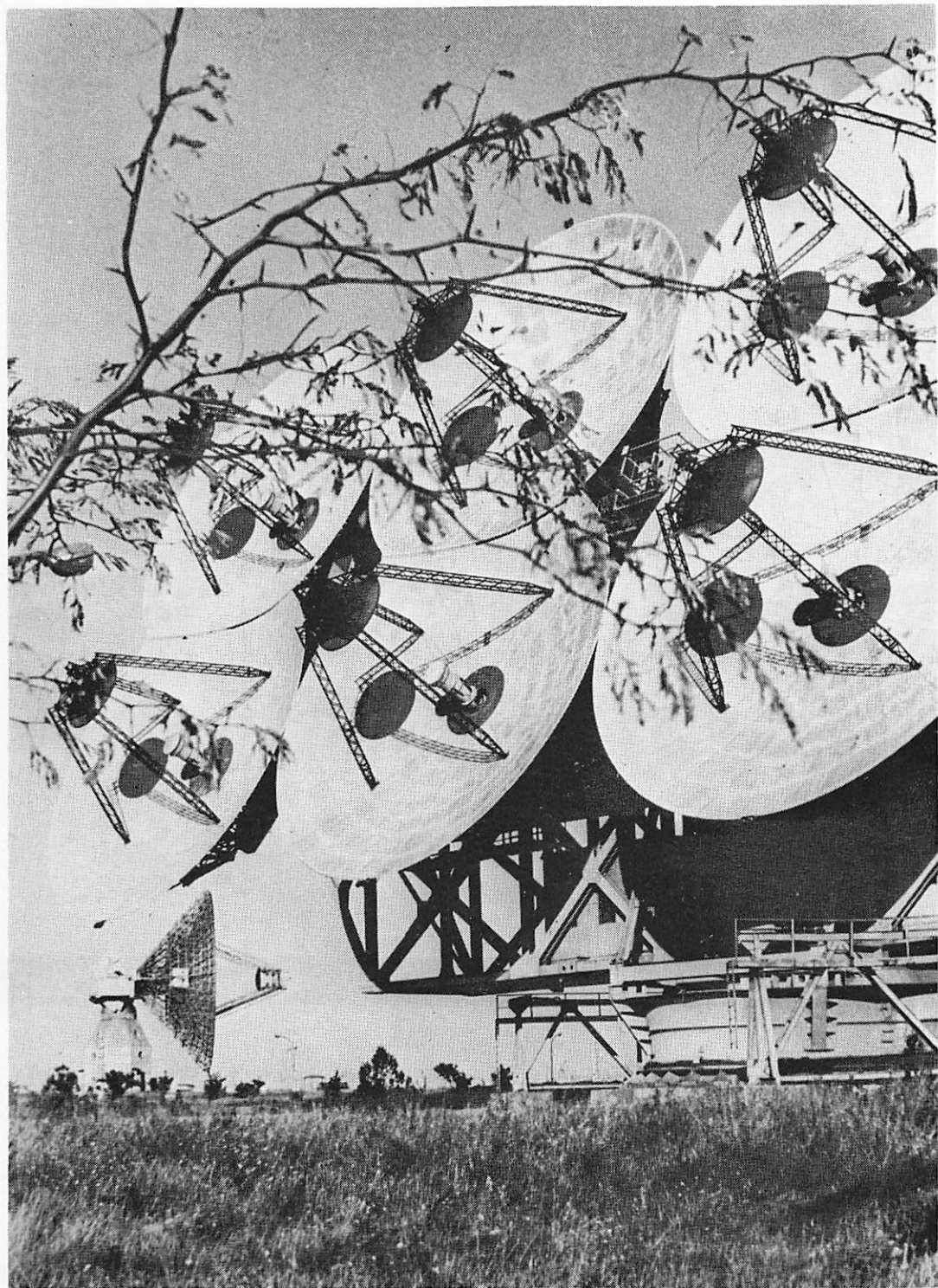
●米フィラデルフィアにあるジェファーソン医科大学のハリー・H・ゴールドスミス博士は、このほどつぎのような説を発表した（モダンメディシンの昨年十二月号に紹介）。

同博士は、母親の乳房にガンができていると、赤ちゃんがそちら側の乳房から乳を吸うのをいやがることがあるという。授乳中の乳房のかたまりに触れた場合はもちろんだが、乳児が授乳を拒否したときには、かたまりがなくても検査を受けるようにとのべた。実際にそのような母親の中から乳ガン患者5人を発見したという。

リニアモーター車、実験に成功

●日本航空と運輸省、日本鉄道技術協会は昨年十二月と今年一月に相次いで、リニアモーター車の実験に成功した。ともに常電導磁気の吸引力を活用して車体を浮かせて走行するもので、日航は一センチ浮上、時速二十キロで約二百メートル走った。また運輸省の場合は、一・五センチ浮上して時速約三十キロで走った。

日航は、五十四、五十五年頃までに成田空港



●発表されたソ連の宇宙観測連絡基地の写真

●ソ連の無人探測器「金星9号」と「金星10号」は昨年10月、金星表面に軟着陸し、史上はじめて金星表面のパノラマ写真を地球に送信したが、「金星9号」と

「金星10号」の飛行をコントロールし、パノラマ写真を受信したソ連宇宙観測連絡基地の写真がこのほど発表された。(APN=JPS)

西ドイツが人工惑星

●米ロケットで打上げ成功

西ドイツの人工惑星ヘリオス二号がケーブカナベラルから、一月十五日早朝、打上げられた。この人工惑星はこれまでのもので最も太陽に近い約四千万から一億四千万キロメートルの高度で回る軌道に乗る予定。

この日の打上げはタイタン・セントロロケットが使われたが、ヘリオス打上げにはその費用の三分の一をアメリカが負担した。

気体の水素を金属に

●日ソの研究者が実験に成功

常温で気体の水素を金属にするという実験が、このほど日本とソ連の研究グループで相次いで成功したことが発表された。

昨年十二月二十九日のモスクワ放送によると、一九六四年度ノーベル賞を受賞した物理学者アレクサンドル・プロホロフ・ソ連科学アカデミー会員は「ソ連の物理学者たちが金属水素を作ることに成功した」と発表したという。

また、川井直人大阪大学基礎工学部教授らも昨年八月、金属

水素をつくることに成功、昨年十一月発行の日本学士院紀要に発表している。

川井グループの実験では、常温で五十リットルのガス状の水素を推定百万気圧に加圧して金属水素をつくったというもの。

できた金属水素の大きさは、一辺が数ミリの八面体。ソ連の場合は直径二十ミクロンの針のような加圧装置で圧力をかけており、厚さは一ミクロン以下とみられている。

金属水素が存在することは、これまで理論的にはいわれており、木星の中心部には金属水素があつて超伝導状態になり、磁場をつくっているという説もある。したがって今回の金属水素をつくった実験成功は、その物性や溶融状態での磁気的な特性がわかることになり、天体内部の状態が地上でも再現できることから、天文学をはじめ各分野の研究者たちからの期待が大きい。

科学衛星「コルサ」失敗

●X線新星発見の期待なくす

東京大学宇宙航空研究所は二月四日午後三時、鹿児島宇宙空間観測所から第四号科学衛星・

コルサを積んだ三段式ロケット、ミュー3C型三号機を打ち上げたが、二段目の軌道が低くなりすぎたため、三段目への点火を中止、実験は失敗に終わった。

東大衛星は四十五年九月に一度失敗しただけで、四十六年二月の「たんせい」以来、五個続けて打上げに成功してきただけに成功を疑わなかった実験班に大きなショックを与えた。

今回の科学衛星・コルサを積んだミュー3C型三号機の打上げは、ここ数年新しい発見が続くX線天文学分野での観測を目指したもので、独自に開発した高感度X線検出器を積み、ブラックホールや銀河系宇宙の進化のナゾを探る一方、先進国の米、英でも未開拓の分野として残されているエネルギーの弱い超軟X線の分野では、X線新星の発見など国際的な期待を集めていた。

今後、コルサに引き続き、国際磁気圏観測計画に参加する五、六号衛星を打ち上げることにしていたが、今回の失敗で再度コルサを打ち上げるかどうか再検討を迫られそうである。

トピックス

と東京都心、羽田間などで、高架の空港連絡線として実用化する考え、運輸省は五十一年度から本設計をはじめ、五十三年度から実車テスト、五十八年度までに最高時速百五十キロで走れる近郊通勤用電車として実用化できるかメドをつける。

高齢者マラソンは身体を若返らせる

●高齢でマラソンをやる人は、そうでない人に比べて血圧が低く、脈も遅いと、東京慈恵医大内科の吉村正蔵教授らは第十回日本成人病学会で発表した。

吉村教授らの発表によると、昨年九月、山中湖畔で行われた第八回国際高齢者マラソン大会に参加した約三千人（三十〜八十歳代）について、大会前日に血圧、脈波速度、心電図などを調べ、これを同世代の日本人男子の血圧、脈波速度などの平均値と比べたところ、血圧では最高血圧（収縮期）で十低く、大動脈波速度で約十歳若いという結果が出たという。

綿からパンやマカロニをつくる

●ソ連では綿からパンやマカロニをつくる研究が行われている。（一月二十六日報道）

タス通信社によると、綿の産地のウズベク共和国で、綿の繊維や綿実油をとったカスから純度の高いたんばく質を抽出することに、モスクワの科学者たちが成功したという。

抽出たんばく質は粉末ミルク状をしており、すでにパン、マカロニ、菓子などに添加されているが、ソ連の栄養学者たちも、この成果に驚いている。

負エネルギー操作 — 本誌16号「球型コンデンサーと回転電場」への疑問 —

●島中 宏

貴誌16号に掲載された「球型コンデンサーと回転電場」に一部疑問があります。

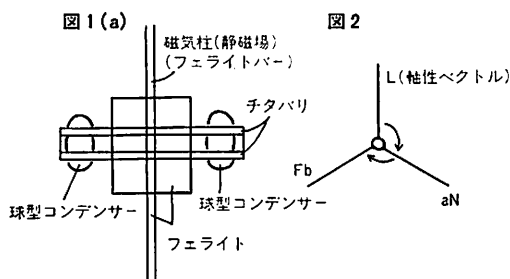
1. 磁気モーメントベクトルを回転磁場で制御したものを「核磁気共鳴」と呼称します。ところが藤井氏の論文では「回転電場」となっております。

磁気モーメントベクトルは本来「回転電場」には無関係でありまして、その本質である軸性スピンは回転磁場とそれに直交する静磁場のみ、スピンの向きが反転するのです。

その場合、 $\Omega + a H_0 = 0$ (共鳴角周数) の時のみ反転します。

スピンベクトルの反転についてですが、フェライトの磁気モーメントであるスピンベクトルは軸性スピンであり、その反転は負エネルギーとはなりません。なぜならば、コンピュータのプログラミングとは「核磁気共鳴」の応用です。

2. 負エネルギーに制御する場合は、磁性体のスピンを制御するにしても極性スピン(電場ベクトル) + 磁気ベクトル(軸性スピン) = (全極性核運動量) のスピンベクトルの上向きの状態が正な



ので下向きの反転をさせる必要があります。そのためにはチタン酸バリウムとフェライトのディスクに直交して静磁場が必要となります。

図1(a)のような構造で静磁場と回転電場によって回転磁場を作り出す。次に「核磁気共鳴」の条件を整え、軸性スピンである磁性のベクトルを反転させる。ところが、「核磁気共鳴」によってもう一つのスピン(極性スピン)の回転を導き出すことができます。極性スピンの反転によって負のエネルギー体となることはディラックによって予

言されています。

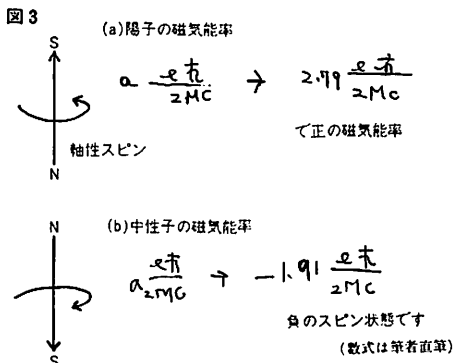
私が読んだ清家氏の「宇宙の四次元世界」他の著書によると、極性ベクトルの反転は軸性スピンベクトルと相対的な関係があるようです。彼はこのことを「核電気共鳴」と呼称しています。

ここで藤井氏が書かれました電場の回転が起こるわけで、電磁場の回転と誤解されやすいものです。清家氏はこのことを量子種子を円偏光電磁場に浸すといっています。(図2はL(軸性ベクトル)、aN(極性ベクトル)、Fb(静電力)の方向がそれぞれ3つ対称になっている右手の法則の図解)

ところで、私の持論は藤井氏と別に変わりはないわけでした。回転電場にもなって回転磁場が当然おこるでしょう。これは電磁誘導法則と呼ばれています。ただ彼は球型コンデンサーの解析のためその点の説明をはぶいたのでしょう。

ところで以上の二つから当然おこる疑問なのですが負エネルギーに落ちるのは核子のエネルギー、すなわち陽子と中性子の2つのエネルギーの両方の制御の結果なのだとすると、陽子と中性子の磁気能率は実は逆なのです。とすると陽子が負のエネルギーとなり、中性子は正のエネルギーとなるとか、その逆の反応もおきて2つの粒子は対消滅をおこす可能性があると思うのですが、その点はどうかのでしょうか。

図3からわかるように、核子が中間子を附着していない状態では磁気能率が逆なのです。(正と負の意味)しかし、この場合、エネルギーは両方も正ですが、それぞれ回転磁場をかけたときの反応は異なるものと思われま



人体極性と重力場エンジン

●唐沢宏之

中世における生命エネルギーの科学者の多くが、そしてヨガの科学が人体に極性のあることを指摘している。そしてそれが磁気性の極であると説明している。その極は頭部及び陰部に存在して、その二カ所が人体という一つの双極子体を形成しているという。この知識は現在までさまざまな形で応用されてきたらしいが一般化されてはいない。また宇宙人からも同様な指摘がなされているようだ(注1)。しかも人体の両極はスピンの極であるとのことである。スピンの極とはある一定の関係で結ばれていることが知られている現在、地球における研究の「磁気性の極」という表現も妥当であったことがわかる。スピンの極ならばそのバックグラウンドとしてエネルギー流が「回転」していなければならぬが、これも事実のようで腹部の周囲を回転しているという。

更に円盤の動力に関して宇宙人が説明した重要な内容であるところの「円盤の動力のポイントは「共振電磁場」の制御装置にある」

「共振電磁場は生命の基礎に重大な関係がある」(注2)

ニズムの磁気性に関する説明(注3)を加味すると、人体極性と円盤の構造との間に下図のような類推が成り立つことが可能だろう。

では、この「磁気的な力」と「重力(制御)」と「人体(極性)」との間にはいったいどのような関連が見い出せるだろうか。

古代文明の研究で有名なJ・チャーチワード氏と会談したインドの隠者リシーは次のように言う。

「人間はいわゆる重力を越えた振動を生み出し、その影響を無にすることができる。人間を地上に引きつけているのはこの磁気力だけなのだ。磁気力が無に帰せば、人間の身体は実体となり、実体そのものには何の重さもないから彼は自分の体を浮かび上げられ、空中を飛ぶことができる」(注4)

人体の空中浮揚の例はいくつか報告されている。

また、人体の極性はその死とともに消失するものと思われるので重力場も消失するだろう。

なぜならば、前述の文献にあるとおり「共振電磁場は生命の基礎に重大な関係がある」のであり、またダニエル・フライ氏と会談した宇宙人

の説くように

「……もしこのフィールド(電場と磁場)がお互いに共鳴したら、ベクトルフォースが生ずるだろう。……ベクトル場は重力場に似た効果を生じ、実際には同じものなんだ」(注5)という理由による。

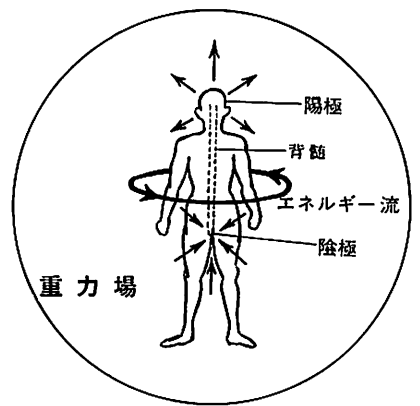
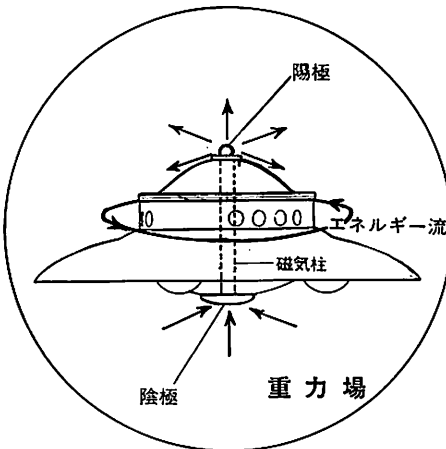
こうして死と人体重力場の消失を考えてみると、それは「死に伴う身体重量消失」という貴重な実験報告を想起させる。これは臨終の人間を精密な秤台にのせておくと、死の瞬間において、考えられるさまざまな要素を除いてもまだ余りある重量の消失が観測されたというものである。

同時にまた「死の瞬間における生命エーテルの身体からのリーク(放出)も重要な関連性があるように思われる。これは足の爪先等から炎のごときものが空中に放散してゆくという内容である。

重力場エンジンと生命工学(機械に生命性を付与することを目的とした工学)との結びつきがこのあたり

にある。

以上のことから「磁気的な極性」の存在するところには重力場が存在するであろうという推測が成り立つし、それゆえ人体極性を中心とした生命エネルギー研究の超心理エクスパートの側から重力場エンジンが提示される可能性すら考えられるのである。

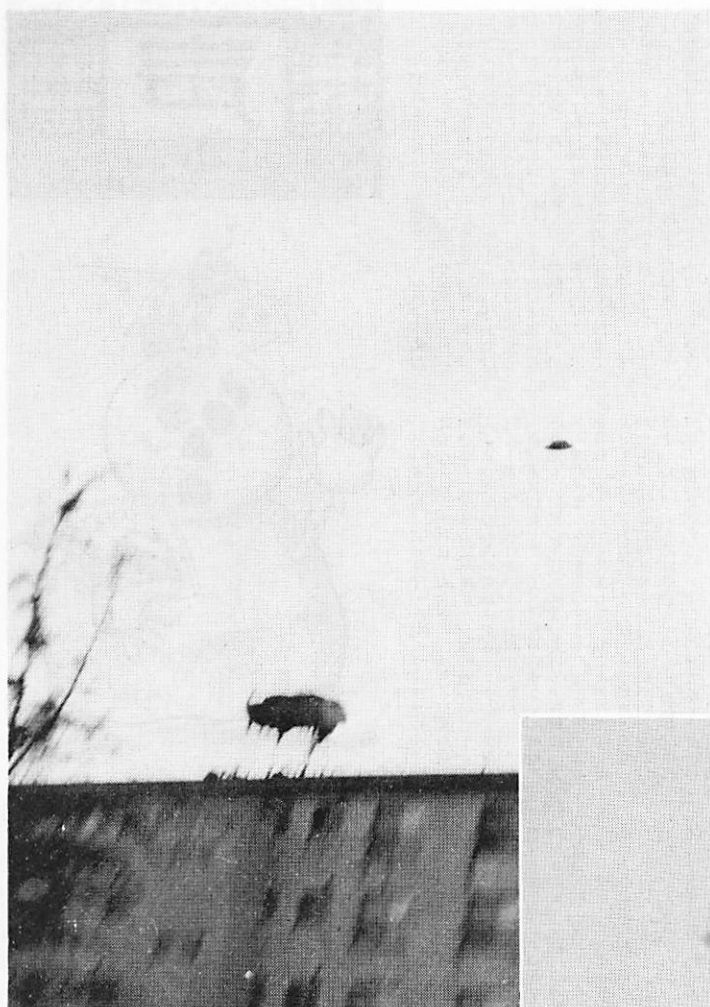


注1 清家新一「宇宙の四次元世界」大陸書房
注2 G・アダムスキー「空飛ぶ円盤同乗記」高文社
注3 D・レスリー「空飛ぶ円盤実見記」高文社
注4 ダニエル・フライ「TO MEN OF EARTH」日本GAP
注5

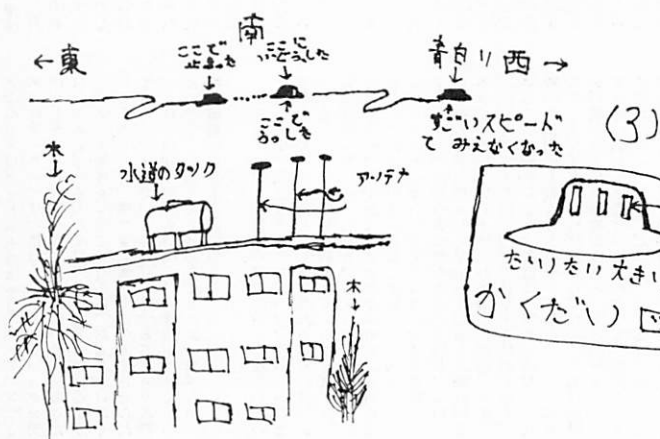
小学生がUFOキャッチ

青森

これは青森県八戸市根城の小学校五年生長根茂君が撮影したUFO写真である。長根君は一月七日の早朝、自宅近くでこの物体を発見し、愛用のカメラで急いで撮影すると同時に、物体の飛行状態などをスケッチし、本誌編集部に送ってくれた。(撮影データ・フジカコンパクト35 フジフィルム 紋りオート 距離無限大)



●物体の飛行方向にカメラをパンさせたため下の建物が流れて写っている。右の写真は物体の部分拡大したもの

●長根君が描いたUFO
の飛行コーススケッチ

OPINIONS

声

投稿歓迎！編集部「声」係宛
匿名可（但し、住所・本名明記のこと）



●版上清久（画）茨城県土浦市

小生、本誌2号よりの愛読者なり。本誌15号の「宇宙人ビビ」君に反論したく一筆啓上。

その第一は「地軸が傾く」の件についてであり、小生は「傾かない」と思う。ビビ君の申すとおり、一九九二年（恐らく五月上旬）に大地震は発生すると思われるが、地軸が傾くからではない。太陽系は全惑星が一方向に並ぶとき傾くのは地軸ではなく、地磁場の場すなわち磁極である。周知のように液体金属の内核をもつ地球は外核に第二次磁場を形成するダイナモ理論。回転する液状流体に關して、いわゆるマンデル対流説（固体物質「プレート」とマンデルとの連鎖的運動の瞬間的な位置エネルギーの放出が地震と考えられている）がある。全惑星が一方向に並ぶようになり（木星などの磁場の影響により）、地球磁場に变化が起こる。ダイナモ理論を適にすれば理解されようが、磁場の变化はマンデル対流に影響をおよぼす。その流動エネルギーの变化は磁極帯（日本付近にえいば海溝の付近）の位置エネルギーを瞬間的に放出させるように働く（地震が起る）のである。けれども地球の回転エネルギーと質量から計算すると、地軸を傾かせようとするほど大きくはない。よって地軸が傾かないのである。また、この地震現象はすでに起こっている。一九七五年来の日本付近の地震はこのためであり、一九七六年、すなわち今年ばかりと大きな地震が日本を包むと思われる。だが、この地震の連鎖現象の放出エネルギーが小さければ、一九八二年の放出エネルギーが大きくなる。惑星直列は、地震の引き金としては大さすぎる影響力をもっているからだ。ともかく宇宙人なり、予言者が「地軸が傾く」と言うのは人を見て法を説くからだと思う。

その第二は「宇宙連合」の件についてである。仮に存在するならば（存在すると思う）、銀河系の中心から3ノ4万光年離れた一本の腕の中の100ノ200光年の範囲にあるメタギャラクシーに限られると思う。それは次のような理由からだ。

銀河系は回転している。それは内側（中心付近）と外側では回転の性質が異なっている。外側はケプラー運動のような回転を示す。その速度は銀河系の総質量と大きく反比例して、およそ毎秒220キロメートルと言われている。銀河系の特徴として、同サイズ、同温度の恒星は……ある範囲で一同にかたまっている（本誌6号42ページより抜粋）、それ自体、独自に回転している。その速度はおよそ毎秒20ノ30キロメートルと言われている。そして、その半径はおよそ100ノ200光年と思われる。同じような条件から、同じような結論が導き出されるとすれば、このメタギャラクシーのメンバーの惑星には似たような知的生命体を生育しうると考えられ、我々とはほぼ変わらないエイ・マノイド・タイプと思われる。しかも同サイズ、同温度の恒星の惑星からは、その知性体の歴史もほぼ（万年単位で）同じ長さと考えられる。一つのメタギャラクシーと他のメタギャラクシーの間の交流よりも、メタギャラクシー内での交流の方が、よりスムーズに早く行える。地球上での歴史的法則が仮に適用できるとすれば、我々の太陽系を含む半径100光年程度のメタギャラクシー内での連合が、まず形成されたと推測される。そう考えると、万年単位で同じ長さの歴史をもつ我々のメタギャラクシーは、他のメタギャラクシーとの連合はいまだにないように思われる。よってメタギャラクシー内での連合にとどま

り、それ故にこそ、わが太陽系の一惑星である地球に交流を求めて飛来すると思う。地球の科学は、外部エネルギーを利用する宇宙船を建造する一歩手前まで発展していると思うし、もう一歩、進歩すれば、（他から与えられるのではなく、自らが努力して開発すべきものであると思う）、容易に太陽系外へ飛躍しうものと思う。そういう状況にあるために、興味をもつて宇宙人は飛来するのかもしれない。ともかく自らの努力なくして、発展はありえない。本誌の愛読者のような人間をコスモニア（COSMONIA）と呼ぶならば、コスモニアの危惧しているように、危機的状況にあるわが地球文明が安易に宇宙人の知恵に救いを求める考え方には、小生、多大な怒りをもちて反対したい。そういう意味においては和田真理子嬢らの「神への問い」（本誌15号掲載）にも賛同しきれないし、（この件について）である。我々は常に3次元空間に在り、他の次元が存在するとは思えない。純粋に数学的に言えば、次元が一つ加わること、その安定度は欠如してゆくのであり、仮に4次元に3次元物体を移動させるならば、その形態は失われ、二度と3次元にはもどり得ないものである。また、物理学の言うところの4次元空間は存在しない。物理学が4次元というものは、時間を3次元空間の一つの軸と考える方が、物理現象を数学的に（容易に）取り扱いやすいという理由から。それは、天文学者が月、豊かな海、静かな海」と呼ぶのに似ている。学者がそう呼ぶからといって、「月には満々と水をたたえた海が表面に実在する」と主張するのはナンセンスなように、物理学者が4次元と言っているから、「4次元空間がある」と主張するのは同じように誤りなのだ。

最後に、宇宙人ビビ君の反論が本誌に載ることを期待して小生、筆を置きたい。

匿名希望（23）（北海道札幌市）

皆さん聞いてください。僕はついにUFOを見たのです（以前にも、うろ覚えに見たような気がしますが、今度のUFOはバリエーション。本誌ならば「このUFO」が「UFO」のバリエーション。に出すんですが、UFOを見た以上にお話ししたいことがあるんです。昨年の九月七日に僕は高校の近くを歩いていると、（午後6時半頃）フツと上を見たら、何んこと座のベガより明るい光点が南から北へフラフラと飛んでいるではありませんか。「UFOだ」と僕が狂人のように騒いでいると、隣のおじさんが仕事から帰りで近づいてきました。僕はこの人にも見てもらおうと指差しました（わかり易く）。しかし、その人がどう言ったかと思いませんか？ かくも完全にUFOだとわかる物体を見て、「フッ」とあき笑ったのです。僕はすごいショックを受けました。その物体を見て驚かないの。ありえないと考えているのを見て、鼻で笑っているようなズブズブと神経をもっているから、みんなからおそれました。僕は家に帰ってから考えさせられました。そして、それがUFOであるという証拠はそれから10分間くらい僕のけい光燈がつかなくなった。頭にくるじやありませんか。皆さん。松田博樹（岩手県盛岡市）

初めまして、この雑誌の読者は中・高校生が多いと思います。私はその人たちに一言、言いたいことがあるので、ペンを取りました。それといのは、いつもの「声」の欄に投稿されていることはどれも似たり寄ったりで、しばしばか、あやふやな（筋道の通らない）知識を振りかざして如何にも「知っているんだ」と言わねばなりません。本誌に対する賞賛のこと、また、社会の裏に潜む恐ろしい陰謀、策略のことは考えずに軽々しく宇宙人、宇宙人と触れ合っていることは確かです。最近では「空飛ぶ円盤」と比較的に新聞にも載るようになりました。しかし日本ではまだ「空飛ぶ円盤」に理解されてなく、世論は「空飛ぶ円盤」などという夢物語は何ら、受けつこうとしません。試しにあなたが街頭に立って、街行く人々に円盤について聞いてごらん。すると、あなたは期待に反して今までの「自信」をすっかり失うでしょう。仮にあなたが国内外の円盤写真やその目撃例をあけて説明しても、全く無駄に終わることでしょう。なぜなら、今の世の中はお人よしを除いて、自分と他者との間に限り、だれも信用しないからなのです。いくら「アダムスキー」という人がどうのこうのと云々云々、あなたが一般人に対して納得できるように完全に証明。そういうことが真実であるかどうかは知らないが、でもしない限り、円盤の話は受けつけないのです。第一、その話にまつて完全には筋道が行くように説明できるかどうか怪しいのはあきらかに事実です。もししかして見られるかも知れませんが、今、あなたたちは、「座落した円盤から出てきた宇宙人と会話は、きつと乗せてもらえぬが円盤で火星へでも何処でも連れていってくれるのだ」と、夢想しているんじゃないですか？

殆どの人たちはこの大きな誤りに気づいていないようにうすね。アダムスキーは駆け出しの自称「空飛ぶ円盤研究家」ではありません。彼は「選ばれた人」であるというご存知だと思います。彼が好奇心だけで招待されたのだと思いますか？ 自分の名声で証明してやるなどという大義名分であつた達の心の中はいっぱいなんです。アダムスキーの著書をよく読んでみる人は、彼のいうブラザーズという人々はくだらぬ好奇心や自称「空飛ぶ円盤研究家」を満足させるために来ているのではない、はつきり言っていることを知っていると思います。一体、円盤が何のために来ているのか、心あたりのある人はいませんか。宇宙人に会えたらとか、円盤に乗せてもらえたらとか思ふことを考えないで、自分の足元をよく見つけたらどうですか。いざとなったら円盤が大挙出現して地球を救ってくれるさ、などと安易に考えるのは非常に危険です。私の知る限りでは、そんなことは聞いたこともありません、そのようなことが書かれた書物も見つかりません。むしろ地球人のことは地球人自らすることだと聞いております。今の私たちが危機にひんしたら、宇宙人が救ってくれてくれるのも思っているのでしょうか。「アダムスキー、アダムスキー」と言っておいて、肝心のことは何もわかっていないではありませんか。私たちの地球の指導者が公式に援助を求めない限り、何もしないし、また何もできないとはつきり言っていることを覚えていないのですか。横道へそれて申し訳ありませんが、先日或る映画を観てアダムスキーのことを思い出しました。その映画はアメリカ映画ですが、現代アメリカにおいて現体制維持を妨害するものは秘密裡に暗殺してしまおうというもので、目撃者もまた何者かによって事故死させられてしまふ何もかも闇に葬り去り、自分たちの都合のよい世界を作り上げるというものです。勿論その自分たちとは政治、経済のあらゆる分野で実権を握っている陰の存在者たちのごとくです。これはそのまま空飛ぶ円盤の目撃者とか宇宙人を撮影したとかいう証拠を握った人があらゆる妨害を受けたり、殺されそうになったり、私たち日本人が想像を越えたり、あるというところと一致します。結局、如何なる証拠があろうとも現体制を維持しようとする陰の存在によりことごとく現体制がぶさされてしまうのでしう。複雑な利害関係から最高の科学者が真実を知っていたにしても、そこから金を受け取っている以上は言いたくも言えないのです。真実を言えれば、この世界から抹殺されるからです。この私たちの世界の指導者（特にアメリカ）は真実を発表したりすれば、現体制が崩壊することによって打撃を受けることを知っているからなのです。仮に今、燃料のいら

ない自動車が發明されたとしても実用にはならないでしょう。なぜなら燃料会社は圧力をかけて絶対に普及させないように押さえることは火を見るよりも明らかだからです。これと同じくです。石油で莫大な富を築き、政治、経済を自由にあやつり現体制を維持する上に置いて邪魔する者を消して（秘密裡に）しまふことはとても簡単なことでしょう。現在の世界からすべての諸悪の根源である貨幣制度というものが、必要なくなるまで真実といふのは黒い厚いベールで覆われていることでしょう。しかもその厚いベールをがすことが早めるのは私たちの今の世の中のことです。よくおわかりかと思いますが、今の世の中の体制をより良い方へ、そうさせるのは私たち個人々々の責任なのです。現体制の大改革はそう性急にできるものではないでしょうから、それに少し遅くても行かなくてはならぬでしょう。それにはあと何十年、いや何百年ひょっとしたらあと数千年間は進歩がないかも知れない。仮にそうだとすると「宇宙の隣人」は何もできないのです。ただ戦争を起こすような口火がある程度なくすとか、ほんのわずかなことしかできないはずで（たとえば、したくても前記のような理由でできないからだ）。アダムスキーのいうブラザーズは私たち地球人に対して面と向かって指導することはできないし（自分のことと自分で実行しなければ、得したことになるなんて聞いていて、地球人が目覚めたのを見る程度早めるような動機を作るだけだ、）と聞いています。先ほど、その裏に潜む恐るべき陰謀、策略のことを考えずに言ったのはこのことなのです。この点、アダムスキーという人物は如何に圧力に屈しない不屈の精神を持った偉大な人であるかがわかります。日本の政府は、まだ何も知っていないようですが、いづれ時期がくれば認めるときがあるでしょう。そのときまで私たちは円盤に乗せてもらえたらなどと思ふことを考えたりしないで、私たちの今の社会の向上のために努力すべきではないでしょうか。なお、お苦しいところがありましたら許してください。

追伸、あなたたちが期待するほど宇宙人は単純ではないと思いますよ。

高橋賢樹（北海道札幌市）

●黒田豊年（画） 三重県三重郡



うに非常に残念に思います。だけれど、歴史を振り返って新しい科学を切り開いていった人の中には気違いだと言われている人がたくさんいます。そして何年かたつうちにしだいに認められるようになりまふ。中間俊成氏が言っているように、裁判にかけられても「それでも地球は動いている」と言ったガリレオの勇気を忘れてはならないと思います。科学で解決できないものを恐れて頭から否定するようでは、いつになっても受け入れられようと思いません。そのために私たちは、いつか必ず認められることを信じて努力すべきだと思います。この「UFOと宇宙」も大いに役に立っていると思います。さて、よく本誌に学校にUFOを研究する会があるなどというものが載っていますが、それを読むたびにとてもうらやましく思います。さき言ったように、私のまわりには興味をもっている人がいないので、運動を起しても作れそうにありません。でも自分なりにいろいろの本を読んで研究しています。それに、みんなから何といわれようと信じていることは曲げないつもりです。そして今や、UFOや宇宙人、ESPなど、数々の問題はSF小説の領域だけでなく現実で起こっているし、現実として見つけなければならないようになってきているように思っています。意見のある方、そしてUFOまたはESPに興味のある人の手紙をお待ちしています。三沢秀美

（本誌）埼玉県熊谷市肥塚一四四一三

編集部の皆さん、それに本誌ファンの皆さん！ このたび僕たちはUFO研究部を作りましたが、会員は何と12人しかいません。会員を募集しています。が、「なんだ、UFOだ、円盤だ、そんなものがあるわけじゃないか」とか「夢があるねえ」とか「気がふれてんじゃないか（ヘーッ、かける）」とか「非難の嵐ばかりで、だれも会員になつてくれない。イヤ、ばかり言われている僕たちですが、研究してもUFO研究部をやめる気にはありません。研究といっても本をあさる程度ですが、それで研究には問題ないでしょう。毎週日曜日は、みんなで集まり研究をしています。時にはテレビでUFOを呼んでみたことでもあります。一度も成功したことがありません。やっぱり僕たちでは無理なのでは。それにめげずはりきっている僕たちです。いつだったか、友だちの会員から電話がかかってきたんです。そして「UFOだ、UFOが飛んでいくから早く来い」と言うのです。僕は夢中で会員の家に駆けつけました。双眼鏡で見ると、なるほど未確認飛行物体でした。僕たちは自転車にまたがり、スーパーマンの黒くけた色に見えました。友達か双眼鏡で見えました。すると会員がボヤイタのです。「アッ、文字が見える。文字が見える」と言うのです。「おい、何と書いてある？」「うん、G、B、Iと書いてある」と言いました。「おい、はつきりしろい、ちゃんと見てみ」と言うので、「アッ、わかったB I Gと書いてある」と言うのです。僕たちも見ました。「うわ、すごい、すごい目撃者したぞ。円盤だ！ UFOだ！」みんなでもうこんなで、ゾーッと目を離さずにUFOを見ていた。すると会員の一人が「ア、あれ、もしかしたらタコじゃないか」と言いました。どれどれと思ひ少しづつ近づいてみると、何とタコなのです。みんなガッカリ、でもしかたがありません。連が驚かしたと思てあきらめました。それでも僕たちは、いつも注意しながら空を見えています。

このあいだ、あるテレビ番組で、テレビ番組によってUFOを呼び寄せるのを見ました。見事にUFOは飛んでしまいましたが、あれが飛行機だと言う人がいました。どうしてあれが飛行機なのですか？ 男の人が「もっと強く光を出してください」とメッセージを送ったので、そのメッセージに答えてUFOの光が強くなった。あれは絶対にUFOだと思

ます。だって未確認飛行物体だもの。

本誌12号に宇宙人に肩をたかれた少年の事件が載っていましたが、テレビでもそれを見ました。あれは僕も驚きました。少年はとてよく、そのことを記憶していましたから、とても良くてそのようすがわかりました。

終わりに僕たちのUFO研究部のために力をかしてくださいます。皆さんのUFO目撃レポートや写真などを送ってください。ネガは責任をもってお返し致します。内容によってはそれそれというの、できるかぎりのお礼をしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

堀見武司 (UFO研究部代表)

(千羽) 02 埼玉県大里郡妻沼町西野三二〇 電 0485-88-1340

京都の冬の夜を遠い宇宙に思いをはせながら過している「UFOと宇宙」のファンの人です。UFOを自分なりに研究し始めてやと一年が過ぎようとしており、これを機会にこのコーナーへ投稿してみました。

今、改めてアダムスキーの著書を読みなおしてみると、真実の叫びが波となって自分に押し寄せてくるようで、まるでアダムスキーならぬ宇宙人そのものさやきやきと聞いているような錯覚におちいり静かな興奮につつまれています。彼は本当に自分の感情を平穏で高サイクルの理念にコントロールできる人だったのでしよう。もし、あのコンタクトがそのような訓練のできていない人によって行なわれたのなら、とてもあんなにすばらしい成果をあげられなかったものと思われまます。幸運にもUFOに非常な興味と興奮を感じる我々はそうでない人々より、宇宙の英知と真理を体得するための大変有利な条件を持つていことになると思います。アダムスキーの「強い信念と忍耐」を持って我々も偉大な宇宙人によって計画せられたスペース・プログラムの一遂行員にならなければなりません。そのためにエゴを抑制することが急務であることは、我々の知るところです。

しかし、私が特に強調したいことは「自分はすでに完全である」という自覚を持つていこととです。言い換えれば、人間がどれだけ進化したかというところは、新たに何を付け加えたかによって決めるのではなく、すでに与えられ完成されているもの(「真理」)をどれだけ鮮明に理解できたかによって決まるところに、なににあんな方は目をこらしてしまっているかと教えています。創造主は人間を自分の姿に似せて完成に造られた。だから我々の努力は現在の不完全な自分を完全に近づけるために払われるのでは



●萩原恵子(画) 静岡島田市

が、関東地震69年周忌祝賀及び関東地方周辺には近頃、海、空で異常な自然現象が連続、起つています。私は、はつきりしたことはわかりませんが、気象庁、環境庁には関東地方の地震に関しての多くのデータがあるのではないかと推測いたしますが(大衆には何も知らされていませんが)。ユニバース出版の方々、くれぐれも地震に注意してください。

宇宙人たちは地球人に伝言したいことがあるのではないかと、私は思っています。たとえば、甲府市の少年たちの接触事件、愛媛県で宇宙人の写真が写された事件、豊田市上空のUFOの写真が近所で鮮明に写されています。日本でも、もう手の届くところまで宇宙人たちはやって来ています。

私は、UFOを初めて昨年11月7日(午後7時30分)名古屋(熱田区)上空で見ました。その後11月11日にUFOの記事が中日新聞に載せられていました。まったく私の見たUFOと同じでした。11月18日の中部読売新聞に、トヨタ自社工員・杉浦二郎氏が撮影した豊田市上空ジョージ・アダムスキー型UFOの写真が載せられていました。新聞各社ともUFOの記事が多くなってきたように思っています。それだけUFOの存在を認め出してきたということですね。日本国民のすべての人々が、星空を見上げる日はもうすぐでしょう。

宇宙人による地球人救済計画が行なわれたら金星へ行きたいと思ひます。私の聞いている宇宙人の仲間では、特に金星に美女が多いそうなんです(念のため)……。

メデイカル・エレクトロニクス専攻の私(宇宙人)です。心の美しいUFOの好きな方(女性)、文通いたしません。全国の方々お手紙ください。植村治彦(21 学生)

「UFOと宇宙」15号を拝見いたしました。「声」の欄に私の(宇宙人ビビ)文章が載せられておりました。ユニバース出版社の方々、大変ありがとうございました。あの文章を筆述するにあたって数多くのUFO関係の文献に目を通しました。そして、これからやって来るだろうと予測される結果に焦点を置きまわす。

地球人類にこれくらいのことではありませんが、近い将来ユリ・ゲラーが言うようにUFOの大計画(地球人救済計画)が行なわれるのではないかと、私は思っています。その日は近いということですね。もし惑星直列が現実となれば、一九七九―一九八二年頃にも地球人救済計画があるかも知れません。エドガー・ケーシー及びノストラダムスの予言などを参考にすると、その頃だということも考えられます。また、北海道北見市の青年に「君には、これから起こる異変を早く知らせる」という宇宙人による伝令は現実になりつつあると思ひます。

最近、関東地方の地震が話題になってきています

先日、「私は田舎に帰った」(ユニバース出版社)を買って早速拝読してみました。とてもよい内容だと思ひます。特に「理解」という言葉、私自身

忘れていたような気がしました。「UFOと宇宙」で連載された「原子・銀河系・理解」の中の「理解」という言葉がなぜ使ったのかわからなかったのですが、今やと理解できたような気がしています。これは「空飛ぶ田舎同乗記」などに劣らない名著だと思ひます。

昨年12月21日(日)にテレビでハイネック博士と博士の創立した研究機関のことが放送されました。これまたのUFO番組と違い興味本位ではなく、博士たちの活動員会やUFOと間違いない火球のことが内容でした。他のマスコミもあんなようにUFOを取り上げてもいいものではないでしょうか。

ところで、「声」の欄にジョージ・アダムスキーの研究は多くのユフォロジストの間でタブーとなつていまして、言っておられる方がいますが、なぜでしょうか。日本でのUFO研究の口火を切ったのは久保田八郎氏です。多くのコンタクト・ケースを世界の人々が発表するようになったのもアダムスキー氏がきっかけです。入門的なUFO関係の書物にもよくアダムスキー氏の体験が紹介してあります。私の持っている本の中にも彼の体験が例に出されていくのが多くあります。彼の言ったことがありまうに突飛的だからと研究を避けるのではなく、一種の超常現象であるUFOを研究するに値しないのでは……?

彼の体験は普通の人には信じ難いことだし、私も最初あの話を聞いたときには、彼は夢で見たのではないかと疑ったくらいです。彼は世間の人々の懐疑、嘲笑にもめげず活動して、少なくも本誌の愛読者の皆さんと日本GAPの皆さんなど、彼の理解者が増えてきているのは事実です。彼が多くの人に疑われているにしろ、彼が言っていることは信じてべきことだし、イエス・キリスト(私は彼が宇宙人の使者であると思ひています)が言ったことと本質的に違っていないし、彼の話を聞いてたたく人々や感銘を受けています。彼の著書は20年余りも世界中で読まれ続けています。特に私たちに与えてはばいけません。そのものだと思ひます。

彼と会見した宇宙人は太陽系の惑星に住み、また太陽系には12個の惑星があると言ひました。近く火星にバイキング惑星船が着陸しますが、着陸機のカメラの前に火星人が現われてくれればいいのに……と思ひていのですが、もしそうならば地球人たちはどんなに騒ぐでしょう。恐らくパニックにもなりかねません。もしかすると水爆ミサイルを火星に打ち込むかも知れません。そうならないために、宇宙人たちは地球人の前に大々的に現われるのをひかえているのではないのでしょうか。今どきの地球人はちょっとやそっとのことでは驚かなくなりました。驚く前に疑うことをします。そして、自分の

考えが崩れると人間性を失い、それこそパンクに陥ってしまう最終的には一体どうなるのでしょうか。そんな不安のために、私たちのUFOの研究と世間の人々への呼びかけが大切なのではないのでしょうか。それはいろいろな多難と迫るはずで、す。しかし、これえなければならぬのです。アダムスキーを初めとするコンタクトの経験者とUFO研究家の人々はこれえなからこそ偉大なのではないのでしょうか。宇宙の友も、そういう人を望んでいますし、また捜しているはずで。しかし耐えなくてよい日が一日も早く来ることを望んでいるのは宇宙の友も私たちと同じなのではないでしょうか。宇宙人がいくつ自然の法則を理解しているのかわかりませんが、それによって人の心をコントロールするようにはなっています。つまり地球の運命は地球人自身が握っています。宇宙人は地球人をよい方向に導こうとしているだけです。そして、地球に宇宙の港が開かれた瞬間から新しい歴史が始まります。一瞬も早く港を開くために私たちも世間に呼びかけていかなければなりません。

私が思うに今こそUFOの問題が最も大切なときに近づいているのではないのでしょうか。人類は核エネルギーの危険な取得法を見出し、まさに無類御に爆発させるための装置とそれを一キロメートル以上離れたところへ、一度に十数発も異なる目標に運ぶための機械を作り出して、何百となくの目標に達しています。そして今、緊張状態の続く韓国が自国開発しようとして、イスラエルが十数発かそれ以上を所望し、またミサイルを買おうとしています。また二大國では新兵器の開発が断えず続いています。現在の地球はかつての地球と同じ歴史を繰り返そうとしています。そうならないために、またそのようなことが頻る必要があると思います。宇宙の友も宇宙の彼方で、いやすぐ近くで見守ってくれているのですから。

大垣豊治

(千葉) 01 広島県呉市広町塩焼四七班)

「ユニバースUFOシリーズ第一弾」が出て感激！これぞ第二弾が出て買って直したときには本誌13号を初めて買って直したときには事すでに遅し。バックナンバーの残りは数少なく

っていた。しかし、手に入らないバックナンバーに載っている記事を一冊の本にして出してくれる。こんな感激なことがありましようか。

小学校の頃、朝、学校に行く途中、上級生が騒ぐので、ふっと空をあぐと、何と橙色に光る物体が三角や丸に変形しながら西の方へ飛んでいくのを見て、それ以来UFOに凝って今でも生活してききましたが、こんな感激初めて、UFOに対する心が膨らんだようです。

地球という惑星は今や全体のピンチ。ノストラダムスの大予言や一九八二年の惑星直列など、今こそ宇宙とのつながりをもたなければならぬ。UFO！それはまさしく宇宙からの救いの主と信じます。ですから、今後のUFO資料として「UFOシリーズ」「UFO写真集」「UFOと宇宙」の多数の出版を心から願っています。

最後に宇宙人の皆さん。地球は病んでいます。きっと地球人はあなたの方の手を借りなければならぬときがやってくる。

中川康之(15)

(千葉) 22 奈良県宇陀郡)

貴誌の「声」の欄を拝見して、地球の終末には、UFOが出現して我々地球人を救済してくれると信じている者が多数見受けられます。

しかし私は反対です。現在の地球はたしかに公害、不況、戦争などの問題をかかえており、その状況は悪化してゆくのみであり、それらの問題は私は地球人自身で解決する問題であり、宇宙人から救ってもらふべきではありません。他方本願では私たち地球人の発展はないでしよう。また宇宙人の地球救済計画は、地球に於いては不当に介入するものである。彼ら宇宙人は地球に於いて不当に介入し誕生したばかりの同種人類にすぎません。その彼らが地球に対して、彼らの言う地球救済計画は、私たち地球人の主権を不当に踏みしめるものでしかありません。ちょうどベトナムに介入した米帝国主義となら変わらぬ。たしかに彼ら古い人類は科学、思想などすべてで面で地球のそれとは比べものにならないほど高度に発達しているとは比べものだからといって私たち新しい人類に不当に介入して良いというものでありませぬ。私たちは地球人としての自覚をもち、目のまえにある難問を解決して行くという姿勢が大切ではないでしようか。彼らの言動はあくまで意見として参考にするべきで、うのみにしてはいけません。地球の終末になったらUFOが助けに来てくれるなどという愚かな考えは捨て、地球上の問題は私たちで解決しなければならぬというバイタリティーをもってもらいたいものです。UFOが地球の終末に助けに来るとい

●徳田亮太郎(画) 東京都府中市



考えはUFOを宗教化させ、真剣に研究する者の目を曇らせるものです。そして、それは絶対者(神)が我々を造ったという観念論的な考えにつながって行くと思います。UFOの研究は地球人としての自覚をもつて臨んでももらいたいと思いますし、そのことは将来、彼らと友好関係を結ぶとき、本當の友人としての関係が結べるのではないでしようか。宇宙人の言動をそのまま信じ、実行するような教条主義的な考え方は将来、我々地球人が彼らの植民地と化してしまう危険があります。地球人としての自覚、これを大切にしましょう。

最後に、この欄へ投稿する方の中に時々、ふざけ調子の文章の方が見られますが、この時を高度なUFO研究家の交換機とするためには、なるべくふざけた調子は避けてもらいたいと思います。貴誌「UFOと宇宙」の発展、同志の方々の研究の発展を望みます。

小林中人 (新潟県新津市)

今回、初めて投稿させていただく12歳の女子です。私たちのクラスの2分の1以上はUFOを信じています。信じていないのは一部のクラスメイトとマイ・ティチャー、まじっちゃん。でもクラスメイトからバカにされている人より幸福かしら。一昨年の十一月、私たちは図工室のそうじの途中に、UFOを目撃したんです。私たちはうちょうでんで、さっさとそうじをすませて教室にかえっ

たのです。そして先生に「先生、円盤だヨ！ 円盤見たんだけど、先生！」と息をハアハアさせてもらえただけ話したんです。でも先生はテストの採点をしながら「あるわけないだろう。飛行機かなんかに決まっている。」とそう言ったのです。私たちは先生の顔をみながらジロツとらみつけたのです。家に帰ってから私たちがいろいろなところへ問ひ合わせました。まず、航空自衛隊つぎに羽田。航空自衛隊では「子供の言うことだから」という声がかえって、いやな感じでした。羽田ではちゃんと調べてくれて、「その場所は航空路になっていません。その場所なら横田基地で飛ぶことがありますが、多少その時間は飛んでいなければならず」という回答でした。それで、私たちは朝日新聞社に電話したのです。けっこう親切に聞いてくれたんですけど、新聞にのせられませんでした。よく日、私たちは先生に羽田の人が言ったとおりであることを、そのまま伝えました。すると先生は少しあわてて「羽田のコントロールタワーはボロイ」とか「鳥かも知れない」とかいわけしていました(ヤーね)。

私はこれからもガンバルのです。皆さんもガンバってくださいな。それからお手紙、TEL待ってます。さようなら。

宮子あずさ(12)
(千葉) 東京都杉並区下高井戸四一三二一三六 電03-3302-8405
はじめまして、私は横浜市に住んでいるUFOファンの女の子です。今までUFOに関する非常に興味深い本があるとは、本誌14号を書店で見つけたので知りませんでした。大変役に立つ本だと思っています。
UFOに関して書かれた本をいろいろ読んできて思いますが、UFOは天啓のものだとか死後の世界から円盤を飛ばしているとか聞いた星があるのです。私は、この宇宙には何千何億という星があるのですから、地球以外の星からのものと信じています。その地球以外の星に人間と同じ、または生物が存在するということに対して、ある宗教(キリスト教)を信仰している人が「この地球以外の星に人類は存在しない。神はこの地球にだけ人間を造り住まわせた」と言うのです。私はそのことがどうも納得がいけないのです。「黒板講座」でも聞かずに「さっさい」とその人はいっしょけんめい言っていたけど、私は興味がありませんから結構ですと言っている人から聞いて……どうして教えなかったのかって。私はそんなことで左右されたいとは思いませんけれど、なかなか現われてくれないのです。円盤さん、どうしてでしょう。PSI, ESP 入門とかい

表紙写真説明

月へ人間を送りこむという壮大な計画「ジ・アポロ・プログラム」は一九七二年十二月のアポロ17号をもって終了した。当初の計画では20号まで打ち上げられるはずであったから、正確に

ろいろな本を読んでテレビの練習をしたり精神集中をしたり、自分ではいっしょけんめい努力しているつもりなのですが、皆さんも涙ぐましい努力をしていることと思います。ユリ・ゲラーも言っていますが「信ずる」ということが一番大切だと思います（気長に待ちましょう気長に）。

ところで、TVなど、この頃UFOの特集をやりますね。わりと見せ物、興味本位のものは少なくないと思います（少ないも多いもUFOのTV番組は一月に一度あるかないかの割合だけれど）。とてもよいことだと思っています。それで少しもUFOに正しい見方で関心をよせる人がふえれば大変喜ばしいことだと思っています。

すが、そういう恐ろしい事がありうるんだと知らなから私のUFOに対する情熱は消えはしないのです。私は皆さんと同じように、心から他の星の人々との友好を望んでいます。どこかにきつと私と同じように友好を求めて地球に円盤を飛ばし会いに来てくれると信じ、まちがって殺されても私はいいと思っています（異常でしょうか。自分でもわからない）。キチガイ扱いにされている人、少なからぬうですが、あなたただけではありませんから安心（？）して下さい。

UFOを愛していらっしゃる皆さん。一日も早くUFOがあなたのごころへ友好を求めてやって来るのを心から祈っています。ではさようなら。水政都子（16）（神奈川県横浜市）

近畿地方の母家庭で中学生でアルバイトに簡単な観測を手伝って下さる方はいませんか。春、夏の休みや連休のときに二泊三日の定点観測や他の地方の円盤情報の収集などです。定点観測の場合は旅費は当方で負担致します。また情報収集の場合、郵送料は当方の負担です。応募される方は「家庭の状況、生年月日、氏名を記入した手紙」（封書で願います）を左記に送って下さい。メ切りは当「UFOと宇宙」誌発売日より20日間です。渡辺 一（ZAMの会、代表）（千歳 大阪府大東市深野郵便局止め）

コンニチハ！ 地球の諸君。私は金星からのインベーターだ。なんか言ってる。ホントはタダのコズモファン、あついでね、また言っちゃった。つい「UFOと宇宙」とは呼びにくくて。もう少し短かけばいいんだね。ではボクちゃん考えた、またの名を「ユーウ」。考えたってほどじゃないけど。ただUと字ついている字をカタカナにしてつづつただけ、真中に棒を入れた。なんとくらんことを言ったんだ。では真面目な話にもどして。ボクちゃんも円盤見たこと何回もあるよ。故にすると、約5回だ。一番最初に見たのは絶対円盤だ。断言できる。後の飛行機カモと思えるものもあつたけど、とにかくビクビクした。急に現れるんだもん。まあ、普通円盤ちゃんも急に現れるモンだけど、身がちぢみ思ひだした。あとでアローンかけたりってね。私が手紙書くときすぐまんないになつてね。ね。が多すぎます。注！ボクちゃんと言っているが、女の子ちゃんデス。では……。匿名希望（神奈川県ボクちゃんより）

僕は自称超常現象研究家です。研究会も作りまして研究会員を募集しています。入会金、会費などは今のところありません。会費はUFOだけでなく心霊ESPなども取り上げています。まだ活発な活動はしていませんが、UFOの発見には何度か成功しています。僕たちの研究会に入りないう方、お便り下さい。待ってます。では、さようなら。（千歳 埼玉県川口市芝一四三二）



●清野憲男（画） 山形県山形市

渡辺 章
（千歳 静岡県静岡市富士見台二丁目三十三四十五
電0542-8114027）

「UFOと宇宙」の愛読者の皆さん。SPACE UFO CLUBを作りました。地方の方（千葉県内の方）も良い、わがクラブに入りませんか。UFOだけでなく超自然現象についてもいろいろ研究しています。円盤の写真を送っている方見たい方、ぜひぜひ入って下さい。本当に興味がある方バガキで連絡して下さい。まっています。岸本久行
（千歳 千葉県君津市下和田三八三）

体験記、言いたい放題、詩、伝言板、語る、求む、交通、交際、その他なんでもお載せします。毎月二新聞を発行しています。あなたも参加してみませんか。詳しいことは20円切手10枚送ってね。関根恵美子
（千歳 東京都北区神谷二一九一 鈴木アパー

特殊現象研究会を作りたいと思っています。場所は大阪市内にします。興味のある方、参加ください。連絡ください。連絡のとき、接近方法を書いてください。（研究対象）（接近方法）

(1) 社会科学現象 理学・社会科学・工学
(2) 超自然現象 理学・工学・医学・文学
(3) UFO現象 理学・工学・文学
大田昭夫
（千歳 大阪府泉佐野市佐野台二〇一一）

私は本誌13号「讀んで下さい」に載せていたたいです。その後、G・アダムスキー著「テレビ」を無料でプレゼントしていただきました。私は大変にうれしく思っております。ただ残念なのは名古屋の女の子というだけで名前を語って名前がたつたことです。私がお礼を言いたい。どうか名前だけでも……。小林義義
（千歳 16 福島県伊達郡桑折町大字南半田字田町五〇）

「本誌創刊号」を送って下さった方、本誌にてお礼を申し上げます。ぜひ住所とお名前をお知らせ下さい。永島泰瑞美
（千歳 埼玉県川口市芝一四三二）

★譲ります

●本誌創刊号/No.4までを7000円で売ります。切り抜きなどはありません。まずはハガキで。

小倉正明(千羽) 神奈川県横浜須賀町二二〇一八(一〇八)

●次のものを譲ります。本誌創刊号より(必要な号の番号を連絡、送料のみ。U.F.O関係資料など、送料のみ。U.F.Oおよび宇宙関係単行本(必要な本の題名を連絡)です。すべて美本ばかりです。できればまとめて多く買ってください。

「オカルト大子言」「U.F.O入門」「日本のU.F.O」「キリスト宇宙人説」「反物質の世界」「仮説宇宙文明」

「宇宙の謎」各3000円。「世界古代文明の謎」「宇宙の使者」各2000円。「古代の遺蹟」「宇宙人の痕跡」未知なる惑星「先史の宇宙船」各3000円(以上大陸書房)。「世界のミステリー」「私は宇宙人を見た」(潮文社)「人間滅亡の記録」(KKベストセラーズ社)「テレビシ」(文久書林)「各無料」「四次元図鑑」(池田書店)1000円。四次元世界の神秘「池田書店」無料。「おもしろいSF天文学」時事通信社「新しい宇宙の構造」(講談社)各3000円。以上のものです。

ご入り用の方はハガキまたはTELで連絡してください。TELの場合は夜のみ。なお希望者多数の場合は当方で選択いたします。

日永守(千羽)15 滋賀県蒲生郡蒲生町平林三二六 電0748515-2461

●カイトン光学顕微鏡(倍率100倍まで可)を譲ります。付属品つきで4000/5000円くらい。

田村透(千羽) 千葉県千葉市愛生町二〇二二(三〇四)

●60ミリ屈折赤道儀式天体望遠鏡(新品)の付属品一式付定価7000円を千羽32000円にてお譲り致します。

嶋 弥弦(千羽)26 北海道小樽市塩谷四一七(七)

●「U.F.Oと宇宙」No.12とU.F.Oの写真2枚をそえて送料共4500円で譲ります。多少キズあり。

斎藤慎一郎(千羽) 東京都町田市金森一七九六

●これが空飛ぶ円盤だ! 定価800円「地球空想図説」定価800円「タロット占いの秘密」(カード付)定価800円を送料共6000円で譲ります。まずは往復ハガキで連絡ください。

福井正秋(千羽) 兵庫県伊丹市森本六一三九

●「写真で見える空飛ぶ円盤」宇宙人2000集(平安書店)を10000円で(おまけ有り)。近代宇宙旅行協会発行の写真(カラー6枚、白黒29枚、大きな13センチ、説明書付)を6500円で譲ります(おまけ有り)。送料は当方負担。希望者は往

復ハガキで連絡してください。

後藤幸彦(千羽) 愛知県碧南市善明町二二一三五

●ダウエル製天体望遠鏡・15cm反折(付属品付)とカメラ付マウントで18000円で譲ります。取りにこれらる方、希望。

都 築信(千羽) 愛知県名古屋市中区上名古屋町六一二六

●矢追純一編「写真で見える空飛ぶ円盤」宇宙人2000集(平安書店)定価8000円を送料込み7000円で譲ります。または本誌No.5、6の2冊と交換してください。まずは本誌No.5、6の2冊と交換してください。

遠藤裕一(千羽) 山形県飽海郡山形町中牧田谷地七二二 電0234621-6502

●坂田淳子の2枚組のLP(3600円)、16歳のライタルLP(2000円)・ボストン付き、16歳の感情(2000円)を送料別で6000円で譲ります。もっとも高価な人を優先します。のり十たつても返事が無い場合はご了承ください。なるべく手渡し可能な人を希望します。またLP1枚につき本誌創刊号/No.4のうち2冊と交換可能。LPのバラ売りを希望する場合は希望価格を書くこと。往復ハガキでないと返事を出しかねます。

田上 純(千羽) 愛知県名古屋市中区北區東町四一四二

●「世界の映画音楽ベストコレクション」(全12枚豪華ケース入り、全11部ベジカ1版の豪華解説書付き、定価15600円)を8000/10000円(送料共)で譲ります。最近買ったばかりなので新品同様。汚れ、キズ一切なし。また、これを買ってくださる方には「超自然の世界」「神秘の世界」「円盤に乗った青年のマジメな話」(私は宇宙人を見た)を無料で差し上げます。

岡山昇平(千羽) 鳥取県松江市上乃木町松ヶ丘 電0852124-2930

●本誌No.4/No.11(2930を除く)を1冊2500円。全部まとめてなら15000円。切り抜きNo.8に少しあるのみ、あとは落書きも無し。他の者があまりにも不当に高く売っているの、頭にきた俺は安く売る。ヨロシク!

笹島宏孝(千羽) 長崎県長崎市上町三一四

●ついにやりましたU.F.Oの写真を撮りました。この写真希望の方は左記までご連絡ください。希望価格とTELを忘れずに。

間野 彰(千羽) 02 群馬県勢多郡大胡町大胡五四四

●カメラ(コダック・インスタマチックカメラX-15)定価7400円を送料共5000円で譲ります。故障ナシ、多少キズあり。U.F.Oをパチパチ撮ってください。電話で連絡してください。新品同様です。

奈良原英明(千羽) 埼玉県久喜市東三一一八二〇 電0480211-9014

●テラスターの双眼鏡(7×50ミリ)定価13000円を70000円で譲ります(新品同様)。またはU.F.O探知機T-5型と交換も可能。

格崎博文(千羽) 13 福岡県糸島郡志摩町小丸三〇四五

●本誌No.5/No.9まで数冊ずつあるので、どれでも1冊送料共12000円で譲ります。新出。またU.F.Oの撮影に成功したので、5枚組10000円で譲ります。写真の大きさは12cm×15cmです。

信田光秋(千羽) 岐阜県岐阜市金町五三三三

●「U.F.Oと宇宙」No.13を送料とも3000円で譲ります。第57回甲子園大会の新居浜商業高校の資料をたくさん持っている方、資料を譲ってくださるなら本誌No.13を無料で譲ります。ハガキで連絡を!!

西原智恵子(千羽) 広島県呉市和庄登町二一六

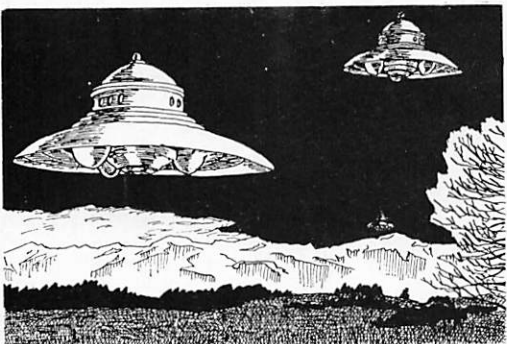
●本誌創刊号/No.5、No.7/No.11までと本誌別冊「U.F.O写真集①」を95000円で譲ります。往復ハガキで連絡願います。

滋野 直(千羽) 東京都品川区戸越三一一一

●本誌No.5/No.12まで、なるべく高価で買ってください。バラ売可。「タロット占いの秘密」「恐怖の心霊写真集」「続・恐怖の心霊写真集」「二見書房」「写真で見える空飛ぶ円盤2000集」(平安書店)など、適価で譲ります。

葛山岩男(千羽) 広島県広島市大州五一七(四)

●久保田宗一(画) 長野県下伊那郡



★譲ってください

●本誌No.7、10、11を、それからNo.8の「アタリ」の不思議な小人出現事件! のところのコーナーをできるだけ安価でお譲りください。あまりひどくなければ少々汚れ、キズは構いません。連絡は往復ハガキでお願いします。

森田しのぶ(千羽) 京都府船井郡岡部町竹井

●本誌創刊号のコピーか原本を譲ってください。また、本誌No.2/No.4、6の内のどれかを譲ってください。コピーでも結構です。なるべく安くお願いします。少々汚れ、破れがあっても構いません。まずは直段(送料共)の希望を書いて連絡してください。

高瀬啓之(千羽) 大阪府門真市野里町三二一九

●本誌No.1、2、6を譲ってください。値段はNo.1、2が10000円くらいで、No.6が6000円くらいです。ハガキで連絡してください。

志子田則明(千羽) 宮城県仙台市五十人町一〇

●U.F.O写真(トリック不可)を持っている方、送ってください。それなりのお礼をします。できるだけたくさん送ってください。

今江庸仁(千羽)13 富山県砺波市松上町七

●本誌創刊号/No.4までを30000円くらいで譲ってください。どれか1冊でも結構です。まずは電話で。

大内 猛(千羽) 福岡県直方市盛田字小塚二二三八 電0949214-2379

●U.F.O写真を1枚譲ってください。(U.F.O写真を撮らうとするのですが、まだ1枚も撮れません。図々しいと思うのですが、よろしくお願ひします。できましたらネガを貸してください。責任をもって返します。

高瀬潤一(千羽) 千葉県東津市祇園七五八(八)

●U.F.Oに関する写真や情報、体験談を提供してください。それから円盤研究団体の会長さん、会員章がありましたらお譲りください。

三樹 誠(千羽) 大阪府大阪市東成区大今里四一六一(四)

●本誌創刊号/No.4までの美品を60000円前後で譲ってください。送料別。どうせ送るなら僕のものへ。

吉田敬幸(千羽) 兵庫県伊丹市東有岡一三三三

●本誌創刊号/No.4を全部持っている方、またはNo.10までの内、何冊か持っている方は譲ってください。全部揃っているれば35000円。バラの場合は1冊20000円。創刊号のみ70000円。破れがなければ結構です。送料は当方が負担します。ご連絡はハガキで。

藤島康洋(千羽) 福岡県都市台新一二〇一二

(八)

●本誌創刊号No.3を1500円以内でお送りください。この中の1冊でも構いませんから往復ハガキで連絡してください。できるなら良品を希望しますが少々汚れていても構いません。誠意のある方をお願いします。

●UFO写真のネガを持っている方、ネガを貸して欲しい。必ず責任を持ってお返ししますから。誠意ある方へ。

●古川弘志(〒100 徳島県阿南市横見町前長岡五八番地 電084421212901) 本誌創刊号を1000円以内で。またNo.2/No.12までを各500円。それとも「ヒューマノイドについでマジメな話」「田舎に集った青年のマジメな話」(美本)とNo.2/No.12の中の4冊と交換してください。それからUFO写真を2枚、写真を1枚お送りください。(トリック不可)。相談は往復ハガキにて。

●沢田裕一(〒800 福岡県福岡市中央区今泉一五一三) アダムスキー著の「空飛ぶ円盤同乗記」を以前からさがしているのですが、この書店にも売っていません。どなたか900円以内で譲ってください。また、ハガキで連絡を。お待ちしています。

●渡辺佳子(〒200 栃木県矢板市木広町六一二) UFOの写真を撮った人、またはUFOらしき物体を撮った人、写真を1枚お送りください。そして撮影日時、場所など、撮影したときに気づいたことを明記してください。

●和田憲英(〒670 兵庫県神戸市灘区大石南町三三三) 本誌創刊号を高価買入れます。連絡はできましたら往復ハガキでお願いします。

●玉田憲造(〒460 愛知県名古屋市中区北見通二二二 電052198112343) 本誌創刊号No.4、6を譲ってください。1冊でも結構です。その他の思いつきをお知らせください。また「ユリ・ゲラーが超能力」定価890円と交換しても結構です。

●荒井浩(〒500 神奈川県横浜市磯子区渡頭二二五〇一〇 サンハイツ間野) 本誌創刊号No.4、6を譲ってください。1冊でも構いません。どんなに汚れていても構いません。おつりはいりません。

●(質問) 人: 衛星は一夜に10回も同じところを通るのでしょうか。知っている人がいたら教えてください。

●河津喜次(〒800 熊本県阿蘇郡小国町 杖立温泉 豊方)

●本誌創刊号No.11まで適価で譲ってください。往復ハガキで連絡をお願いします。

●復田明美(〒400 京都府舞鶴市清美ヶ丘五三三 府営住宅322) 本誌創刊号とNo.2の2冊、またはNo.3/No.6までのどれか3冊をどうか私に譲ってください。おれにユリ・ゲラーのLP(新品、無傷)を贈ります。おれに新井ルミ(〒100 東京都目黒区洗足一五二一〇) 本誌創刊号No.4、No.6(美品)を3000円/3500円くらいで。1冊でも結構です。連絡を。

●杉本重之(〒200 北海道根室市光洋町二二三 電01532134410) 本誌No.1/No.11までのコピーを価格相談の上。またはハガキで。気長に待っています。

●佐藤一徳(〒200 北海道札幌市豊平区美園一二二) 僕はUFOが好きで15歳の男子です。もし本誌を読んでくれる人で、UFOを撮影した人は写真を1枚送ってください。必ず代金を送ります。また、切手でもよい人は「切手でもよい」と明記してください。

●山崎重範(〒200 山口県大津郡三隅町上ゲ 電083741310473) 本誌創刊号No.4、No.6を一括して2000/2500円くらいで譲ってください。ハガキで連絡を(なるべく良品を希望)。

●武者太郎(〒400 東京都足立区竹の塚二一七二) 本誌創刊号No.4までを一括して、どなたか譲ってください。値段は3000円前後(美品希望、送料当方負担。またはハガキで)。

●本誌No.11より知り、No.9、No.10は何とかなりしましたが、創刊号No.4、6、7、8がまだありません。どなたか被れ、汚れ、破損古くても結構です。私にくださいませんか、お願いします。

●乃川了弘(〒200 岩手県水沢市姉妹町字樋ノ口二八) 本誌創刊号No.10(美品)を1冊1000円で。おれにブルーワーカー2(美品、私は宇宙人を見た、テストローヤールのマスクを差し上げます。但し、東京都内の方で直接に会える方。または電話で)。

●志和浩司(〒200 千葉県千葉市高砂新田一三八一八 電0473191574) 本誌No.1/No.4、No.6及UFO、アダムスキーに関する本を高価買入れます。またはお電話ください。

●永井哲史(〒200 埼玉県三郷市酒井六〇一六 電048915314820) UFO写真のネガ、焼き増しを譲ってください。また貸してください。心算写真を持っている方、またそれらしい写真を持っている方、ネガが焼き増しを譲るか、貸してください。UFO写真か心算写真の記事やコピーなどがありましたら譲ってください。

●佐藤勝則(〒200 福島県伊達市桑折町桑島一四六六) UFOの写真を撮った人、ネガを貸してください。責任をもってお返しします。また写真を持っていない人、写真を1枚3000円前後で譲ってください(トリック不可。なるべく県内でお願います。または電話で)。

●山口学(〒200 福岡県筑紫野市下見五八〇一五 電09292164438) 本誌創刊号を1000円前後、No.2/No.4、No.6を各500円前後で譲ってください。またはハガキで。切り抜き、汚れ不可。

●河野秀一(〒200 大阪府大阪市都島区大東町一九一七) UFOの写真を持っている方、1枚お送りください。お願いします。

●大隈剛史(〒200 愛知県津島市上河原町三八) 本誌創刊号No.8とNo.12を譲ってください。各1冊でも結構です。少々キズがあっても構いません。詳しくは手紙で。失敬成蔵(〒200 滋賀県伊香郡余呉町中之島五五八) 本誌創刊号No.4、No.6を定価より譲ってください。連絡を待っています。

●本誌創刊号No.4、No.6を定価より譲ってください。連絡を待っています。

●本誌創刊号No.4、No.6を定価より譲ってください。連絡を待っています。



●深田彦彦(画) 大阪府和泉市

●本誌創刊号No.4、No.6を定価より譲ってください。連絡を待っています。

●本誌創刊号No.4、No.6を定価より譲ってください。連絡を待っています。

●日本超科学会雑誌「超科学」の第4号、または同号の特集「超科学実験装置のコピー」をできるだけ安く譲ってください。ハガキで連絡をください。

梶谷 博(一橋) 愛知県津島市城山町三ー一三三三

● UFO に関する本をタダで譲ってください。

● 広島泰隆 (〒700 004 熊本市宇土市本町二二四)。

● 本誌創刊号をぜひ譲ってください。

● 近藤信幸 (〒201 千葉県千葉市富野区本町九六九一一五九)。

● 本誌創刊号を1000円以内で譲って欲しいのです。 (美品で安いもの)。誠意のある方をお願いします。

● 僕は航空機と UFO のファンです。本誌創刊号 / No.7 を3500円 (送料付) くらべて送ってください。

● また航空機専門誌と交換希望の方はハガキをください。(美品希望)。

● 吉田 正 (〒170 東京都練馬区上石神井一三三七石神井公園三四四八)。

● 天望望連、地設計をぜひお譲りください。また山口百恵の写真集、プロマイドなどもお譲りください。なお写真集は美品にきざり全新品のレコード (LP) と交換します。詳しくは新品のレコード。

● 森川幸弘 (〒404 静岡県清水市七ツ新屋二二〇一三)。

● 「キリストと宇宙人について」の本をもっている方、その他キリストについての本など、ありましたら譲ってください。希望の価格で。ハガキで連絡をお願いします。

● 田田ひろみ (〒351 埼玉県和光市白子二一三二二三)。

● 本誌創刊号500円以上、No.2 / No.10まで各400円前後でお譲りください。まずはハガキでご連絡ください。

● 時弘 修 (〒700 岡山県岡山市学南町二一一三三九)。

● 本誌 No.4 / No.13までを各500円で購入したい。また UFO の写真をもっている人ご連絡ください。送

●本誌創刊号のコピー、全ページが1部だけあります。当方本誌№4との交換を希望（美品に限る）。なお連絡は電話番号を明記のうえ、往復葉書でお願いいたします。

金子 肇（千羽） 神奈川県横浜市港南区上木谷町二
九六八

●どなたか本誌創刊号を譲ってください。そして、ばくものっている「お江戸日本橋 御用美品と「デラント世界の歴史7」と「たから蔵の合わせてラウンダーの美品7」とそこと「宇宙船」著者：G・アダムススキ著、久保田八朗訳を贈る。

同 13 行目 $E_y = \frac{3c_p p_0}{8\pi a^2} z \sin \omega t \rightarrow E_y = -\frac{3c_p p_0}{8\pi a^2} z \sin \omega t$
 同 15 行目 $Q = w t - \theta = a t$
 P 51 下段 1 行目 “ の電位 V は、 ” の電位
 V は “
 同 6 行目 $b = \infty \rightarrow b \cdot \infty$
 P 35 右段 6 行目 “ 四日市 ” $\rightarrow$ “ 江田市 ”
 P 35 右段 7 行目 “ 海部郡 (高地) ” $\rightarrow$ “ 海部郡 (低地) ”
 P 79 左段 12 行目 $F(x) \Delta x \rightarrow F(x) \Delta x \dots$

●No10 (1975・2月号)

口絵写真—ワシントン上空のUFO大編隊／露ヶ路で写った奇妙な棒状物体／その他 銀色の服を着た宇宙人…高梨純一／ユリ・ゲラーが撮ったUFO写真、その他の奇妙な宇宙人写真を考察する 科学を曲げる男ユリ・ゲラー…G・クレイトン／UFOと物理現象との重要な接点がついに出現？ 月世界の謎の現象を探る〈天空と大地 科学シリーズ8〉…宮本正太郎／自然現象か、他の原因か？ 月面の意外な事実を明らかにすると NASAの活動と、その未来…中村政雄／イルカの、研究／無人の惑星探査計画／スペース・シャトル建造などNASAの宇宙開発状況を報告 〈写真〉木星の最近の素顔 科学ニュース／UFO情報／UFO目撃レポート／バイオニア11号木星の電波信号を探る／宮崎県のUFO現象を分析する…松田三男 UFOの推進法について…伊知地充 鹿児島県で撮影されたUFO…薩摩半島はUFOの飛行コースにあたる？ 宇宙・引力・空飛ぶ円盤(5)…〈連載科学記事〉…L・クラump／空飛ぶ円盤の機構を科学的に推理する 読者の声

●No11 (1975・4月号)

口絵写真—オーストリアのUFO／阿蘇のUFO群／アダムスキー型円盤、尾道市に出現！ 月面は円盤の中継基地か…並沢潤一郎／宇宙開発によって明らかにした月面の不思議な現象を写真で分析 ニューヨーク州の着陸事件…T・フリーチャー／ニューベルリン市に2機のUFOが着陸、中から二人の人間が出て来た！ UFO情報／UFO目撃レポート／ブラジルのUFOの残骸？／科学ニュース／UFO研究と語学／1980年代の宇宙連絡船〈天空と大地 科学シリーズ9〉…河島信樹／今や宇宙開発はスペース・シャトルの時代！ 原子・銀河系・理解(1)…D・フライ／有名な円盤搭乗者による新連載科学記事 東北、東関東をよぎったUFOの大編隊？／アダムスキー型円盤、尾道市に出現！／反重力モーターで宇宙飛行が可能？ 宇宙飛行士、米ソ共同計画の成功を確信 東京を騒がせたUFO誤認事件／宇宙・引力・空飛ぶ円盤(6)〈連載科学記事〉…L・クラump／空飛ぶ円盤は消滅した！／史上最高い事件を考察 読者の声／本誌既刊号掲載記事目次一覧

●No12 (1975・6月号)

口絵写真—東京上空のUFO／円盤一帯都市に出現！／埼玉嵐山町で発生した怪現象 謎の飛行体を撮影！／その他 甲府市にUFO着陸！(本誌特別取材) 少年たちの見た宇宙人とは？／文字の書かれていた円盤とは？ オーストリアの光るカタツムリ状物体…E・ベルガー 古代の天空人…E・F・デニケン／神々の戦車の著者が再び古代の遺跡と天空人の関係を推理する 北海道で撮影されたUFO／円盤または千葉県に出現！／長野県に落下した小型円盤！—72歳のおばあさんが当時の模様を語る UFO情報／私は宇宙人？を見た／UFO目撃レポート／科学ニュース／美しい白線の軌跡！—天体観測中に出現したUFOの写真 重力波とは何か〈天空と大地 科学シリーズ10〉…千葉二郎／世界のトップレベルをゆく理論を解説 原子・銀河系・理解(2)…D・フライ 私のUFO目撃記録…松岡正憲／詳細なUFO観測記録を写真で掲載 鹿児島市のライティング・ライツ〈表紙写真説明〉 シベリアの謎の大爆発〈ソ連圏のUFO現象(1)〉…I・ホバナ J・ウェヴァーバーク／隕石か、UFOによる大爆発か？シベリアの謎の爆発をめぐる大論争 読者の声

●No13 (1975・8月号)

口絵写真—円盤、都内に出現！／群馬県/UFO／続・嵐山町の謎の飛行体／千葉市にソープレ型円盤出現！／その他 千葉市にアダムスキー型円盤出現！(本誌特別取材) 直径10メートルの円盤が目の前300メートルまで接近、中学生の梅原君が撮影に成功 円盤に乗った宇宙人を見た！／炎をふく不思議な物体！—東京上空に出現した炎の物体を1000mの望遠レンズでとらえる UFOの来る時／UFOに挑む！／UFO情報／UFO目撃レポート／撮影された“棒状物体”はUFOか？—撮影者の疑問に写真の専門家が答える 宇宙交信のためのテレパシー通信〈天空と大地 科学シリーズ11〉…市村俊彦／テレパシーは実在する。大型超能力少年がそれを実証！ 科学ニュース／原子・銀河系・理解(3)…D・フライ 円盤現象を解釈するために欠かせない「アインシュタインの三つの基本事項」

…山下昭朗 中学生にもわかる微分積分(1)〈科学教養講座〉…三好要市 宇宙人をこぐる歌…李福基／中国古代「楚辞」中の祭天歌 嵐山町の謎の飛行体〈表紙写真説明〉 ルーマニアのUFO出現事件〈ソ連圏のUFO現象(2)〉…I・ホバナ J・ウェヴァーバーク／ルーマニアに出現した謎の物体の正体は何か？ 意見／読者の声

●No14 (1975・10月号)

口絵写真—館山市の奇妙な光跡／UFO、鎌倉市に出現！／東京上空で乱舞する神秘の円盤／または東京上空に金色のUFO—みごと8ミリフィルムにキャッチ！ 円盤をよく見る人(本誌特別取材) 円盤を目撃する怪けつは「真実の生活」にある 1987年の謎の飛行船…J・クラーク 円盤と人体保護装置…J・エンツミツンガー 私は金星文字を解説した！…B・B・デン・バーク／この発見はアダムスキーの体験の真実性を証明する？ マルセル・オム教授の不思議な発見物…常岡理太郎／南米の奥地にあった奇妙な古代文字の謎 世界最古のUFO写真／フランスの大匠UFOを語る…G・クレイトン UFO情報／大気圏外生命体とのコンタクト？…増野一郎／ある謎の通信 UFO目撃レポート／科学ニュース／「太陽熱発電」テストプラントの開発に成功／原子・銀河系・理解(4)…D・フライ 実在する超感覚と念力〈天空と大地 科学シリーズ12〉…関英男 〈写真〉—これは何だ？UFOか、それとも 中学生にもわかる微分積分(2)〈科学教養講座〉…三好要市 アダムスキー型円盤、豊田市に出現！〈表紙写真説明〉 ユーゴスラビアのUFO出現騒動〈ソ連圏のUFO現象(3)〉…I・ホバナ J・ウェヴァーバーク／ビソキ・デカニ修道院の壁画は古代の宇宙船を描いたものか？ 世紀の謎の現象追跡の手はユーゴスラビアに及ぶ！ 読者の声

●No15 (1975・12月号)

口絵写真—南部川村でまた撮影された分裂する光体／美女平上空のUFO／松戸市に出現した怪光体／(続)アダムスキー型円盤、豊田市に出現！／その他 ステラ・ランシング夫人の不思議な写真…B・シュワルツ／ステラのUFO写真は真実のUFOか、それとも心霊写真なのか？ ドラギニヤンの怪事件…J・シャセーニュ／スリルとサスペンスに満ちた驚異の事実！ ワルヌトンの奇怪なロボット…G・クレイトン 館山市で飛んだ世にも奇妙な飛行体！(本誌特別取材) UFO情報／聖書の予言とスペース・プログラム(1)…C・A・ハニー／他の惑星から来る偉大な人類(スペース・ブラザーズ)のスペース・プログラム(地球教団計画)とはなにか 科学ニュース／原子・銀河系・理解(5)…D・フライ 原子エネルギーの秘密〈天空と大地 科学シリーズ13〉…柏木弘／あつたさまじいエネルギーはどこから出てくるのか 前橋市に円盤が出現！／中学生にもわかる微分積分(3)〈科学教養講座〉…三好要市 観ルーマニアのUFO出現事件〈ソ連圏のUFO現象(4)〉…I・ホバナ J・ウェヴァーバーク／ルーマニアにしばしば出現する気球状UFOは 寺院の壁画にも描かれていた！ 読者の声

●No16 (1976・2月号)

口絵写真—富士中腹の怪物体(静岡県)／黒い影昭和山から急上昇！(北海道)／ファントム戦闘機とUFO(茨城県)／その他 三原市の驚異コンタクト事件(本誌特別取材)／日本列島の大部分は沈没する！不思議な宇宙人の言葉は何を意味するのか？高徳の大地正が真夏の深夜体験された大事件をここに一半公開！ 月面の人工トンネル？〈写真〉／ガッセンディー・クレーターの謎！ テレポーテーションとテレパシー…平野威雄 名古屋上空に円盤大挙出現！(本誌特別取材)／母船から発射される3機の小型円盤、地上低く舞い降りるアダムスキー型円盤など 聖書の予言とスペース・プログラム(2)…C・A・ハニー／今世紀末に地球が大変動で混乱するとき、偉大な人類(スペース・ブラザーズ)が大挙して公然と飛来するというその予言は真実か？ UFOと日本列島構造線…渡辺啓一 宇宙交流時代—米下院におけるアレン・ハインツ博士の声明 作図によるアダムスキー型円盤解析の試み…高橋洋一 球型コンデンサーと回転磁場…藤井信之 金星は生きている／UFO情報／UFO目撃レポート／科学ニュース／中学生にもわかる微分積分(4)〈科学教養講座〉…三好要市 菊池市のUFO〈写真〉 多摩湖畔にUFO！〈表紙写真説明〉 X博士の怪UFO事件…E・ミシェル／南フランスにおけるUFO目撃、調査 読者の声

本誌既刊号掲載記事目次一覧

●創刊号 (1973・8月号)

世紀の謎UFO—空飛ぶ円盤—UFOは世界中に出現する／ケネス・アーノルドの目撃／円盤は他の惑星から来る？／…… UFO対談—私はUFOを見た—山久高／円盤は夢をもたせてくれる—大辻清司／不思議な現象に関心を持とう—小松左京／円盤は実在する。私は何度も見た—横尾忠則 浅間山上空に円盤が出現—浅間山の山すそに消えたナゾの物体 多束光線を放つ円盤—G・クレイトン フランスの怪奇火の玉UFO事件—F・ラガルド／フランスのビレネー地帯に出現した火の玉群と砲弾型物体！ ある夜の美しい出来事—B・E・シュワルツ 科学トビックス—月は生きている？／火星も呼吸をしている！／神々の戦車(1)〈連載ノンフィクション〉…E・F・デニケン／スイスの考古学者が明かす南米ナスカの遺跡

●No 2 (1973・10月号)

口絵写真—テキサス州シャーマンの円盤／高松市上空の円盤 私は円盤に乗った！—D・フレイ／米科学者の驚異的体験記 ネス湖の怪物とUFO—F・W・ホリデイ／ネス湖上空の奇妙な物体 類人猿・怪物・UFO—J・クラーク R・コールマン／サルのような怪物とUFO？ 輝く球体が室内に侵入—A・アデル P・レドン オレゴン州の円盤写真—A・バンス UFOの科学的観測法—清水畑博 1966年ウッドストックUFO祭典(1)—B・E・シュワルツ／米国で起こった不思議な事実 科学トビックス／神々の戦車(2)〈連載ノンフィクション〉…E・F・デニケン／古代メソポタミアの驚くべき技術と知識／サハラ砂漠の壁画のナゾ／旧約聖書の真相は？ 山形県の怪UFO騒ぎ—市民を騒がせたナゾの光体 国内UFO目撃報告／読者の声

●No 3 (1973・12月号)

口絵写真—スイス・アルプスのUFO／千葉県的小型円盤／その他 パプア島の円盤騒動(1)—N・E・クラットウエル神父／南海の楽園に出現した円盤と手を振る円盤上の人影！ 円盤の中に連れこまれた男①—南山宏／世にも異常なコンタクト事件 1966年ウッドストックUFO祭典(2)—B・E・シュワルツ 東京大地震は発生するか〈天空と大地 科学シリーズ1〉…気象庁気象研究所地磁気部長・藤原彰／分析結果は「突如発生してもおかしくない！」 埼玉県羽生市の奇妙な物体／エゼキエルは何を見たか—米航空宇宙局の科学者による旧約聖書のナゾ解明 科学トビックス／神々の戦車(3)〈連載ノンフィクション〉…E・F・デニケン／ギルガメッシュの叙事詩の秘密—突如出現したエジプトの不思議な大文明 山形県の火の玉写真／私は円盤を見た—吉原孝子 国内UFO目撃報告／読者の声

●No 4 (1974・2月号)

口絵写真—メルボルン郊外の円盤／琵琶湖上空の円盤／その他 日本古来の天空人出現説考(1)—斎藤守広／日本にも宇宙からの訪問があった ドラギニヤンに出た円盤—J・シャセース F・モル パプア島の円盤騒動(2)—N・E・クラットウエル神父 アルゼンチンの驚くべき瞬間遠隔移動—O・A・ガリンデス 1966年ウッドストックUFO祭典(3)—B・E・シュワルツ 空飛ぶ円盤は存在する〈天空と大地 科学シリーズ2〉…橋本健／二人の科学者の論争 科学トビックス／神々の戦車(4)〈連載ノンフィクション〉…E・F・デニケン／イースター島の巨石像群のナゾ—不思議なマヤ文明の遺跡 東京理科大でUFO講演とスライド映写／国内UFO目撃報告／読者の声

●No 5 (1974・4月号)

口絵写真—埼玉県狭山市のUFO／北海道のUFO／その他 日本古来の天空人出現説考(2)—斎藤守広／常陸国原合浜の「異船」は別な惑星から来た宇宙船？ 複雑怪奇な点滅光跡の謎—高梨純一／自然現象？ UFOが描くメッセージ？ 円盤の中に連れこまれた男(2)—南山宏／世にも異常なコンタクト事件 ミシガン湖光体目撃事件—A・ユートク／沼地のガスかUFOか？ 私のUFO目撃体験記—清水畑明、太田博久 京大文化祭でUFO資料展—興味深いアンケートの

回答 太陽エネルギーと水で無限の燃料を！〈天空と大地 科学シリーズ3〉…東大生産技術研究所本多研究室・渡辺正／「水素ガス」を無限にとり出す世界的大発見 科学トビックス／神々の戦車樹〈連載ノンフィクション〉…E・F・デニケン／宇宙開発の意義—UFOは実在—シベリアのナゾの爆発は異星宇宙船の衝突か 国内UFO目撃報告／読者の声

●No 6 (1974・6月号)

口絵写真—広島県呉市のUFO／長野市郊外のUFO／東京・渋谷区上空の円盤／その他 日本古来の天空人出現説考樹—斎藤守広／太平洋の「電光」は宇宙船の大激戦？ イベリア半島のUFO着陸事件—B・H・オルモス 円盤の中に連れこまれた男樹—南山宏／世にも異常なコンタクト事件 エドガー・ケイシーの予言による世界の大変動—常岡理太郎 地球自転速度が急変！〈天空と大地 科学シリーズ4〉…東京天文台・飯島重孝／世界的異常気象が原因か 沖繩の「天空人の墓」？／私はライティング・ライツを撮影した—横町昭 科学トビックス／宇宙・引力・空飛ぶ円盤(1)〈連載科学記事〉…L・クランプ／英国の円盤研究者による謎の推進機関の解明 国内UFO目撃報告／読者の声

●No 7 (1974・8月号)

口絵写真—メナム川上空の円盤？／茨城県大宮町上空のUFO／福島県喜多方市のUFO／その他 ガルダの発見—黒沼健／インドネシアの伝説の謎を探る 大ピラミッドはUFO記念碑？…志田真人／大ピラミッド建設の謎とUFOとの関係を推理 アルゼンチンの奇怪なUFO着陸事件—O・A・ガリンデス／不思議な人影群と大焰を噴く円盤 海上に着水した円盤！—W・ビューラー／円盤から手を振る二人の「人間」 〈写真〉本物のライティング・ライツ？ 空飛ぶ円盤はGエンジンか？〈天空と大地 科学シリーズ5〉…橋本健／二人の学生の反論に対する回答 写真のゴーストはなぜ現れるのか—東京写大助教授・加藤春生 UFO—目撃体験・所感・a t c (応募記事)／UFOのライティングライツ／私は気象台からUFOを見た／交流電源による点滅光線／超光速は可能か／聖書の神は宇宙人だ／横濱国大にてUFO講演会 科学トビックス／宇宙・引力・空飛ぶ円盤(2)〈連載科学記事〉…L・クランプ 国内UFO目撃報告／読者の声

●No 8 (1974・10月号)

口絵写真—大気圏外のUFO！／阿蘇山のUFO群／焼津市の葉巻型UFO？／その他 マンテル大尉の悲劇—荒井欣一／UFO研究史上の大事件の真相を追う 他の天体からの信号—E・リドバース イタリアの不思議な小人出現事件—C・コンテイ 千葉県に出現した大型円盤！(本誌特別調査) ネス湖における悪魔ばらいの儀式とUFOの着陸—F・W・ホリデイ／ネス湖の怪物は動物ではない？ 〈写真〉またもライティングライツ？！ 天体オーラと宇宙電界の謎〈天空と大地 科学シリーズ6〉…内田秀男／万物が放射するオーラと宇宙電界の神秘を探る 科学トビックス／宇宙・引力・空飛ぶ円盤(3)〈連載科学記事〉…L・クランプ／重力のメカニカルなたとえ／「創造の一体性」理論 国内UFO目撃報告／読者の声

●No 9 (1974・12月号)

口絵写真—また千葉県に円盤が出現！／横浜市上空のUFO？／東京柏江市の弾丸型UFO／その他 UFOによる米空軍機追尾事件—賢淳／不思議な光体の出現と3000メガサイクルの受信！ スペインに出現した円盤と乗員—J・マシアス A・バリコン／水品のようなドームをつけた「奇妙な物体」と男—ジョージ・アダムスキー—まだ影を投げかけている！—G・クレイトン／世界中に出現するアダムスキー型円盤の意味するもの UFOは人類を宇宙へ導いている！？—中山真理 伝説の中にもあった天空人の地球来訪—志田行賢 大気圏内のUFOの速度—L・グランチ 柏江市で撮影されたUFO UFO情報／東京で「宇宙人特別講演会」開催／地震の謎をにぎるマンデル対流！〈天空と大地 科学シリーズ7〉…竹内均／日本列島はどうなるのか？—地球物理学の権威が警告する 科学トビックス／宇宙・引力・空飛ぶ円盤(4)〈連載科学記事〉…L・クランプ／慣性と遠心力／空中浮揚現象の謎 富山湾上空に謎の白線が出現！ 国内UFO目撃報告／読者の声

UFOs & SPACE

No. 17 March-April, 1976

Price ¥ 390

Published by Universe Publishing Co., Ltd.

1976 All rights reserved

Captions for Color Photographs

UFOs OVER THE ASTRONAUT ON THE MOON

The Apollo Program was truly the man's greatest adventure. The spectacular experimentation that sent the human beings onto the surface of the Moon made it possible to strip the curtain off the unknown lunar world. However, it remains mysterious in some way. The Apollo astronauts had taken pictures of UFOs on the Moon! Why did they keep this fact from the public? They took many pictures which appear to show various phenomenas, such as the structures which give us the impression of a huge UFO base, the atmosphere covering the lunar surface and so on. These pictures on the cover and the color pages were given to the editor through special channels of supply.

Cover

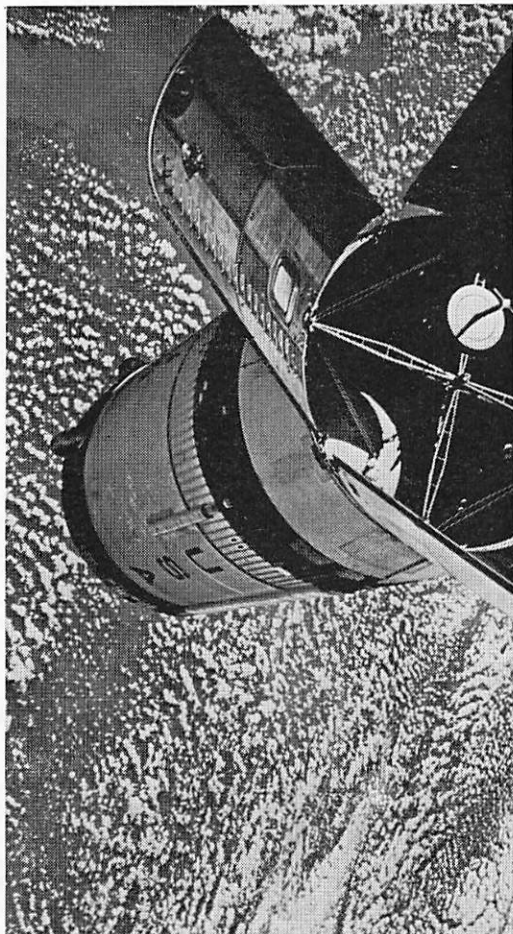
This picture was taken by an astronaut of Apollo during the Extravehicular Activity on the lunar surface. A UFO-like huge luminous body is above the associate astronaut standing on the surface in a space suit.

Page 2-3

This was also taken by an Apollo astronaut. At the left center of this lunar landscape, some kind of structure, which is hard to take as the result of natural phenomena, is seen. Surrounding the structure are road-like white lines, some in a radial manner and others in circular.

Page 4-5

Compare the photo on page 4 with the one on the cover. These two photos were taken at almost the same place on the lunar surface in a small time lag. In the photo on the cover, the luminous body is above the astronaut. But in this photo, a light from somewhere above the lunar surface is thrown onto the ground just in front of the astronaut. It might be be-



cause the luminous body have moved closer to the associate astronaut who took the photo.

The three photos on page 3 show misterious luminaries over the lunar surface.

Page 6-7

As far as we know, no atmosphere could exist on the lunar surface. But these photos show some kind of diffused reflection of light which indicates the existence of air.

ユニバースUFOシリーズ第2弾!

4月12日全国一斉発売!

米ジョージ・アダムスキー財団より翻訳合本出版権獲得

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

宇宙からの訪問者

—偉大な惑星人との会見記—

改訳合本決定版

●B6版342頁／本文厚手上質ク
リーム紙使用／写真頁極上コー
ト紙使用／美麗カバー付保存版
定価1,300円 円160

●空飛ぶ円盤は実在する! 遠い惑星から偉大な進化をとげた人類が大宇宙船を駆って地球の救援に飛来する! 壮大きわまらない宇宙空間の大スペクタクルと驚異的事実を伝えた本書はまさに20世紀最大のドキュメントであり、UFO研究者のみならず全人類必読の永遠の古典である。

●本書はかつて「空飛ぶ円盤実見記」、「空飛ぶ円盤同乗記」として知られた名高い2点の記録書をアダムスキー研究家として著名な久保田八郎が流麗平易な訳文により全面的に改訳、「実見記」の内、アダムスキーの手記と「同乗記」全文を合本として事件の理解を容易ならしめ、また未発表の写真類を加え50点以上の写真・図解を一挙掲載した。なかでも金星人オーソンの肖像写真、金星のシンボルマーク2点、その他の貴重な写真類は読者をして遙かなる惑星群に限りない憧憬と畏敬の念を抱かせるだろう。

〒110 東京都台東区
秋葉原3-3 アキバビル

株式会社ユニバース出版社

電話(255)8784(代表)
振替・東京 1-119478

●書店にない場合はユニバース出版社業務部へ直接ご注文ください。

会員募集

★UFOと宇宙哲学の研究グループ★

日本GAP

わが国UFO研究界の先駆者久保田八郎はジョージ・アダムスキー研究家としても著名であるが、1961年よりアダムスキー主宰の世界GAP（知らざる運動）組織の日本代表となり、日本GAPを設立。以来あらゆる困難と障害を乗り越えて、アダムスキーの特別な体験と宇宙的哲学の促進活動を展開してきた。機関誌「GAPニュースレター」をすでに57号まで発行。毎月上野公園の東京文化会館で月例研究会を開催。テレビ番組、テレビ番組練習、研究発表などを行い、宇宙の法則と人間の真の生き方を探求。月例会終了後は夕食会を開催して会員の親睦を図る等、専任の個人活動として啓蒙運動を続行中である。真剣な探求者のご参加を歓迎いたします。

不定期刊機関誌

GAPニュースレター

●本格的活版印刷・B5版・横上
アート紙4ページ●UFOに関連して、他の惑星の偉大な人種存在
第57号発行中!! の謎と宇宙の法則の探究専門誌

(主要記事) (第56号までは品切れ絶版)
進歩した思索家のために(未公開遺稿)……ジョージ・アダムスキー

(連載)米GAP訪問記「きらめくビスタの星」(写真多数掲載)……久保田八郎

(改訂)空飛ぶ円盤同乗記(10)……ジョージ・アダムスキー

その他満載

入会希望者は50円切手を貼った宛名明記封筒を同封の上、「UFOと宇宙」17号で見たと書き添えてまず案内書をお申し込み下さい。高度な哲学的研究グループにつき、入会者は高校生以上に限ります。非会員に機関誌の1冊売りはしません。

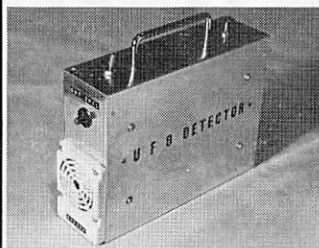
〒133東京都江戸川区本一色町365-818 日本GAP(代表)久保田八郎

UFO探知機

超高度

国産唯一の本格的磁気探知機!

現在150台が全国で活躍中!!
既にUFO探知成功8件!!



T-3b型

T-5型……¥9,000
T-3a型……¥18,000
T-3b型……¥19,000

■その他、連続観測用のACアダプター及び、補助電池ボックス(新製品)があります。

申込先: 〒213 神奈川県川崎市高津区長尾1606

折田 至

Tel. 044-866-8347

●カタログ請求は100円切手をお送り下さい。

TAMA SOUL BOOKS

宇宙哲学 新製
地球人類より数万年も進化した他惑星から伝えられた宇宙の真実 アダムスキー著 久保田八郎訳 七五〇円 一六〇円

UFOは二の黒船だ
宇宙的ルネッサンスと産業革命によって、公害、戦争、大変動の危機を回避する。坂元ツトム著 六八〇円 一二二〇円

念力スプーン 真実だ
ゲラー効果はトリックか真実か。日本の超能力少年達による実験証明。市村俊彦 内田秀男 芝山輝共著 六八〇円 一四二〇円

ソ連圏の四次元科学

80億円の国家予算でUFOテレビジョン、念力の研究を軍事や宇宙開発に応用しようとする共産圏アカデミー上巻(ソ連前編) 下巻(ソ後ブルガリア・チェコ編) オストランダー他著 照洲みのる訳 各巻1150円 千200

ノストラダムス大予言原典

大地震、パニック、第三次大戦への宇宙人の介入など世界三大予言者の未来を集約。西暦3000年までの予言書「諸世紀」の全訳と解説 ノストラダムス著 ロバート編 内田秀男監修 大東和子訳 保存版2400円 千200

異色考証

キリストは日本で死んでいる
日本の古代遺跡に刻まれた神代文字が物語る驚異の歴史。神武天皇以前の太古の記録。シヤカ、キリストの来日、古代大陸文明の世界的交流を多数の遺跡写真で解説する。宇宙考古学の原典復刻ノストラダムス著 山根キク著 九五〇円 千一六〇

最新刊絶賛発売中!!

思念力百科
セルフコントロールやテレパシーをエジプト秘術から現代心理学などあらゆる超能力開発法で新方式図解 佐々木浩一著 九五〇円 千一六〇

超能力クロアゼ
世紀の千里眼能力者の記録。迷宮入犯罪の解決、古代遺跡の過去透視、大学での未来予知実験等 Jボラック著 山下仁訳 九五〇円 千一六〇

エドガー・ケイシー秘密シリーズ

夢予知の秘密
夢であなただけの未来を知るノストラダムス著 一三〇〇円 千一六〇

転生の秘密
二五〇〇の生まれ変わり例 一三〇〇円 千一六〇

超能力の秘密
超能力開発の原理と実践法 一二〇〇円 千一六〇

162 東京都新宿区納戸町33

た ま 出 版

電話03-260-4367 振替東京94804

高性能精密器 均 10ヵ月払 初回金 $\frac{1}{10}$ で ニコルス 等 おてもとへ

たしかな品質 / 合理的良心価格
ご不満のときは交換・解約・返金自由

高級対物主鏡
大口径114mm
の人気機種

決定版114mm
反射赤道儀

注文番号82-001

ニコルスMS-1149

注文番号82-002

ニコルスMK-1149

〔定 格〕

対物主鏡114mmアルミナ
イズ済、斜鏡短径25mm
アルミナイズ(三本足取
付)、焦点距離900mm、分
解能1.00秒、集光力265
倍(肉眼)、極限等級12.0
等星、鏡筒内径138mm、
鏡筒全長940mm、フタ付

〔付属品〕

接眼レンズHM6mm(150
倍)、HM12.5mm(72倍)、
ファインダー5×24mm、
サングラス、木脚(2段
式)、三角板、フレキシ
ブルハンドル

初回金3,000円 円1,500円
分割払金(円)3,000円×9回
分割払価格30,000円
現金価格26,000円

〔定 格〕

対物主鏡 114mmアルミ
ナイズ済、焦点距離900
mm、集光力265倍、分解
能1.00秒、極限等級12
.0等星

〔付属品〕

接眼レンズHM6mm(150
倍)、HM12.5mm(72倍)、
HM20mm(45倍)、写真
雲台、ムーングラス、
ファインダー5×24mm、
サングラス、木脚(2段
式)、ウエイト2個、フ
レキシブルハンドル(2
個)、三角板

初回金5,500円 円1,500円
分割払金(円)5,500円×9回
分割払価格55,000円
現金価格49,500円

カタログ及び注文方法は
次のページにあります……

〒133 東京都江戸川区南小岩 3-7-10 ニコ-技研 74係 03(650)0405

初
回
金 **1** でおて 均等 **10**ヵ月払
金 **10**もとへ

ご不満のときは交換・解約・返金自由



使いやすい手軽な価格 赤道儀式の標準機

注文番号82-617

ニコルスRK-6091A

いま注目の 短焦点、視野が広く 明るい赤道儀式

注文番号82-606

ニコルスRK-6050

〔定 格〕

対物レンズ60mmアクロ
マート（セミコート）、
焦点距離900mm、集光力
73倍（肉眼）、分解能1.93
秒、極限等級10.7等星、
鏡筒径63mm、全長890mm
（接眼部除く）、赤道儀
歯数138枚、赤緯と赤経
目盛付

〔付属品〕

接眼レンズHM6mm（150
倍）、HM12.5mm（72倍）、
HM20mm（45倍）、写真雲
台、ムーングラス、フ
ァインダー5×24mm、サ
ングラス、木脚（2段）、天
頂プリズム、フレキシ
ブルハンドル（長短2
個）、バランスウェイト
（0.5kg 2個）

初回金4,400円 円1,000円
分割払金（月）4,400円×9回
分割払価格44,000円
現金払価格38,800円

〔定 格〕

対物レンズ60mmアクロ
マート（セミコート）、
焦点距離500mm、集光力
73倍（肉眼）、分解能1.93
秒、極限等級10.7等級、
鏡筒径63mm、全長490mm
（接眼レンズ除く）、赤
道儀歯数140枚、赤緯及
び赤経目盛付

〔付属品〕

接眼レンズHM6mm（83
倍）、HM12.5mm（40倍）、
HM20mm（25倍）、写真
雲台、サングラス、フ
ァインダー5×24mm、ム
ーングラス、フレキシ
ブルハンドル2個（長短）、
ウェイト2個、木脚（2
段式）

初回金4,500円 円1,000円
分割払金（月）4,500円×9回
分割払価格45,000円
現金払価格39,800円

今すぐのご注文は

- ご注文番号か品名を紙に書いて、
月賦は初回金と送料を現金書留封
筒でお送り下さい。
- 一時払いは同じ方法で現金価格と
送料をお送り下さい。

あ
て
先

〒133・東京都小岩局48号
ニコ一技研(株)
74係

カタログのお申込は

只今無料進呈中
商品をよりくわし
く知りたい方は、
カタログをお申込
み下さい。
下記のカタログ進
呈券をハガキのう
らにはってお送り
下さい。
無料でお送りいた
します。



カタログ進呈券74係

〒133 東京都江戸川区南小岩 3-7-10

ニコ一技研 74係 03(650)0405

〔苦情相談〕この広告についての商品未着や商品苦情は、ご連絡なく申し出下さい。東京都江戸川区西小岩3-31-11 新井ビル2Fニコ一消費者相談室 ☎03(672)8558

高性能精密器ニコルス

お求めやすい均等／分割クレジット

たしかな品質・合理的良心価格

上下水平微
動の最高級機

注文番号82-615

ニコルスRS-6091A

上下微動装置の
ついた初心者向
きの決定版

注文番号82-613

ニコルスRJ-6092A

〔定 格〕

対物レンズ60mmアクロ
マート（セミコート）、
焦点距離900mm、集光力
73倍、分解能1.93秒、
極限等級10.7等星、鏡
筒径63mm、全長890mm

〔附属品〕

接眼レンズSR4mm（225
倍）、HM12.5mm（72倍）、
ファインダー5×24mm、
天頂プリズム、サング
ラス、木脚（2段式）、上
下微動棒

初回金1,950円 円900円
分割払金（月）1,950円×9回
分割払価格19,500円
現金払価格16,500円

〔定 格〕

対物レンズ60mmアクロ
マート（セミコート）、
焦点距離900mm、集光力
73倍（肉眼）、分解能1.93
秒、極限等級10.7等星、
鏡筒径63mm、全長890mm
（接眼レンズ除く）

〔附属品〕

接眼レンズHM6mm（150
倍）HM12.5mm（72倍）、
ファインダー5×24mm、
天頂プリズム、サング
ラス、木脚（2段式）、フ
レキシブルハンドル

初回金2,300円 円900円
分割払金（月）2,300円×9回
分割払価格23,000円
現金払価格20,000円

二光カタログチェーン

営業時間 AM10:00 PM7:00

ビバ店

ビバ光電店秋葉原店
年中無休

●TEL03(832)0713

広告の商品はビバ店にて展示
発売中！お急ぎの方は、ご来店
下さい。初回金でお持帰りOK！
（印鑑をご持参下さい）



●本書はユニバーズ出版社国内独占販売のため一般書店ではお求めできません。ご購入の場合は、代金を現金書留または振替で直接当社業務部までお送り下さい。なお5日間無料で本書をご覧になれる方法もあります。ご希望の方は資料(無料)をご請求下さい。

国内総販売元

株式会社ユニバーズ出版社

〒110東京都台東区秋葉原3-3アキバビル 振替 東京119478

A black and white photograph of an astronaut in a full spacesuit standing on the lunar surface. To the left, a lunar rover is partially visible with an American flag planted in the ground. The background shows the dark, cratered horizon of the moon.

最大の冒険

ADVENTURE

BRM SELAH 社版

月面と宇宙 アポロ計画 大写真集!

●世紀の大偉業“アポロ計画”の全貌公開。アメリカ航空宇宙局(NASA)提供による驚異のカラー写真119点、モノクロ写真11点があなたを未知の大宇宙へご案内します。

●本書(BRMセラー社版)は横25.5cm、タテ34.3cmの特大版で本文極上アート紙使用、極厚手表紙・カバーつき、総頁数128の豪華写真集です。詳細な英文解説に別冊日本語版(全訳)がつきます。

●科学研究者・天文ファン、学校・図書館等の公共施設はもちろん、ご家庭の教養図書としてもぜひ一冊おそなえ下さい。

定価11,000円(梱包送料600円)

米国直輸入

超豪華版
MAN'S
人類の
GREATEST

望遠鏡

初めての人にはこれだ!!

- ★扱いやすく、便利なズーム式 (30~90倍連続可変)
- ★地上の観測や天体 (月、星座) の観測ができる万能型
- ★持ちはこびが簡単な小型卓上用型式

レンズは本格的
60mmアクロマート使用



注文番号82-691

ニコルR-6098

〔価格〕
分割払価格
2,800円×8回
現金払価格
20,000円千共

●クレーターもバッチリ
入門者向天体の観測にも



●地上用としては最高!
ビックリするくらい
大きく見える!

7倍と14倍
一生の宝になる!



ZM-14 注文番号83-014
高級ズーム双眼鏡

初めて望遠鏡を扱う方に本格的な天体の観測はかなりむずかしいものです。そのため入門者向けに、扱いがカンタンで付属品のいらない望遠鏡をえらびました。地上用としてはレジャーを始め、いろいろの観測に使用、又天体としても月や彗星などの観測に充分な高倍率が得られる用途の広いものです。性能も口径60mmのアクロマートレンズ、ラックピニオン式のビント調整など本格的なもの。そしてワンタッチで倍率が変わるズーム式の迫力はバグンです。

〔定 格〕
口径60mmアクロマートセミコーティング、倍率30~90倍連続可変でズーム式、鏡筒直径63mm、三脚上下調整付金属製、重量1.5kg、全長630mm

スポーツ観戦に…… 彗星発見のガイドに……
ショー観劇に…… 自然界の観察に……

ズームだから万能に使える!

ワンタッチレバーで映像の倍率が7倍から14倍まで連続してわかるこの迫力!自由自在なこのズームによって、そのときその状態に応じていろいろに使わねがでる本格的最高級ズーム双眼鏡!一台備えて一生の愛機となるでしょう。

〔定 格〕
倍率7~14倍ズーム、レンズ有効径35mm、実視界4.40~3.10、明るさ25~6.25、ひとみ径2.5~5、高さ135mm、横巾175mm、重量825g、付属品・携帯用ハードケース、レンズキャップ、ベルト及びシリコンクロス

月づきわずか(分割払金)2,500円×10回
●分割払価格25,000円 (支払期間10ヵ月)
●現金払価格23,000円 (支払回数10回)

お申し込み方法

- 右図のようにハガキに書いてお申込みくだされば現品をお送りします。
- 品物をたしかめ、気に入りましたら5日以内に第1回目の分割払金をお送りください。
- もし、品物が気に入らないときは、そのまま5日以内に返品してくだされば代金はいりません。

郵便はがき

〒111 東京1
私書箱33
ニコー技研L係
48局

●品名
●住所
●氏名
●年齢
●電話番号
●保護者のしよ名と印

※20歳未満の方が注文するときは、保護者のしよ名と印が必要です。
※気に入らないときの返品送料だけはご負担願いますのでご了承ください。

電話注文は、東京03(659)8531 ニコー技研L係へ

〒133 東京都江戸川区南小岩3-7-10

ニコー技研

TEL 03(650)0405

お申込みは
はがきで気軽に

まず品物を見てからきめて下さい。気に入らなければお返し下さい(5日以内)

ご入学

◆MOP高性能天体望遠鏡 (通産省光学検査合格品)

◆MOP本格派双眼鏡 (通産省光学検査合格品)

ご進学

ご卒業

5年間品質保証書付

発売元(INTEL)株式会社インテル
製造元 武蔵光学株式会社

おめでとうビッグセール!

MOP607型

入門用60%屈折型

規格・性能 焦点距離
700mm 有効径60mm(ア
クロマートレンズ使用)
分解能1.9秒 極限等級
10.7等星 集光力73倍

付属品 サングラス
6×24mmファインダー
天頂プリズムHM6mm
H20mm 木製2段伸縮
三脚



特価15,000円
(送料800円)

MOP610型

規格・性能 焦点距離
1,000mm 有効径60mm
(アクロマートレンズ
使用) 分解能1.9秒 極
限等級10.7等星 集光
力73倍

付属品 サングラス
6×30mmファインダー
天頂プリズムHM6mm
HM12.5mm K20mm
バランスウェイト2 フ
レキシブルハンドル2
木製2段伸縮三脚



研究観測用高級機
60%屈折赤道儀式
特価41,000円
(送料1,500円)

先着10名様のみ
ビックリ価格32,000円!
(送料1,500円)

早い者勝ちだよ!!

MOP M108型

アクティブな入門用
100%反射型

規格・性能 焦点距離
800mm 主鏡レンズ有
効径100mm(主鏡アルミ
ナイズメッキ) 分解能
1.16秒 極限等級11.8
等星 集光力204倍

付属品 サングラス
6×24mmファインダー
HM6mm H20mm 木
製1段三脚



特価21,000円
(送料1,000円)

MOP M109型

研究観測用高級機
100%反射型赤道儀式

規格・性能 焦点距離
900mm 主鏡レンズ有
効径100mm(主鏡アルミ
ナイズメッキ) 分解能
1.16秒 極限等級11.8
等星 集光力204倍

装置 直進ヘリコイド
式繰出(接眼レンズ口
径24.5mm用)赤道儀兼
経緯台 微動装置ウォ
ームギヤー使用 赤経
・赤緯目盛付き



特価42,000円
(送料1,500円)

先着10名様のみ
ビックリ価格33,000円!!
(送料1,500円)

今がチャンス!!

●UFOシリーズ

MOP双眼鏡

規格・性能 倍率20倍
対物レンズ有効径50mm
実視界3度 ひとみ径
2.5mm 重さ1,050g
付属品 ハードケース
保証書 使用説明書

全機種特価

6×30 8,500円
8×30 8,800円
7×35 9,300円
7×50 10,500円
10×50 11,000円
12×50 11,300円
16×50 11,500円
20×50 12,600円

高倍率で明るい



20×50 先着50名様のみ
ビックリ価格9,800円
(送料800円)

●ミクロンシリーズ

MOP双眼鏡

ポケットにピッタリ!

8×20()内は10×40

規格・性能 倍率8倍
(10倍) 対物レンズ有
効径20mm(40mm) 実視
界5.5度(7.1度) ひと
み径2.5mm(4mm) 重さ
265g(500g) 付属品ソ
フトケース(ハードケース)



8×20 特価14,000円(送料800円)
10×40 特価17,000円(送料800円)

カタログ無料送呈

当社全製品満載のカタ
ログを無料で差し上げま
す。切手100円を同封し
下の請求券をはって
お申し込み下さい

ご注文方法

広告価格はすべて現金価格です。ご注文の場合は品名・住所・
電話番号・氏名を明記し、現金書留でお申し込みください。

あて先

〒193東京都八王子市小比企町2957-9 ☎0426-25-7941(代表)
(株)インテル 光学事業部UFO係

当社製品の販売代理店を募集します。当社まで資料をご請求下さい。またこの広告につ
いてのお問い合わせは当社調査室(TEL0426-25-7941)までお電話でお願い致します。

カタログ請求券
UFO17

ドカーンと安い!!

★本誌バックナンバー

((第9号までの旧題号は「コスモ」))

★わが国唯一の《空飛ぶ円盤》専門誌「UFOと宇宙」は今や世界のトップクラスを行く専門誌！ 全国のUFOファンに大反響！
★バックナンバーは貴重な記事と写真の宝庫！ 品切れ後はすべて絶版となる。在庫あるうちにぜひ入手し、UFO研究資料として保存しよう！ 今すぐユニバース出版社業務部へ直接に注文しよう！
★1・2・3・4・5・6号は売切れ、絶版。7号・8号は残部僅少！

送料1冊¥160 2~3冊¥200 4~6冊¥240

注・郵便料金値上げのため送料が左記のとおり変更になりました。

第9号(1974年11月発売)¥400

●UFOによる米軍機追尾事件解説 ●スペインに出現した円盤と乗員 ●ジョージ・アダムスキーはまた影を投げかけている ●ゴードン・クレイトン ●地震の鍵をにぎるマントル対流 ●竹内均 ●宇宙・引力・空飛ぶ円盤(4)レナード・クランプその他

特大号

第10号(1975年1月発売)¥360

●銀色の服を着た宇宙人高梨純一 ●科学を曲げる男、ユリ・ゲラー ●ゴードン・クレイトン ●月世界の謎を探る高木正太郎 ●NASAの活動とその未来 ●中村政雄 ●UFO情報 ●UFO目撃レポート ●宇宙・引力・空飛ぶ円盤(5)レナード・クランプその他

第11号(1975年3月発売)¥360

●月面は円盤の中継基地か ●重沢潤一郎 ●ニューヨーク州の墜落事件デッド・ブリーチャー ●UFO情報 ●UFO目撃レポート ●1980年代の宇宙連絡船 ●河島信雄 ●アダムスキー型円盤、尾道市に出現！ ●宇宙・引力・空飛ぶ円盤(完)レナード・クランプその他

第12号(1975年5月発売)¥360

●甲府市にUFO着陸！ ●オーストリアの光るカタツムリ状物体 ●ベルギー ●古代の天空人 ●エリック・フォン・デンニケン ●UFO情報 ●UFO目撃レポート ●科学ニュース ●重力波とは何か ●千葉二郎 ●ソ連圏のUFO現象1 ●シベリアの謎の大爆発 ●その他

第13号(1975年7月発売)¥360

●千葉市にアダムスキー型円盤出現！ ●円盤に乗った宇宙人を見た！ ●炎をふく不思議な物体！ ●UFO情報 ●UFO目撃レポート ●宇宙交通のためのテレパシー ●通信市村俊彦 ●中学生にもわかる微分積分(1) ●三好要市 ●ソ連圏のUFO現象(2) ●ルーマニアのUFO出現事件 ●その他

第14号(1975年9月発売)¥390

●円盤をよく見る人 ●私は金星文字を解読した！ ●バシル・パン・デン・バーク ●マルセル・オム教授の不思議な発見物 ●大気圏外生命体とのコンタクト？ ●実在する超感覚と念力 ●中学生にもわかる微分積分(2) ●ソ連圏のUFO現象(3) ●「ユゴスラビアのUFO出現騒動」 ●その他

第15号(1975年11月発売)¥390

●ステラ・ランシング夫人の不思議な写真 ●ドラギニヤンの怪事件 ●ワルヌトンの奇怪なロボット ●UFO情報 ●聖書の予言とスペース・プログラム(1) ●原子エネルギーの秘密 ●中学生にもわかる微分積分(3) ●ソ連圏のUFO現象(4) ●(続)ルーマニアのUFO出現事件 ●その他

第16号(1976年1月発売)¥390

●三原市の驚異コンタクト事件 ●日本列島は沈没する？ ●(写真)月面の人エントネル？ ●テレポーション ●UFOとテレパシー ●平野威馬雄 ●名古屋上空に円盤大挙出現！ ●聖書の予言とスペース・プログラム(完) ●中学生にもわかる微分積分(完) ●X博士の怪UFO事件 ●その他

※豪華版※ わが国最初の《空飛ぶ円盤》写真集

UFO写真集

—第①集—

絶賛発売中！ カメラでとらえた驚異の記録！
¥1300 千300

戦後世界各地で目撃され、日本にもひんぱんに出現して重要問題となった神秘の飛行物体の正体は？ 全国のUFOファンの要望にこたえてUFO研究界の第一人者久保田八郎が和英両文で解説
★世界のめずらしい貴重写真の集大成
★カラー写真21点、白黒写真33点・大画面
★ワイドな画面からグーッとくる迫真感！
★A4版(21cm×29.7cm)・極上アート紙使用
★美麗カバー付き豪華版・長期保存可能

バインダー

☆☆☆ ¥400 荷造1~2個 ¥350 ☆☆☆
☆☆☆ 送料3~4個 ¥700 ☆☆☆

●1カ年6冊分一括保存用必需品
●極厚手表紙、布装、表面背共金文字箔押。本社宛直接ご注文下さい。

■当社刊行物が書店にない場合は、振替・現金書留・小為替・低額切手等で当社宛直接ご注文下さい(収入印紙は不可)。代金あと払いの注文はおことわりします。

●最近、住所不明で返送される郵便物が増えています。ご注文の際は必ず郵便番号・住所(アパート名なども記入のこと)・氏名・電話番号・注文品名・号数・冊数を明記して下さい。ユニバース出版社

●UFO目撃報告と写真を募集
UFO(未確認飛行物体)の目撃報告と写真を募集します。左に掲げた各項目を参考に、なるべく正確な詳細な報告をお送り下さい。掲載された分には、お礼を申し上げます。写真の場合は、できればネガもいっしょにお送り下さい。ただし本誌に掲載後に偽作であることが判明した場合は、責任を負いませんので、その点をあらかじめご了承下さい。その他、各種新聞雑誌などに掲載されたUFO関係の記事・写真類の切抜きも歓迎します。

●UFO目撃報告用参考事項
(1)目撃者：住所氏名(できれば本人の写真添える)、年齢、職業(学生の方は学校名・学年)、電話番号(匿名を希望の場合は本名明記の上、その旨を付記すること) 同時目撃者の有無、その他。
(2)目撃場所：地名、付近略図、時刻、天候、目撃継続時間、その他。
(3)物体：飛行物体の形(スケッチを添えること)、大きさ、色、その他。
(4)飛行状態：仰角、方向、飛行中の形態の変化、飛行中の色の変化、飛行中の光度の変化、推定速度及び高度、その他。
(5)観測機器：使用の場合はその機器名、性能その他を付記する。
(6)撮影用具：カメラを使用の場合はカメラ名、使用フィルム、レンズ名、絞り、シャッタースピードその他のデータを付記する。

注意：UFO目撃報告に添付された写真は、信憑性を高めるためにそのまま掲載しますから、厚目の白い紙に黒インクで黒ボリペンを使用して描いてください。(ケイの入った便箋紙は不可)

送り先：東京都台東区秋葉原三の三、ユニバース出版社UFO資料調査部 アキバビル

●UFO関係記事の原稿も募集
四百字詰原稿用紙一〇枚(四〇枚まで。採用分には稿料をさしあげます。

Across the Editor's Desk

★本号でまたも放つ大ヒット！
Aポロ計画による月面写真中のUFOの出現！ 雄大な壮観の陰に秘められた意外な事実を人々は、何とみるでしょうか。関係ない？ いや、ある。地球の衛星たる月に大気圏外が基地を有していたとすれば、地球にも何らかの影響を及ぼしていたと考えられる重大事です。もし進化した善悪ある惑星人の接近だということになれば泥沼のごときこの絶望的な惑星地球にも一条の救いの光明が差し込んでくると思えるから。疑惑・臨陣・殺戮等の満ちたもの、地球の同胞か？ 進化した友星人か？ けれどUFO問題が重要きわまりない意義を帯びていよう。ここにありま

★その意味でユニバースUFOシリーズ第二弾「宇宙からの訪問者」は深遠な内容をもつ万人必読の永遠の古典です。この改訂合本決定版をぜひお読みください。それなりの報いはあるでしょう。(K)

UFOと宇宙 一九七六年四月号 第17号

編集発行人 久保田八郎
発行所 株式会社ユニバース出版
〒110 東京都台東区秋葉原三の三
電話(255)8784(代表)
振替・東京1119478
印刷所 大日本印刷株式会社
昭和五十一年四月一日発行
(隔月刊・奇数月一十号日発売)
定価三九〇円・送料一六〇円
年々増える講義料・送料共三二〇〇円
(地方の書店で入手できない場合は本社へ直接ご注文下さい)
●本誌掲載記事写真の無断転載を禁じます。
●海外の記事はすべて翻訳転載権取得済。

スリーピーチUFOシリーズ

・UFOシリーズは正立像です。天体用(倒立像)はUFOシリーズより価格が安く成ります。

No.MTZ40S アクロマートレンズ
口径 40mm
倍率 ズーム変倍
15×~40×
¥9,000
送料 ¥600
(¥7,200)



性能 1.93秒・10.7等星・73倍

No.ST60A-UFO アクロマートレンズ
D60mm F800mm
倍率 100×
44×
上下微動装置
特価 ¥18,000
送料 ¥1,000
〔天体地上兼用〕



性能 1.93秒・10.7等星・73倍

No.ST63A-UFO アクロマートレンズ
D60mm F1,000mm
倍率 125× 55×
上下微動装置
特価 ¥19,500
送料 ¥1,000
〔天体地上兼用〕



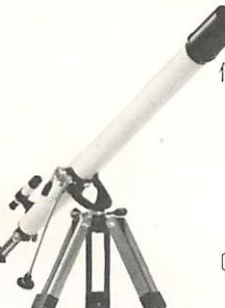
性能 1.93秒・10.7等星・73倍

ビクトリー701-UFO アクロマートレンズ
D60mm F700mm
倍率 114× 56×
上下微動装置
水平微動装置
特価 ¥25,800
送料 ¥1,200
〔天体地上兼用〕



性能 1.93秒・10.7等星・73倍

No.ST67A-UFO アクロマートレンズ
D60mm F1,000mm
倍率 125× 50×
上下微動装置
水平微動装置
特価 ¥30,500
送料 ¥1,200
〔天体地上兼用〕



性能 1.93秒・10.7等星・73倍

グレートビクトリー700-UFO
屈折赤道儀 アクロマートレンズ
D60mm F700mm
倍率 117×56×
経緯微動装置
経緯目盛環
特価 ¥35,800
送料 ¥1,200
〔天体地上兼用〕



性能 1.93秒・10.7等星・73倍

No.ST1000-UFO アクロマートレンズ
屈折赤道儀
D60mm F1000mm
倍率 167× 80×
40×
経緯微動装置
経緯目盛環
特価 ¥43,800
送料 ¥1,500
〔天体地上兼用〕



性能 1.93秒・10.7等星・73倍

No.SST600 アクロマートレンズ
屈折赤道儀
D60mm F910mm
倍率 150× 73×
45×
経緯微動装置
経緯目盛環
特価 ¥42,000
送料 ¥2,000
〔天体地上兼用〕



性能 1.93秒・10.7等星・73倍

No.SST76 アクロマートレンズ
屈折赤道儀
D76mm F910mm
倍率 151× 73×
36×
経緯微動装置
経緯目盛環
特価 ¥55,000
送料 ¥2,000
〔天体地上兼用〕



性能 1.5秒・11.2等星・118倍

No.SST80 アクロマートレンズ
屈折赤道儀
D76mm F1,250mm
倍率 208×100× 50×
経緯微動装置
経緯目盛環
特価 ¥62,000
送料 ¥2,000
〔天体地上兼用〕



性能 1.5秒・11.2等星・118倍

プリズム双眼鏡(アクリルマウント・ケース付)

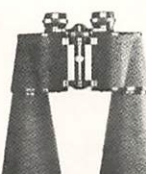
← **No.SB1030** 倍率10× D30mm
特価 ¥8,000 送料 ¥500



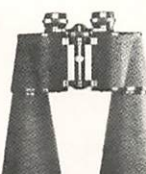
← **No.SB1050**
倍率 10× D50mm
特価 ¥11,000
送料 ¥600



← **No.SB2050**
倍率20× D50mm
特価 ¥12,000
送料 ¥600



← **No.KB3070**
特大型高さ26cm
倍率30× D70mm
特価 ¥33,000
送料 ¥1,000



()内は学生特価
くわしくは 切手300円
同封の上、総合

カタログNo.12

お申込み下さい

屈折式望遠鏡
反射式望遠鏡
望遠鏡部品
双眼鏡
顕微鏡

〒121東京都足立区
平野3-7-17

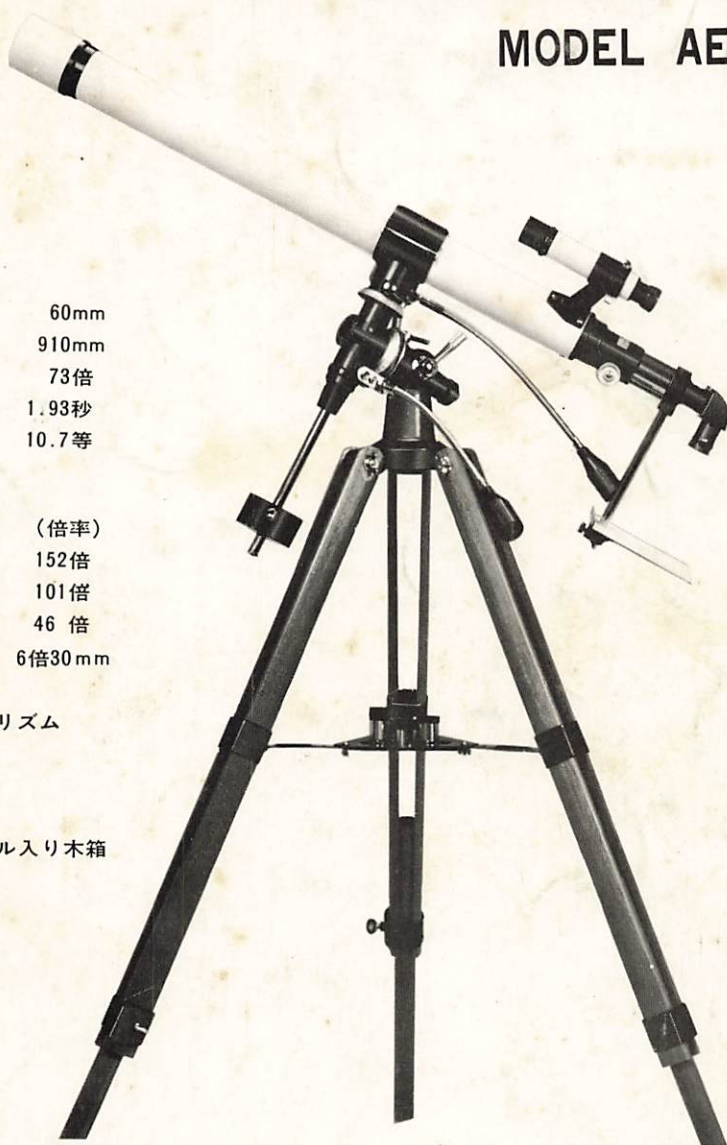
K.K.スリーピーチ
サービスセンター
UFO係



サテライト天体望遠鏡

60mm屈折赤道儀

MODEL AE-61



●光学的性能

有効径	60mm
焦点距離	910mm
集光力	73倍
分解能	1.93秒
極限等級	10.7等

●付属品

接眼鏡	(倍率)
HM-6mm	152倍
HM-9mm	101倍
H-20mm	46倍
ファインダー	6倍30mm
天頂プリズム	
地上用正立プリズム	
太陽投影板	

格納箱

発泡スチロール入り木箱

ヤマモトの天体望遠鏡は海外で絶賛を博しております

メーカーからユーザーへ！
通信販売のお知らせ！

●上記の他各種あります。詳しくは115円切手同封の上カタログをU係へ御請求下さい。

株式
会社

山本製作所

東京都板橋区大原町5-3
電話 966-2408 郵便番号 174